

經 営	1 5 2
經 済	2 8

アテ林業地の搬出技術きき取り調査

昭 和 43 年 7 月

農林省林業試験場経営部

編集まえがき

これは林業技術とくに採取技術についての経済的研究に関する現地調査の一環をなすものである。

採取技術の経済的研究も、わが国林業における全体の採取技術の発展をおさえる研究を一面つづけ、片面では、その技術段階を画すると思われる。3~4の技術をとりあげて、これをとりまく山村社会の生産の諸関連、技術を成立させる諸条件をさぐり出し、それを定立していく研究が必要とされるのである。これは後者の研究の一端をなすものである。つまりわが国林業の採取技術における3~4の重要な技術の1つにあたる。林業技術の下端の極限的位置にある人力搬出技術の今日的実態と意義を見出さんとするにある。

この場合これの全体的研究をすすめるために、各種の文献調査、きき取り調査を行なわなければならない。ここではこのうち人力搬出のきき取り調査を整理、編集した形で資料としたのである。

特異な林業労働が存在することは、その労働に従事する林業労働者をつつむ社会的基盤を探らなければならない。そのため部落調査によって、打出母体である部落構造——例えば部落における身分支配関係など——を十分ではないが知ろうとしたものが、先ず第1部に述べられている。それにつづき木材市場の規模を知るために、製材所および森林組合の流通事情を聞いたのである。そしてカッギ労働のきき取りに及ぶのである。

なお部落調査に2部落を選んだゆえんは、かつての「山村経済実態調査書、林業労働篇第3号」(林野庁、昭和28年度)では、部

落によって労働組織に若干相違のあることが指摘されている。それと、村内の地域差による林業依存の度合、逆に労働への依存の度合等の差によって、カッギ労働について影響があるかどうかを知るために、村の中心に近い、林業労働者の多い興徳寺部落と、やや農業依存を高くし、山に近い中部落とを選んだのである。

またきき取り調査を資料にしたということは、たんにこの研究ばかりに、この資料が寄与するのではなくて、この内容自身を再録させることにより、山村経済、社会研究上の価値があると判断されたからである。勿論十分なきき取りが出来たわけではないが、他の農山村研究に部分的にでも参考になれば幸いであるというねらいで、当部研究資料として印刷したものである。

凡例的注意を述べると、

- (1) ?印は発言者が不明の時の印、
- (2) 項目外のことがらでも、当該項目に入っていることもある。
- (3) 発言者記号は第1部、第2部別々である。

なお、第1部は昭和40年10月21～25日、石川県輪島市三井の各所で、第2部は同39年2月27～28日、同じく輪島市三井、三井森林組合でテープに吹き込んだものであって、それを要約編集したものである。

石川県林務課、輪島林務事務所、三井森林組合、きき取りの方々をはじめ関係者に感謝申し上げる次第である。

昭和43(1968)年7月31日

林業試験場経営部

経済研究室

小、林、裕

目 次

編集まえがき	頁 /
第1部	7
1. 興徳寺部落区長の話	9
興徳寺部落の組織	9
共同作業(1)	12
番当付き部落	14
部落財産など	16
部落の仕事	18
農業経営	21
森林組合と部落	22
農協と部落	23
電燈料金集金と部落	24
共同作業(2)	26
区長のみた林業労働と林業経営	33
社寺と部落	42
対策委員会	42
2. 中部落区長の話	43
中部落の仕事	43
部落の財産	52
社寺と部落	53

冠婚葬祭の費用	59
他の部活機能利用	61
区長の選出方法	61
役場への交渉	62
農林業研究会と部落	63
農業の機械化の現状	70
農協について	72
農地解放の影響	74
林業労賃について	76
3 元魁材所工場長の話	79
Y魁材所の発足	79
息子の経営	86
三井林業のえつの途に対する工場長の考え	95
4. 三井森林組合の話	99
三井林業の展望	99
農業構造改善との関係	109
技術の話し合い	111
カツギの将来	113
木材流通	116
林業の調査	119
専務の見た森林組合の現状と将来	121
組合の木材扱い方法と量	123
5. カツギ労働者の話	125
カツギ労働者の組(グループ)	125
カツギ労働者と農業経営	126
カツギ労働のかわりになるもの	126
カツギ労働と世代	128
労賃について(1)	129

カツギの苦しさ	131
グループの中の責任分担	132
O氏のカツギ労働への背景	134
カツギ労働の技能の重点	135
カツギの分布	138
メンバーの内容	139
労賃について(2)	142
カツギの調査	144
林業労働の習慣	145
農地解放	146
第 2 部	147
1 社中について	149
2 機械力への移行	166
3 一丁場	167
4 出材の流通事情	178
5 コロカツギと林業技術	182
6 コロカツギの方法	191
7 林業労働と農業	199
8 コロカツギの経済性	201
9 森林組合労務班	203
10 三井の林業労働一般	216
11 森林組合の最近の問題	221

第 | 部

1. 興徳寺部落区長の話

(40年10月21日、石川県輪島市三井同部落D区長の話で、
同氏は田1.2町、畑2.7反、山林9.2反所有。)

興徳寺部落の組織

問 部落では1月1日に改選になるわけですか。

D ええ、そうそう。任期は1年間。

問 それで、今年のことで結構ですけど、区長としての仕事をどう
いう風になされる訳ですか。

D 私のところは、区長の仕事といったら、番頭(連絡員)を全
部区長さんがしてやる訳です。

それでね、だいたい市役所関係か、森林組合関係、農協関係、
それからまた社寺関係とか、それから神職関係とか、そういう
ことまでも全部区長がやらなければならない。そうすれば神主
さんの方から、いついつの日はどこそこに祭があるから米3合
なら米3合と、金なら……。今迄10年来そうやってきてい
る。

だけど市役所関係は、だいたい1日に2通から3通くる。ほ
とんど1年を通じて、こんだけ……。

問 それは支所から来るのですか。

D 本庁から来るのです。ここの電燈料金なんかも。

昔はやっぱり暮に相当いたけど、今は殆んど昼なんか家に居
ないですよ。だからやっぱり御飯食べる前に行けば、やっぱり
居ります。

仕事をするにはやっぱり無理があるから、委員会というもの、対策委員という、そういう面の委員会がある訳なんです。意を要する場合は対策委員を通じて、構成も出来ているわけです。

問 対策委員会とっているのは、この部落だけですか。

D 他の部落は分らんです。私のところはそういうことになっていきます。

問 対策委員会というのは、今メンバーはどういう方ですか。

D だいたいメンバーのことは、部落としても間に合う人はいないんですよ。だから代表してという訳にもいかないし、面倒でも君がなってくれやとって、はじめてなる。

1年の1月中には、最初の初会議もやる訳だね。部落全部を召集して、そこに初寄合という、そういう形のものを作って、初寄合でだいたい1年間のことを通じて、決める訳だ。そうすりゃ区長さん、隣保班は誰々という風にきまる。

それから対策委員の場合は、対策委員を召集して、やることになっているのです。

問 じゃ今年の場合は対策委員に選ばれた方はどういう方ですか。名前をいって下されば、どの人が対策委員で、また林業労働をやっているやるとかということが分って参考になります。

D その他に区長さんと生産組合長と、それから現在市議会議員になっている人がいる。

それからその他に前区長さんはHさんですね。それから生産組合長のNさん。

問 これは自動的に決まるんですか。選挙ですか。

D その人たちがだいたい幾人もの長として参加している訳です。各班から選考委員を立てて、それでだいたい選考委員が決める訳です。

それから水利組合というのがあるんです。今、ここに2箇所あるわけだ。また別に用水池のも最近出来た訳です。1つの水利組合は10年位たっているのではないか。それから1つのは今年はじめて出来た訳です。そしてそれを合して1つの水利組合としとる。

その水利組合長はH、それから市議会議員のNさん、息子は森林組合職員。それから今年の区長の私と、そういう構成になっている訳です。

問 Tさん、Fさん、それから生産組合長さん、Nさん、今の区長のDさん、市議会議員のNさんとそれから⑤さん、B製杖屋さん、それからKさん、Kaさん、Nさん、それから前区長のHさん、それからFさん、水利組合長のこれぐらいですか。

問 更にこの興徳寺の中にまた班があるのですか。

D 4つの班があります。それに隣保班がある。私のところの班を結局D班といい、私、今年兼務しております。

問 隣保班と区の関係はどうなんですか。

D 区の中に都会でいうと、皆だつたら隣組だった時に1班、2班、3班とかいう形式のものを、今まで続けてきている訳です。それで私がこれはどうしても隣保班長さんをお願いしてやりましょうという仕事があれば、班長さんのところに連絡してあげてこういう仕事と、こういう仕事がありますから一つよこして

くれというと、そういう場合、隣保の班長さんがその班を掌握する。

問 区をささえている班というような、小さな区というそういう考え方ではないのですね。実質的に昔から作っているものであるのですね。区というとどちらかというと、役場の行政的なものの一つの末端の補助機関みたいな形に、役場では見ている訳ですけど、隣保班というのは、末端の部落の人達がこれは4つに分けたが良いだらうということ、きたのですか。

D これは昔からこういう4つの各地区になってきている訳です。それで、この隣保班長さんという人は大抵区長のお手伝いというような形になる訳なんです。それで区長さんが言わなければ、隣保班長さんがしてくれんちゅうことです。

各班をとり集めて申し込んできてくれということになれば、隣保班では早速自分の班を廻って、そしてどんな風で何戸位頼むぞと、そういうのを取りまとめて、そして私のところへ持って来まして、そうしたらまた私はそれを取りまとめて、今度は市役所の方へ持って行く。それから各部落に全部区長がおり、それが区長会というものを作ってるわけです。そして区長会を出し、とも再構成している。

輪島市全域のものもあるわけです。会長がこっちにもどって、三井地区がだいたい5〜6回位やります。そして1年間の区長会というものを結局ここでとるわけなんです。

だいたい年間通じて寄合いを開くことのほか予定はないが、あんたには一寸分りにくいかも知れんが、農業関係の用水とか、全部普請つまり共同作業のことで、結局出た人は米相場にして男の人で1日3升、出た人は出ない人からもらう。そして年間通じて道路のは戸と地価とある。

問 戸とは何ですか。

D 戸とは道路とか、そういうのを言っています。戸普請のことです。

それから戸普請ということは田の用水とか、用水堀りをする場合は、今日は用水堀りだという場合、これは地価でいくわけだ。

問 米3升というのはどういう程度になるんですか。

D それは、だいたい地価の普請の人数の、今年は何百何十人という場合は、米3升到り掛けたら石数が出てきます。それでその石数を今度は地価で割ってもらう。そうすると私のところは300地価があるという場合、今度はその地価で掛けていく訳だ。それでちゃんと私の地価のあたり分は出るわけだ。そしてとも角年間通じてなら、2,000円の、3,000円の地価がたつたと、それで私の方で賃金何回とつたと、それを差し引きして自分の分をきめる。そういう複雑なものだ。

問 半面合理的かも知らんね。

D 私のところの部落なんかはともかく地価普請ということになったら、屋敷も、山も、田んぼも全部総地価ということになる。そして、どんな仕事、どこそこでどういう仕事は、これは地価

の仕事だという場合は、総地価にかかる訳だから、だから終戦直後では仕事が殆んど毎年毎年あった。

番当付き部落

問 共同のことでしかやらない訳ですか。個人の家が行なう場合は関係ないんですね。

D それは関係ないです。それはやはり区長さんが、「今日は何々をします……だから出て下さい。」それで結局指図した番当というのが廻ってね。番当というのがいれば、その人を連絡員に使ってする。区長さんは結局番当の仕事もしなければならぬ。あらゆる仕事をしなければならない。

問 全部番当という人は、番当の仕事を持っているんですか。

D いやもっていない訳だ。

問 つまりその区長さんは、いつもトップにいてマネジメントをしている訳ですね。その書記みみたいな仕事をするんですね。

D 連絡員とかそういう人は、対策委員もしてもらいたいという場合は、これは区長さんの方から云えばいいが、あの人達はなかなか云えないでしょう。だからやっぱり殆んど区長がやる訳だ。

そして年間を通じたものを、今度は区長さんが記録しておく訳だ。そして今度は12月に入って20日過ぎれば、結局これを決算して、米2斗もって来いとか、結局は2斗分働いたとて、その米をお金に換算する訳だ。その時その時の米相場で結局本当は等外米、今の3等以下の値です。

問 そういう複雑な仕事だと、その記録なんかはあるんですね。

D それは全部記録しておく訳だ。区長が計画すると自分で決めて、私が仕事にも出ていく。そうすりや皆出て来るでしょう。でその記録を私がするわけだ。

問 じゃ、番当さんて何するんですか。

D 興徳寺には番当さんがない、全部区長がやる訳です。その代わり今度は1戸につき米2升き、1年間に番当賃というものとして出すわけだ。

私のところは番当付きといって区長に殆んど番当が付いている訳です。

問 ああ、なる程番当付きというのは、つまり番当さんの仕事を区長さんがやっている、ということですか。

区長さん大変ですなあ。

D 米なら、男1人なら3升なら3升と、そしてそれを合計したものが……。

問 それは決算時の米の価格で直すのですか。

D 決算する時に、例えば1月の末の値段と、極端に云うと、今年の米の3月の値段と12月の米の値段と違いますね。今年の供出の値段できめます。供出の時の決算する人が今年はこれは150円にしましょうと……。そして区長さんに「今年は150円でどうですか。」といったら、「ああいいでしょう。」と、それで米全部150円の計算に分けて出す訳です。これは区長は全部自分が番当して、そして出た通り、ここに全部記録していて、今度はこれを決算に出す訳や。そして部落として使った

金を今度は区長さんが立て替える場合もある訳です。普請をした時、酒を5升飲んだとかを立て替える。

部落財産など

問 区長さんの名義というか、とに角区の諸雑費の貯金通帳とか、農協に預ける通帳とか信用金庫とか、そういうものを持っていない訳ですか。

D だいたい1年間の部落の基本財産みたいなものは、多少あるのですが、それは1年間区長さんにお任せします。信用に於てもね。

だからやっぱり区長さんも誰彼という訳にもいかんのです。やっぱり相当な信用と財産がなければ、どうしてもその金なんか使われてしまったら終わりです。だから1年間だけそいつを信用して区長さんにお任せしておく。

そういう形です。それで今年は私の部落は今年年間通じて、この区長の立て替え金というものはものすごくあるんです。

問 どの位なのですか。

D 去年のことは一寸私には分らんのですが、今年は合計出していないけど、現在6~7万円立て替えたことでしょう。

それで今年から駄目だと、今まで金の面も大きくなるし、それから経済面も広くなって、あらゆる区長さんの立て替えというのにも相当苦しくなってくるから、6月1回部費を集めたらどうかと、そうしてだいたい6月一杯に、今年は私の部落でこれは全部支払い済みである。その合計は、だいたい56,650円が

集金してある。結局対策委員の方が、だいたい去年の係の8掛を2で割って、一部その金額である。この金を6月に預けて、それが結局12月の決算に行なった場合で、そのSさんという人が結局2,800円納めているわけです。それで、いよいよ12月の決算を行なって今度は5,000円になったとすると、今度はここに2,800円という金を納めてあるから、その差額の後の残金を今度はその決算のときに納めて欲しいということになる。

U (地区AG) それでなんかね。区長さんの報酬、それから番当の報酬、これ2つ合わせると、興徳寺55戸ありますが、いくらになりますか。

D 私のところは、区長手当というのは米3石と、それはその時の米相場です。番当は結局1戸から米2升です。

問 3石とか、米2升とかは毎年決まっている訳ですね。

D 決まっています。先週末50戸位だったから、1石とこの場合興徳寺の場合は1石+3石ですね。

戸数が男が140で女が139人で、去年の戸数でね。それで1戸や2戸はどこでもはっきりしないのがある。やっぱり部落としてあんまり正式に入れていいのか分らんのもいる。

問 それは、やっぱり生活扶助着とかですか。

D 生活扶助ということはないですが、純国籍というのは難かしいのもある。

興徳寺の部落にまぜてくれという場合は、部落に基本財産があるでしょう。そいでそんなら金なら5,000円とか、酒なら

5升とか買うとかして、結局お願いしますとくる訳だ。

問 基本財産に対する分担金みたいな意味でもって来るわけですね。

基本財産というものはどういうものなのですか。

D 別にそんなでかい財産ではない。山で10年もたったク反歩程の植林してある。あれが本当の部落の山の財産です。あと1反の田圃が少しある位でね。

昔はお米でおもらいして祭なんかで酒買うてね。

問 今、その田圃遊ばしている訳じゃないか。

D それは昔から作っている人が放さないわけだ、小作権で。だけれどそれはしかし区のですね。

そして事業があつた場合は、今年はあそこのポンプの、その都度、その都度集める。昔はそういうのを割付^{わっふ}と叫ぶ。割り付けのことだ。

2回にする必要ないと1回にしましょうと言うて、今度は1回に全部決算してしまう。

部落の仕事

U 3年も5年も続ける人はおいでんかい。

D 3年も5年も続ける人は気の毒で、そういう人はいない。決算を、それからあれだとか、これだとか色々な会合がたく山ある。家にいても、1年間何をしたか分らない。決算の時は部落から酒1斗が出る。しかしながら区長以外の人は無料車仕というような形らしい。区の仕事は役場の仕事がかかりを占めてい

る。多い時には役場の通達が1日に2通、3通と来る。

問 普請とは結局本当に部落でもって自発的にやる仕事なわけですね。さっき一番最初に、森林組合、養協のこと、それから市役所、それから仏事、神職といわれた訳ですけども、その他に電燈料金を徴収する。その他部落の中の共同作業の仕事というのがある訳ですね。これは役場からの通達でもないし、区長を中心にしてする部落の中でやる仕事ですね。

D 大体、年同行事として用水の土を掘るとか、草を刈るとか年間通じて、いつ刈るかという日は決っている訳です。いつするかという日は、それは区長の頭に入れていて、一日早まる場合もあるし、6月中なら6月中に草を刈るとか、それから4月なら4月……。

問 それは共同でやらなければならない所があるんですか。

D 全部殆んど共同だよ。用水関係、この部落の田んぼのね。

問 用水といったら結局生産組合がありますね。あれの方の仕事ではないのですか。

D 生産組合は今あんだのとこで供出の予約を何ぼしますかとか、それから今泥虫が来たとか、共同防除をするとか、そういうような仕事をする訳です。結局養協関係に通じたそういう仕事をやろうという。それは区長と別個で。

問 やっぱり用水ということは、水田なら水田と、結局関係ある生産手段と考えたら、その草取りをする場合は、農事の方と直接関係ありそうな気がしたもんですから。

D それは、田んぼの仕事は各個人がやる訳だが、一斉防除とか

そういう共同でという場合は生産組合は農業について……。

今年は一斉防除はだめで各個人でしましょうという場合は、あつせんは生産組合長は農協と何とかして下さいという。山は何人としてやれと。

今年だいたい一斉防除なんか殆んどなかった。それで一斉防除するというのは、色々の事情の人がいるし、田んぼの中に入る人は相当の達着な人でないと入れんでしょう。それで一斉防除というのはなかなか出来にくくなる。それでその家にかあちゃんだけしかいないと、どこを探してもこの人しかいないということになれば、これは認める。今日は一斉防除やりますから、一つ一番家の中できつい人が出てくれと、力のある人が出てくれという。しかし1日で、この次は御免だぞというような始末。そういうような始末になってね。それじゃ共同の防除なんか一寸出来にくくなる訳や。やりたい人はやる、やりたくない人はしない、色々様々だ。だから共同作業ということはなかなか至難なことや。それは共同田んぼの反別の余計や少ないということはこれはいいですよ。

きつい人がなかなか出てくれぬとそして今度はかあちゃんを出すような横着な人が出てくる。女ばかり集まっても何が出来ると、女というものは同じような事は勤がにぶいもんでね。仲々そういうもんをせん、それで男が居って指図してお前はこれをこうせ、お前はこれをこうしろというふうになれば、それは女の人がやるけれど、勤を動かしてこれを起こして、そういう女は余計居らんです。

農業経営

問 この頃はちやん農業という形のところも出てきている訳ですが。

D そういうところもありますけど、私のところなんかは親父さまが百姓を置いて、そして出稼ぎに行つて、かあちゃんが田んぼをやるという家は、興徳寺には余計居ないわ。いないということは今まで出稼ぎということをしていなかった。それが出稼ぎに出ても、今までの労働がないでしょう。だから良い仕事があつて出稼ぎに行くのやといつて、ある人に誘われてゆくでしょう。それで行った場合は、今年はもう出稼ぎに行つてゴリしたと、出稼ぎとは駄目なもんだと、そして出てやったところが、こきつかわれて出稼ぎやめたと。そういうふうに思うんやね。だからそれは今までそうしたルートというものになかったということになる。それでいいルートがあつて行った場合は良い仕事が出来るとなる。そうでない場合は余つた仕事の、一番嫌な仕事をさせられる。それで金は一番少ない。だからやっぱり出かせぎいやだと、それから^{すず}珠州とかそれから今輪島市になった^{なじみ}前志見とか町野とか西保なんていうことになれば、これは何十年前から、男衆なんか冬になると、皆出て行くがそういうルートをもっている訳です。だから輪島市に通じていても、出稼ぎに一番出とらんのは三井の方だ。今までの実績がなかった。それで一寸今出てもいい口が見つからない。仕事はあつても、そこに入つて突っこんで仕事をする場合は、やっぱり奴隷扱いにされる。それで行ったことは行ったけれど、もどられま

せん。恰好悪いし、人は哭うから涙を飲んででも、やって行こうというふうな形です。

リ 森林組合自体もやっぱり労務者を町村以外に出したくないという方針が指導層にもあるのでね。だから労務班を組織してやっとする訳です。

森林組合と部落

問 さっきの話で森林組合ではどういう仕事の主なんですか。

リ 森林組合は春になれば、春植えの苗木を欲しい人は、森組に申し込む人があったら連絡してくれ、というような仕事をしている訳です。それからまた森林組合にこういう講演会があるとか、そういうもんに出て聞いてもらいたいというようなのです。そして区長は番当のいるところは番当を通じて、私のところは番当を通じて、私のところは番当さんは居ないもので、私が出て行く訳なんです。

そういうような関係を、殆んど森林組合の方は区長さんを通じて出している訳です。結局森林組合さんにもある程度使われると、とくにやる場所がない。やっぱり区長さんということにやっていかなければならない。

リ それで三井地区は、非常に林業関係には区長さんはじめの多くの方が協力してくれます。

問 興徳寺と他の部落では違いますか。

リ いやそれは番当を区長がやるか、やらないか、やらんかとその程度。

問 それから部落のふんいきというのは、違いますか。

リ 仁行^{にぎょう}なんかこの普請ということは無いわけです。大きい部落でしょう。それでどういうことをやっているかという、結局予算を組んでいる。そして年度の予算を出して、普請なんかということは私達の部落から見れば、各地区ごとやる。用水掘り)……。

農協と部落

問 農協の方の仕事はどういうんですか。

リ 農協さんは余計はない訳だ。余計は生産組合さんがいるから。農協さんのくる場合は、農協合併というのが出来て、一応この前月前だったか、その時には区長さん、それからあらゆる人が出て、区長さんだけでないけれども、それで農協合併について県の方からも、市の方からも来ている話が出た。最後は組合さんが、部落座談会をやって欲しいという。だけどやって欲しいと云ったって、そんなら農協は部落座談会をやるということについてそんなに拘束しないわ。多少の経費はかかるだろうけど。

問 農協を合併するということですか。

リ 輪島市の農協を合併するということで、だいたい合併することに決まったんや。

問 そうするとそうなる訳ですか。

リ いやいや農協がなくなる訳ではないですけど、輪島市の大部分がノ本になる。これは、どうしても生産組合長に話しても

具合が悪いという場合は、区長を通じてすることになる。農協ということになれば、殆んど生産組合が主体となってやっている訳です。

電燈料金集金と部落

問 そうすると林業と市役所の仕事とそれからお寺の仕事と、神社の仕事と、それからこの組合自身の部落自身の共同作業みたいな仕事と、これまた沢山ある。それから電燈会社の仕事と、どういう形なんですか。外燈代を取るということは都会でもやっている訳で、話は分るけど。

D 電燈料金は結局最初電燈というのはなかったが営利会社なので、1枚の紙で4円とることになった。私の家でも2枚です。

あの動力と家庭の電力で、集金だけです。私の部落は94.5枚です。今年の区長で、しかしこんなもん区長にやらせとったか。4円とは言語同断だということになり、そんなら預けられんといつても、今までの区長さんもよう骨折ってもどうすることも出来ず、ここまできているのだから、結局集められるということはやむやににして、一応もう少しその値段をあげてもよい。

ここにYさんという人がその電気料の丁度代理店をやっている。この人がまたサービス・ステーションかの仕事をしている。それは興徳寺だけでない。三井全部をやっている。そんだったら今度は区長会としてはどうする。そんなのはどうしろ、こうしろいつたつて、お前さんは行ってYさんと話して、時代が時代

だし物価も上って来た訳だ、もう少し増して10円にするか、15円にするかという話になった。10円ということはこれは一寸きついと、4円上げて8円にすることになった。

問 それは電気会社が出す訳ですか。

K(森林組合) Yさんが電気会社からそれを請け負って、Yさんはそれを8円にしたなら20円になっているか、15円になっているか、それは分らん。Jさんのところは農協がそういう仕事をやっている。

問 それは電気会社の支所みたいなものでなくて、Yさんという人は普通の商店ですか。

D 商店です。その電燈がついた時に、このYさんという人が、ここの銀行の本^{じやう}江という所に銀行の支店長をしておったのです。それでその人は特に電気会社の専務と相当に親しかつた訳だね。部落の区長さんがどういうことをいったかという、電氣をつけ てくれ、頼むと。そんなら電氣はつけるが、今後の電燈料金は区長さんが集めてくれるかということになった。電氣のついた時は昭和11年か、そんなもんだ。30年前です。

問 30年前に決めたことをまだやっているのですか。

D そんな昔のことをそれは駄目だといって主張してやれば、やれないこともないけど、結局このYさんという人がやっぱり三井の人で、現在輪島市の助役をしている訳だ。いや助役じゃなく収入役。それでその人がやっておったんだけど、現在息子に権利を譲ったような形でだ。

K そういうものは、恐らくYさんはある程度そこに甘いものが

あつて、その権利を主張してやっている。会社にしてもそうだろうし、Yさんがその権利を誰さんというそれもあるんだ。ただこれは悪いことではないですよ。

D 区長がそんならYさんを攻撃して、Yさんとけんかしてこれをピンハネだということなんですよ。それはまあ個人的に区長があたつてということになればいやでしょう。だからやっぱり……。

問 大分分つてきたんですけど、その区長さんのお仕事の中で、一応区長さんの側として今年の今までの組合から伝わった連絡事項で、箇条書きになつたような形で、市役所のなら、1日2通も3通も来ると大変なんだと思いますが、森林組合のをここに整理してあつたら知らせて下さい。

共同作業(2)

問 それでは共同作業の方は戸普請の方は分つたんですが、地価普請の方はまだ分らないんです。戸普請の方は今まで5回あつた訳ですね、今年の分は。しかし地価普請の方はまだ分らないのですが。

D 地価普請は賃賃価格で……。全部一番最初に結局パーで用水をあける訳ね。それがオノ回の4月の用水掘りだ。これが本当の用水の基礎です。

問 これを合計何人位使っているのですか。

K 全部やるので、30戸位出ているでしょう。

D これが一番主なのですからね。それから5月15日というの

は、オノ回の用水の草を刈る訳だ。

問 これは何人ですか。

D これも帳面を調べりや分るのだが、合計せにや一寸分りにくい。

それから、6月29日は田植え済んで、そして今度はまた放つておれば、用水の淵に草がずーと生えるわけだね。今度はオノ2回目の草刈りです。それは1年間続いてほしい3回ほど。春の用水掘りと草刈り2回ということは、大体決まっている。その日は多少ずれている。その時の天候とか、仕事の具合とかで行事はだいたい3回ある訳だ。それからその後で今度は部分的に女が半人とか、臨時に出ることがある。

興徳寺の部岩が4つに分れている。その4つのうちのどこかに出てもらう場合もあるし、全部出る場合もある訳だ。全部出た場合は大体3日程やるわけ。これは全部出る訳だ。部岩で1軒も残らず、力あるものも、ないものも、とも角全部出る訳だ。力のない人は結局自分は力にはかからんわけだから、結局30なら30の金を全部出す。それから力のある人は、かかるわけやから結局不足分がどんだけか、というような形になって来るでしょう。それじゃ皆と一諸に勤めているんだけれども、金を最後に出さなければならぬ。30なら30の金を1日に300円なら300円、400円なら400円、金を自分の方にあたるとそういう訳やね。12月末の決算に決算の人がいくらと出す。結局だいたい平均をとる訳やね。それでその平均以上の着はもらってくる。平均以下のものは結局出さなきゃならんとい

う形になっている。平均とる訳やね。今かりに甲が200円使ったとすると、米に換算すると何石になったと、それを1戸で割ったら平均がどれだけになったと、そしてそんなら私の場合には平均だけつとめたんだとするなら、200円出すんだという場合は、200円出して、今度は平均以上の人がその分だけ金をもろうて来る。そして結局その時、その時に消える訳だね。

問 何故平均を出すんですか。1戸1戸帳面についているから個人別に出来ないわけですか。

D 個人別にする訳や。個人別にして、そして部落が50戸あった場合は、3人平均とか5人平均とか、6人平均とか、そういう平均を出してくれば、自分が1日も出ななんだということになれば、その6人分だけその決算の時に出してもらう。しかし5人出せとつたというなら、もう1人分だけ出せば良い。そこで結局消えてしまう。出すもん取るものとバランスして、そういう仕組みになっている。地価もやっぱりそういうことになっている。

問 そうすると、地価の場合は5月15日と6月29日と、その次はいつですか。

D 地価はそれで最後や。3回目はだいたいいないわけや。それでどうしても今年はもう1回やらなければならないという場合は、それは区長さんの蹟でどうしてもやれという判断をすることになる。別にやらなくたってどうということもない。だいたい3回程は用水のは決まっている。これは義務的というが……。これはだいたい6月の29日頃になると、もう田んぼの水はそ

れ以上はいらぬから。そうするとだいたいの来年の春頃までそのままおいても大丈夫だから、また春になったら3回か、4回位の地価普請になる。

問 だいたい4月、5月、6月と3回で終わりですか。

D 昔は、まだこの他に物凄くあった訳です。今とつきあんだにお話ししたでしょう。水がザーと出てくると、通水溝が破れ水が上らんことになる。すると区長さんが今日はどこそこに行ってくれという。そういう臨時的の仕事のが物凄くあった。それで今はその経費はいらなくなった。ただ新しく用水を掘るとか、新しい水門を作るといようなことが出来た場合、対策委員というのが今度は委員会を開いて、今年はそんならどこそこの用水をコンクリートの用水路に作るかという、作りましょうということになる。補助を、これは4割や3割やとだいたい水準が出るわね。そしてその水準によって新規の工事として今度はまたやる訳だ。

問 だからその場合に、地価普請が何かでやるんですか。

D それは殆んど部落として普請のような形をしてやる場合もある。それがらとも角、部落から負担を出さん訳でね。結局部落の人が出てやれば、それで負担金というものを出さんで労力で補う。それから今どっかの建設に渡したという場合は、全額以上に、また金に今度は困ってくる。そうすれば負担金というものを徴収して、建設業着に今度はやらなければならない。そういう面が出るので殆んどやってしまう。私のところの工事は渠設業着でやったということは河川工事位だね。これは市、それ

から県、国がやった訳や。そして部落のそうした仕事は全部今度は部落の範囲内で仕事をやって、人夫で今度はお前は何人出る、お前は何人出ると、それで出んもんはお金を出すとか、そういうようにして、やっている訳なんです。そうすれば今現金を今度は集めていくということになったら、もうけて来た金は全部消耗してしまうでしょう。

だからやっぱり人夫にして使った方が区長さんも扱いやすいし、それから仕事もやりやすいというところで、労力を補って行こうということになる。そういう形でやっております。そういう意味にかけりや兼ねる点もあるわけです。

問 しかしいいものは作れないんじゃないですか。例えば、コンクリートのせきを作るとすると、コンクリートにはコンクリートのセメントの入れる具合があるし、それが素人では分りにくいと思う。

D いやそんなことはない。それは部落にそういう人が、知識のある人がいるだろうと思いますよ。そしてそこで技術を修得している。

K 結局、そういうことに徐々に慣れてきている訳です。それでやっぱり部落としてもそういうような経験者もいる。

問 橋かけなんかどうですか。

かりに台風が来て橋が流れたとすると、コンクリート橋にすると、極端にいうとコンクリートで、やっぱり色々なピアの張り方からむずかしい。

リ それは請負業者ですね。

D 今年林道をノ本つけたが、表の方は全部工事が済んだ訳なんです。足だけ残ったわけだけどね。それで結局業者に残せば金額を支払いせねばならないということになったら、しかし部落の負担金も重むし、どういう風にしてやった方がよいか、労力にしてやった方が負担金がない。金はおさんという面が各自あるから、今度は部落としてやればよいというので、結局建設業者に一寸お話して、ミキサーとそういう橋の設計のコンクリートの入れ方の組み立てとか、そういうものはある程度ちょっと指導してもらって、そして今日はコンクリートやろうやといって、部落からお前とお前とお前出てくれと、女の人も出てくれと、それで結局半日でつめこむという場合は、半日とかいう風にしてやった。そういうような点が往々にしてあります。そしてわくなんかもこれは今こしらえりや経費もかかるし、やっぱりちゃんとかくというものは設計に組んであるんだから、結局林道関係で、山もった人は皆出て手伝う。工事全部部落の人が出てやる。

K 林道なんかは業者頼みや。

D そうして名儀は区長ということにしてあるが、本当の世話役は、お前ここに山あるからやってくれというようにしてやる。部落を通じて見なければという場合はそれは区長さんがやるが、またはいうてもらいたい時は、そういうような場合は区長がやる訳や。けど仕事のそういった監督とか技術具合とかいうのは区長も分らない。そういう責任者というものは、その人が果したいことは会計も作ってやってもらう。それを全部きちっと出

して、誰それはどんだけと負担金を書かれていく。かりに10日も勤めたということになれば、男で700円、それから女で420円という線を決めて、普通の物価の雇用とはちよつと安い訳です。

だいたい今年の私のところの奇合で決めた部落の人夫賃というのは、男で800円、女がその6割だいたい500円かね。けど、そういう林道関係とか、村のそうした仕事になれば、100円下げるとか、女は少し下げるとか、そういうような形で、今度は安いけれども、なるべくなら部落の諸関係もあるので、一つ勤めてもらいたいということになる。

山の財源とか、そういうものが相当あるから、その林道一つつけただけでも林層というものも向上するし、それからノ石今まで800円かかっていたものが、300円で出来る。それだけの財産が殖えてくるということや。金を負担する場合は、その辺を考慮する。

組合はただ県から補助をもらって監督やわね。

だいたい今までついた林道組合というものの組合長は区長がという形で、そしてやっぱりそこに組の責任者という着がいの訳だ。それから唯それが会計だと全部きめて、そして本当の名義は組合長ということになれば区長が組合長ということになるけれども、区長は細部にわたってそういうものをとやかく現在にはしていない訳や。どうしても組合長としてやらならん場合は区長しかどうすることも出来ない。区長がわかるけれどそういうことは往々にしてないわけや。

D 私のところは今さつきお話ししたでしょう。労付賃金が男で800円とか、それから女は500円とか、そういう線は林業関係のコロカッギとか、それから今唯それが女の人がいつて山出しをするとか、そういうことは普通の農兼労付者よりが高い賃金を出す。それが部落として阻害はしてない。結局山仕事のこととはそれが本当の主体の仕事でしょう。それを毎日来てくれということになれば。

それからね、百姓というものは、経営をやるとなっても限度があるわね。私の場合だったら息子は大工仕事というものをやっている。仕事はどうしてもばあさんがやっておる。800円か1,000円かのどっちに働くかというとき、それは1,000円の方に行く。うけとりにはむしてやった場合は、1,500円になるかも知らん。2,000円になるかも知らんということになればあほらしくて、800円の人夫に出れんということやね。

1,000円、1,500円というふうに変わっていけば、今度は段々上まっていくとそうになったら駄目というところで大体800円だ。今年は男800円、女は500円という線をひいてね。それでも基本金はおさえてしまう。部落として毎年の行事として1ついかなることがあつても、労付賃金の方は、ただ山の労付賃金というものに対しては、部落としてそれまでおさえていない。

区長のみた林業労働と林業経営

問 山の場合なんかで、例えば丁度労付やっておられたり、ある

いは事業やってくれると区長さんなんかの場合、あるいは隣保班の班長さんというんですか、そういう場合に共同でやらなければならない仕事があると、ノ人足りないんだという場合に、誰かAという人が隣保班なり区長さんのところにきて、区長さんや隣保班長さんに頼も広いから頼んでおくという形のことは、そういう場合に頼まれるというようなことはないですか。

D そういうことはない。人夫ノ人頼んでくれという、そんなことは林業関係にはない。

それから普通の田んぼの仕事においても、区長さんを通じてそんなことをいう人は今現在ノ人も居りません。殆んど昔もなかった。それらに対して区長はとやかくタッチせん訳だ。

それから部落のことについての仕事なら、明日頼むとこういうてくる場合はあります。結局共同とか、そういうものに対しては、やっぱりまだ関心がそこまで到達せんという形でないかと思うのです。

問 それからカッギなんかあまり進んだような運び方だと思いませんでけれど、それに対して隣保班の班長さんとか、区長さんなんかの場合では、そういう技術を研究すると、さっき農業の方ではそういう研究会があるということでしたが、その講演会があるというような、伝達するというようなこともありました。あわせて区長さんというところと一寸限定されたようないい方になりますが、そうじゃなくて、隣保班とか部落はそういう林業技術について考えると、あれでいいだろうとか、仕様がなさそうとかという風に考えて、そういう林業労働者なんかいろ

んな部落の人達に、そして会合といっても特定の会合じゃなくて、なにかの端に、寄合の時に、そういう話も出るということがないかということです。

D そうだね、三井は昔から林業に、まずとらわれている。そしてともかく若い人が結局居残りがいないという関係上、かりに三井の黙阿弥の息子さんが大学を出たと林業に關した学校やって、そこを卒業したとする。東京へ行って就職したとか、大阪に行つて就職したとか、それからこちらにもどつてくりや、大学を出て百姓林業と、とやかくそういうもんに一寸てれくさいというような傾向が往々にしてある訳や。

今、大々的に植林をするというような公園造林があるが、そういうような大規模な経営は殆んど公園関係でやる。それから個人的な、3町歩や4町歩の山を持って植林やってみたところで、人夫をどうして使つていくか、何年通じてそういうところに来てくれる人いないんだよ。自分のやれる範囲内でどうしてもやっていかなければならん。そういうことで結局零細事業が増えてくる。そして我々その本当の仲間ねばならん人は月給とりや。

そういう面から考えれば、それは本当に曲り角といえは曲り角という。

問 そういう場合に、部落でもつて、いろいろ林業の造林の技術や搬出の技術についてですが、寄合みたいなものがあった場合いろいろな雑談がでますね。いろいろな生活から見ても、そういう林業の方、農業の方はいろんなことが出るとは思うんですが、

そういう話が出ないかどうか。

D それまで真剣に区、部落でのいろいろな会合の折に真剣につっこんで考えてや。

問 それは区長さんどう思いますか。例えばカッギがあることを個人的な考えでどう思いますか。

D 私の場合は今この三井のこういう現状だと仕方がない。あるいはなるほどこの部落はカッギの労務者が沢山いるということ、めしを食べている人も沢山いるし、そういうのが大変だということが入る。

問 その辺のコロカッギに対する感想といいますか、考え方はどうでしょうか。

D 私の部落なんかにすりや、今まで三井地区においてはコロカッギ、木挽きは、やっぱり昔から多い。それは何故かということですが、今までのその状態であった場合にはかりに仁行とか中とかそれから洲衛とか坂田とかそういうところの人は、ともかく自分の稚木山へ行って遊んでもいられんさかいに、自分の山に行って木炭でも焼きましよう、人は1日1000円もうけるが、俺は800円でももらおうと、こうして山に行って木炭を焼いたりする。青木は切れん。山の面積は広いでしょう。そして稚木でしょう。そして炭焼く人が多かった。それは青木の方は切らんでしょう。そうすると、太るでしょう。そうしてこう現在まで来とったわけです。

興徳寺の場合は、本当は戸数からいっても、山の面積というのは比較的少ない。そして造林は今度はないということになる。

だからやっぱり興徳寺の山の場合、どうして炭山が出来ると。あんなのはくれてもいらんとね。そういうような稚木林を売って収支を賄なっていくということは、今日までない訳なんです。それじゃ他の仁行とか洲衛とか、ああいうもので比較すれば、興徳寺はどんどんと青木で年間まかなう訳だ。現在これは逆行になってきたでしょう。はや造林は植えんと今まで50万円も70万円もした炭山が、1万円もせんようになってきた。

そういうような始末です。それで山は、どんだけ面積があっても、その稚木でこんどはやっていけん。青木が比較的今度、そういう時代だから植えてなかった。青木の数は少ないけれども、大木のは多少ある訳です。多少あるけれども今となったら中もに行も興徳寺も、結局経済の範囲というのは殆んど同じになってきたでしょう。納金などで全部今度はもっていかれちゃう。そうすれば今度は山、あの稚木山の方の収入はゼロ。洲衛なんかになれば、冬はほとんど出かせぎ。そして部落は昔からこうしてコロカッギとか木挽きとかそういうものを始終やっているわけです。経験者もいる。三井全部と私の部落は全部です。そして後の部落の人は土方に行くとか、炭焼きとかのケースです。私の部落は炭焼きは1人もいない。焼く山がないから。殆んど残っている者はコロカッギの仕事です。

問 どうですか。しかしコロカッギの仕事は。

D これは悪い仕事ではないです。今となったら。しかしこれは人間はやっぱり人に負けるということが本当にきらいな訳だ。そこで、あるとこそこそこの息子が、どこそこ働いてると、そ

して朝は8時に靴下げてさっさと出て行ってしまふ。そして月給を何万も取ったということになったっちゃ、親がそれを要望する訳だね。それじゃ子供もそうやとなる。

この部落だけならいいけど、金はもうかるけれど、こんな労働しているんだから、これや人間の最低やということになる。気持ちがいかにということになる。今こうした貧乏人の子供も皆高等学校でも、どこそこの旅行にゆくとかということになる。それで今の、中堅層のどこへ行っても、誰も何もせん。今更月給取りするかといつても、使い道はない。そうかっていったって、そんなら何しに行くかということになったら、木挽きか山出し位しかないんだ。仕方がないといって今度はやっているというような形です。そして本当に自分が好んでやっているかというそうでもない。こんなものやっていれば、人の中にも出れないしという様な淋しい思いをする。それを今度はもう少しあたり前の、コロカッギというのは時代にマッチしないものでない形で、森林組合なんかで進めればよい。そういうような形になれば、また昔にもどるかもしらんけど、そうでなければ、気持的に負けたというようになる訳だ。

一口に1日500円というけれど、なかなか至難な仕事だ。それでやってみりゃ、あんまり楽でもないし、それから我々にして見りゃそういう人がますますふえてくれば、この林業者とすれば結構やと。どこそこにそんなら木ノ本運んでくれるし。

山に木あつても買手がない背負つて出すのもおらんですしね。そうかって機械借りてするものもおらん。ということになった

ら、やっぱりそれは背負つて出すか、たまには馬で出すよりしかないわね。今度は出しのいいところは買手がある。そういう形です。

問 成程ね。私達もだいたいそういう主旨でこういう仕事を始めているんですけど、やっぱり大変だし、仕事に、例えば、都会でいえばその市役所の、東京なら東京の都の、大阪なら大阪の市の、清掃の要するにゴミ屋さんです。簡単に云えば、そういう仕事であろうと、あるいは便所汲む汲み取り屋であろうと、コロカッギであろうと職業に貴賤はない訳です。けれども現実にはやっぱりなかなか大変です。

そういうことから、やっぱりこれは何とかしなければならんじやないかと、そういう感じを持っています。そういうことでこういう関係を実は色々と調べている。それを聞いたからといつても、すぐには何とも言えない。世の中に説明するには、それはやっぱりこと細かに聞いて、色々な方面からして、こうなっているということを言わんと、それは世間的、いわゆる全国的に通用しない訳なんですよ。大変ひどい、ひどいというが何がどのようにひどいんだということを細かに分析することが先ず必要です。

D 木材なんかになりや、いらんと言うようなことを言う人も、これはぼつぼつ今度は出てきた。とも再自分のことは自分でやらんと、それから今度はその意欲というものが物凄く活力があつただけで、今となったら、あれだけの活力があるかということになってみたら、必ず不安定な気持が出てくる訳です。こ

うというような傾向がだんだんと今度は高まってきた。

そうしたら経済力が高まっていくということになったら、相当の今度は忍耐力と、それからまたそれに伴った経済力というものがなかったら、これに打ち勝っていかれん。そういうことなんだ。けれどもやっぱり昔とは違ってやる仕事をあらゆる仕事に何もその安定感がないということはこれは一番難かしいことだと思つて考へている。山に大木があったって、どうもならん。そういうような意見が今度は出てくるでしょう。それじゃ若い者が5万円でも、3万円でもとつて来いと、そういうことが今度は農村なんかでも、ぐつと今度は2、3年出てきたね。そういう関係上あんたたちの、そういったこの農村の突っこんで、まあ研究しておいでるか分らんですけど、それが一番の癌とみてな、稼ぐ人がばからしい、それから植える人がばからしいという。だんだん植林熱というものは、今度は個人的の植林熱というものは冷めてくるんね。どうしてやるものは公園でしよう。公園のことは、これは計画的に、予算組んで、今年はどうと、ちゃんと予算計画でやっていく積りです。

であるけれど経済力がないものは、山も植林して、細かい、5人や3人のものに範囲を拡げてみても、どこまで続くかと思う。しまいには今度は、1年も下刈も出来ず木起こしも出来なんだということになり、今年は、はや忙しくて出来なんだということになったら、曲った木になる。そのような木があったって何になりますか。それで密植しなければなら

ぬ。それで雪が降る、ということになったら経費が余計かかる。それをどの程度まわって、とも角かえらん程度に今度は12尺までもっていかということになったら、恐らく一寸困難である。

それから政府は補助よこすというが、とも角やたらに今度は植林さすとか、この植林さしたものを、どの程度に今度は育てていくかと、ということがこれからの疑問だ。そこにもってきて、今何千の人夫を連れて行って木を起こし、そのため飲ましたり、食わしたりして金を使って、そんなら将来その木がどれだけの値段がするかということになったら、結局今の経済でもっていつて、当然やらんということになる。そのほんの植林にしても、だいたい30とか50とか、とも角平坦地の雪のかえらんところに植えた。そうやって6尺に2間に1本もこうやって植えているでしょう。肉が太くなる関係上、枝が相当になる。そしてせいぜい2〜3しか枝打たなんだ。そして残っていた。今ではそんな木があつても何もならない。とも角美しいもの、のびのあるもの、曲らんもの、2尺内外の木が一番欲しがらる。欲しがらるが、そういう木が中々作られない。だからやっぱり政府の考へていること、我々の末端のカベというものは、これは割り切らない難点がある訳だ。

それから結局私の考へとすれば、今この森林組合というようなものがありますから、こうやってくれというような形にして、そして人夫は、冬は失業手当をやるとか夏はこうとかいうことにすれば、出来ないということもない訳だ。そうすりや年間を通じてボーナスもあたるとか、ということになりや、今度は森林組合に行くものもあるけれど、普通の我々個人がそんなら5日や10日出してくれといったって、誰がそれだけ入れてくれるか。それじ

や、そこに零細農家というもんは今度はやれる範囲でやって、それからやれんものは、これはしかたがないとして終わる。そういうような構想を持ってきているんだらいいけど。

それが実際面積にしたって、1町あまり10何町の山でしょう。10町の青木というけども、管理していくということになったら、並大抵のことでない。1町歩ですら割りに合わんでしょう。そういう訳で、これは末端まで来れば、我々もこの林業に生きて行かねばならんと思うが大変だ。

社寺と部落

お寺さんなんか来るのは、前からです。要するにただ連絡を出すだけしているという訳です。それは参つて下さいと伝えるだけで強制は出来ん。その参るっていう人はだんだん少なくなる。あちこちに行って働く人もいるからね。

問 昔は真宗王国といわれたが、今は少ないですかね。

D そういうわけで、1年間通じて誠に複雑な仕事ですよ。

対策委員会

問 対策委員会というのは、一応ここ、この興徳寺に特別あるわけですね。

D 特別あります。これは私の部落は毎年事業をしている部落や。それで区長さんだけしてやってもらうと気の毒だ。やっぱり区長が毎日皆さん集まってくれというのも大変だということ、1つそんならまず対策委員というものを作って、そして皆さんを集めるのもその人達がそういう権限をもつて、最少限度喰いとめて、話をしてくる、うまくもつてゆくと、そういう意味で作っている訳なんです。

問 どうもありがとうございました。長い間、おかげ様で。

2 中部落区長の話

(三井の部落区長である丁氏の宅で、丁氏から話をうかがっております。森林組合のK氏も同行しています。丁氏は田々2町、畑2.6反、山林7.5町所有。)

中部落の仕事

問 実は、昨日興徳寺の区長さんにお伺いしたんです。私は前から数度この三井に参って、いろいろこちらのKさんや、組合長さんやその他の皆様に御厄介になっていました。

搬出の方に技術に大体焦点を合わせまして、調べたいと思っています。ですけれども、そのためにコロカッギとか、地引きとかということ、それだけを調べるといことは既に前に大分調べられている。それで、もう少しそのある一部分を深めて調べてみたいと思います。そういう場合に、今度は部落といいますが、組といいますが、そういう技術労働者のいらっしやる中、本江とかそれから興徳寺とか、そういうところの2、3の部落が、そういう技術労働者がどういう活動をしているのかということを考えてみたいと思っています。

でその場合に、区の性格をあまり知らないもんですから、それで区の責任者といいますが、代表である区長さんから、区のお仕事とか、それから区とそういう技術の関係とか、つまり例えば森林組合の方からどういう依頼を受けてこういう仕事があるのか、連絡があるのか、例えば技術の講習会がこうある。

あるいは、ご自分で山を持っておられたりすると、そういういろんな会合の時にどういう話が出るものが、区総会は総会で、これはこれと、こっちはこっちという形なのか、区の中のこういう技術をやっているしやる労働者の方はどういうように関係されているのか、そんなことを具体的にいちいち話がはずめば申し上げたいと思いますが、大体おおまかに、そんなことを伺いたいと思っています。

「でこの区のだいたいの御仕事、区の仕事は例えばこの場合はどういふようなことなのでしょう。」

K 神社とか仏閣の仕事もある。

問 だいたい昨日の興徳寺の感じでは、もっとも市役所の通知がある。そういう連絡があるし、それから森林組合の仕事、農協からあるかも知らん。それからお寺、それから神社で、神取ですか、それから区自身が部落自身の共同作業というか、例えば水の問題とか、あそこでは、戸普請と地価普請というのがあるんです。こちらにそういう同じものがあるのか、あるいは名前は変わっても何かそれに似たものがあるのか、あるいはそういうのがないのか、それからここでは、電燈料金区集金している。そういったような区長にいろいろと仕事がある。そういうことを具体的にお伺いしたいのです。

「戸普請というが、我々は村普請です。村は村でもこの旧N村の村です。」

問 中というけど、正式の名前はなんなんですか。

「正式には中です。それが明治前自然と中という村が出来とっ

た。だから中村といていた。それが今のこういう役場なりが出来たので、とにかく、それから新たに中という名称になったらしい。

中村の村を使って、村の共同作業、共同してやる場合は村普請として言っている。

問 これにはどういうものが、例えば今年でもいいですよ、今年の1月から現在に至って具体的にどういうものがありますか。

興徳寺の場合、時間の節約のために、少しサゼッションみたいな形になりますが、このほかにあればとか、これしかないとかって、御参考までに述べますと、向うでは河川の仮橋架け、麓山の木起し、それから麓山の下刈り、それから市道の根本掘り、……。

K 我々の根本掘りは用水路の溝掘りのことだ。

問 暗渠掘りを根本掘りというんですか。それから、河川の仮橋外し、中橋のところの林道の永久橋の板橋かけ、それから用水掘りと、こういうのがあるんです。ここでは具体的な内容としては、中村、村普請のどういうものがありますか。

「春からずっと順にいきますれば、村の道作り、……。」

問 ここは番当付きですか。

「わしらの村は43戸部落があります。その中から毎日このような番当札というものを、こういうような恰好の大きな、20センチか30センチほどある棒がついて、それを下げて、その裏へ番当札と書いて、1本で火の用心を書いて、その札が毎日村中廻っている。今日、自分が番当したと、あすはまた隣の

人が番当をする。その番当札というものは、たいぶ古いものだね。

K 連絡事項だね。ここの番当のシステムは変わっている。今正確にやっているのは中村だけや。

T その札が廻って朝当番ありますかって、一応区長に必ず毎日来ます。毎日夕方の部落を廻っています。どういふのを番当かといえば、道作りを何月何日にしますと、お伝えしてくれということになる。そうすれば、わしらの部落では、中村の出川と下との二部落になっておりますが交替で廻ることになっています。

出川は出川だけで番当がぐるぐる廻るのじゃなくて、下と出川とこうかわりばんこになっています。隣から隣へずうーと、番当は札をきてあれば、それはまた明日この隣へ持つてゆき、家並にずっと番当札が始終廻っているんだ。そして番当札が廻った人が区長さんここにきて、連絡事項はないかと尋ねる。始終夕ヨ戸なら夕ヨ戸札が廻るという訳です。

K 番当の札は隣りへやって、隣りの人がまた区長さんへ来て、何か連絡事項はないかと来る。そしてあつたらまたそれを持って行って、連絡事項をふれて、それを隣りの家に番当札をやる訳や。

出は組で、隣保班もさらに上、下あります。それで結局は班が計々つあります。

向 区長さんは一応大きな事を指示するだけですな。

T はい。それは結局道普請でも、したいということになれば、

そんなら番当にまかすと。

向 だけど、そういう道普請なんかする場合に、誰が何人来るといふような人数をとらえておく必要はないんですか。そういうものを記録しておくといふようなことです。

T ええ、だいたいノ年に春、夏と今またそんだけと、この暮に9月か10月ごろに道付けがある。これはノ年3回村の行事として必ず道付けがあるのです。

K ノカ年に何人出たということは分らないかね。

T 道付けのことは全部分る。2、3人も不足することもあるけど、それから今までといふのは、5、6年前といふのは、男も女でも人夫の差額といふものはしてない。現在のところは、相当経費もいるし、人夫の差額をして、女が出た場合は男の差をつけて払ってやる。男は800円、女は500円ということになっている。その差額300円だけ、女の出た場合は差額を区長としてそれを徴集して、やっぱりいろんなものの経費に使っています。

向 その場合は、現物で米3升やるっていうんですか。

T いやお金です。

向 いやお金ですけども、その時の基準といふのは何ですか。

T いや基準というまあ別に金の払うだけです。

K 正力(興徳寺)へ行ったら、ノ日の日当が米3升ということになっているが、昔そんなことはなかったかね。

T いや自分らの前、そういうようなことはあつたらしいけど、それが結局お互いが出れん場合があるさかいに、そういう差額

を別にして、そして廃止になったらしい。300円だけこんど
出た時に皆んな区長が記録しておいて、それから税金と一語に
月々税金を徴集する時一語に会計する。

K その辺は興徳寺と違う。興徳寺は1年を通じて、最後に計算
します。

T それと、もう1つはこの隣保班から組頭が1人あて出ていま
す。それだからわたしの部落では組頭が4人います。

K そうすると川汲班の班長がいる訳ですね。その外に組長とい
うものがあるわけね。

同 組と班の相違はどうなんですか。

T 今の班長は一応問題があると隣保班長と組長が集まって、金
の相談をする。つまり相談相手だ。

同 そうすると、興徳寺の対策委員といいましたね。ちょっとそ
れと似ているようなものを、ここは対策委員みたいなものはない
から特に何かいろいろ重要なことを緊急にやらなければならない
という場合に、この村の-----。

T それは組が一任していますから。とくに大洪水が出た時は、
皆、村で集って一応話はします。ちょっとした簡単なことは組
長が集って、それから組が区長として、いろいろな村の協議をし
てやっております。

K 興徳寺の名称は対策委員会です。あゝは主にあの水害の時
に出来た言葉だろうと思います。その時に正力の河川改修があ
ったんです。興徳寺のその時に対策委員は、対策委員の主な仕
事はその時とあとに続く林道関係の相談だね。そういうような

主な仕事であって、中部落の班と組の仕事と内容ばうんとちが
うね。中の場合は、これと班と組との全て一切のことなかかっ
ているわけだね。

同 なる程違うものですね。同じ三井でもね。

T それでほんの前は、この組の中でも、少し手数のある人達が
組頭をしとりました。

K これは部落の規模によって違うと思いますね。私の部落組屋
は14戸です。だから小さいから、1回全部集っても14人で
す。だからそういうもん合わせて14人全部集まるんです。中
の部落は40何人集まると大変なことになる。40何人の話を
まとめるということは、これは大変なことです。やはりそれは
部落の規模によっても違いが出てくると思う。仁行はまた違っ
ね。80何戸だからね。

T わしらのような組頭という人達が、自分らの部落としては、
その都度、その都度金のついた時に、その組長に集ってもらっ
て、その金の割とかそういうことをします。

K 1人が1年で、1年の大体12月の20日から25日の間に
やるし、中では大体月毎とか年に3回とか4回とか5回位に一
応精算してやる。そうすると後で支払いが楽だけだね。どんど
ん固まっていて。

同 それで去年の場合は、春、夏、秋の道付けですか。それと仕
事は去年でなくて今年の場合は。

T それとその他に共同でやる、お宮の山の下刈が少しあります。

同 これは神社に関することですね。

ア 神社というよりか、村の共有林です。それとこの村普請でやるのは大体行幸となっているのはそれだけです。その他にまた特に大木でも出れば道付けでもあればね。

ク 前者は絶対必要なものです。あとは状況に応じてやる。

向 今年は何かこの他にやりましたか、やる予定ですか。

ア その他に別にない。

ク お前さんの部落としてはス石地区だったかな。

ア 昔からス石区地やって。

向 ス石で、その時の米の価格でもってですか。

ア いや、その前の年の価格の三等米の価格に、今なら給米までに、そして今の給料の金をもらう日は給米ということになっていて、何月何日に番当に給米だからという。きちんと皆もって来る。今ならその給米の日までに大体米の価格が決っているけれども、以前はそれまでに価格が決まらなかった場合があった。そういう時は、やっぱり今年なら39年度の三等米を基準に給米をはらうということになっていた。前年度の三等米に値する政府の基準の価格だ。価格にして去年は15,000円にならんだね。13,000か14,000円位だったもん。

向 そうすると、ス石だからこれの2倍というわけですか。

ア ええ、そうすると1年間に28,000円が、それだけ今手当がもらえるということだね。これは今、村の給料の割は大体村の戸に2割、それから8割は地価に。

向 それじゃこれは興徳寺と同じ振な交付金と仕度金と同じことじゃないですか。

ア それは普請のお金の徴収は、興徳寺なんかは地価によってもらっているらしいことを聞きました。

普請の内容は、これは戸普請の内容だとか、これは地価普請は用水だとか、そういうことは区別してないけれども、区長さんのお礼というか、そういうものは一応戸普請、地価普請ということで8割は地価普請とかということですね。自分等は、なぜこういうことやっておらんかということは、納税奨励金は全部村の財源に使っております。それが大体2万何千円です。それが結局税金は地価によって大体わかるから、別に入夫は高くせんでも、誰かれ差別せんでも、その中に税金の奨励金というのが、よけい税金を納めとりや、よけいもうていますが、その奨励金を全部村に使っ取りますから、入夫なんか別に部落別として0さんも1,000円、俺も1,000円と言うことはいいません。

その他特に道普請で、0さんが本を余計出した場合は、自分だって金を出さんと仕方ない。だけと入夫賃の方は、財産のある者も無い者も別に区別しておりません。

正力には納税組合というものがある。中は納税組合というものを43戸に1つ作って、そして1つに区長が全部税金を集めているが、興徳寺なんかは納税組合が4つとか5つとかあるそうです。その奨励金を今の班ごとにやっ取るか、組でやっ取るか、それは全部班なら班でやっぱり処理しておるそうです。

ク 部落の経費に使わないから、中とは多少ちがう。中は部落の経費に使う。正力は部落全体では使わない。

同 それだけど、それはその区とか班とかで、税金を集めていることはどこでもやっているわけですね。

ア いや、区長はそれはやっておらんです。興徳寺は区長はやっておりません。納税組合の中で世話しとる人達が税金を集める。中では納税組合を作ってもいいわけですが、大体区長にやってもらおうかということです。

同 それから興徳寺の場合、たぐ山の資料があつたんですが、伝達事項は、ものすごく来るそうですね。

ア はい来ます。市役所からが多いです。

大体内容は同じですね。

同 市役所はそうすると各区つまり、部落宛に出すわけですね。

ア ええ、そうです。

同 そうすると大変ですね市役所の仕事としては。旧三井村だけで14ヶ所でしょう。

その他、河原田とか町屋とか-----。

それから森林組合も大体同じことですか。

ア ええ、やっぱり一緒です。

同 あとは農協も同じですね。大体興徳寺と同じですね。特に変わったことはないですね。それからお寺ですね。それから神取、これはどうですか。

部落の財産

ア さっきのお寺の山は部落の共有林です。

中村組の共有です。大体面積は実面積で50程あるでしょう

同 今どういふのが植わってますか。

ア 今、主にアテ、スギです。50本にしたい1ノ石5斗

でしょう。4,000円にしたところで27.8万円、土地は値段ということになれば、まあ10万が15万ほどになろう。場所は坂田と中の間です。耕地を山に転換したものです。

同 耕地はないのですか。

ア 耕地はありません。

同 組の共有財産としては、だいたいそれだけですか。

ア それだけです。

社寺と部落

問 さっきのことですけど、お寺の仕事はどういうことでしょうか。例えば講中だとか、何とかあつたりする場合、あるいは、寄付金を廻してくれという場合、そういう寺から最寄の寺からお寺さんが廻るのも、廻り切れんから一つ連絡してくれと、人集めるように云ってくれないかという形の仕事はないですか。

ア ああ、そういうのは、そんなら大体我々の中では4の部落ありますけれど、興徳寺それから正力門徒と熊野門徒と、それから内屋門徒、クワヤ門徒とかある。この4つある話です。この4つがこの部落に入ってきているわけだ。わしらはこの中で正力門徒ですが、正力は仏正寺という寺です。それでその寺に我らの門徒は5軒あります。その門徒の中に、門徒総代というのが2、3人いる。夫々の門徒に総代がいる。門徒総代にやっぱり連絡があります。区長には来ない。興徳寺には、主に全部興徳寺門徒ですから、他と少し違う。ここは4つの門徒があるからお寺としても区長は出来ない。

興徳寺の場合はだいたい1つの門徒しかないから、たまたま

区長もそうだから、区長に来るという訳ですね。

今のお金集めるそういうようなことは、門徒総代がやっていますけれど、区長のやる仕事は、今の正力なら、仏正寺なら仏正寺にお参りがあると何月何日に、盆と正月は休んでお参りする。それは全部熊野も興徳寺も、寺から来てお参りしてくれ、こういうことは全部やっぱり区長さんのところへくる。連絡だけです。

門 しかし、さっきの話では各門徒総代に来るということでしたか。

ク いや、こういうことになるんです。

三井にある寺は内屋と興徳寺と二つです。それから門前から今日寺参りがあるから休んでまいってくれとそういう連絡は、恐らく出されませんし、皆かりにきても、誰も行かんから、三井にある寺、熊野の寺、これは大体一括して、皆休んでまいってくれと、門徒も何もいねんと、そういうことで区長さんはやってんや。それから寺自身の仕事やとか、それが門徒総代へくる訳で総代の寺参りとか主に寺参りだが、そういうもんはその区長へ連絡してくる。

門 総代の寺参りは区長にくる。それから寺自身の仕事というと門徒総代にくる。寺自身の仕事というのと、総代の寺参りってどういうふうにわかるんですか。

下 寺自身の仕事とは寺の修繕費とか、それがいるとそういうことであれば、その門徒総代が一応集って、相談して、これだけお金があると、一応その割りをして、そしてその門徒総代がま

な部落にきて、これだけ金を頼むということになり、そして回って徴集して、今まで行っております。

向 総代の寺参りというのは、盆、正月にあるいはどこか特定の日旺日とか、あるいは何かにある。こういう説教がお参りかありますという連絡を出すんですか。

下 寺の仕事を区長が連絡してくれということはそれだけです。

向 寺付金とか、そのいわゆる無尽講みたいなものがあつたとした場合は、そういうのは門徒に来る訳ですね。

やっぱりこれは同じ旧三井にお寺が昔からあるという事で、区長さんという、どうしても行政の条令なんかで決まってるないかも分らないけれども、やっぱり市の仕事を殆んどされている。その肩替りの末端機関としてやっておられる。

そういうところにお寺や神社ばかりが、区といつものを利用するとおかしな話したと思います。しかしそういう習慣があるし、その寺も昔からここにあるという形があるんですね。

下 それからこうして区長が世話しておりますけれど、クワヤ門徒なりまた肉屋門徒としてもおりますけれど、そういう仏正寺や熊野のお参りの部落に行つて、そういうことやっていかんという者も別にいうものおらんし、今いくら内屋門徒でもやっぱり内屋門徒の辺は、仏正寺なりのお寺にお参りしてます。

ク 寺の門徒が異なるが、寺の宗派は同じやからね。

向 それで神神のことはどうなってますか。

氏子か有んかあるんですか。

下 ええそれは氏子があります。

向 いくつあるんですか。ノつですか。

下 ええ、氏子はノつです。

向 どこにあるんですか。

下 中にノつあるんです。

向 神社の仕事で、区でやる仕事というのはどういうことですか。

下 ええ、ノ年のおまつりだけです。

4月ノ日と、9月ノ日です。それから10月ノ日。

向 お、すいぶんおまつりがあるんですね。

下 その他にあの郷社がある。

それは郷の下、つまり、本江の郷とか、中の郷とか、仁行の郷とか、5つの郷が集って郷社というお祭りをする。

河原田の2部落も入ってるのがある。これは行政面からいえば三井でないけれど、神社の氏子の山ということからして一箇にする。

向 これはかなりにぎやかですか。前の神社のも、にぎやかですか。

下 なくていっても部落のお祭りだから。

向 それで何ていうんですか。正式に祭をよぶ時は何ですか。今こっちは郷社の祭りだといえは。

下 それは何祭りっていうのや。春なら春まつりとか、秋なら秋まつりって、9月のが夏まつり、10月のが秋まつり。

向 その日は休むんですか。

下 2日休みます。郷社の方は3日休みます。

向 皆休みますか。

下 ええ、みな休みます。

林業労働者の人もやむ。今年から3日にしたのや。休みにしても仕事している人がいたり、休む者は休んで仕事しない。それじゃ面白くないから3日に決めて3日にしたんや。

それでやっぱりなかなか休めっ ていっても休まない時がある。

その他に10月20日にお祝いというのがある。それはこの今の大畑の御社祭りの神輿のよる所で、もつと前は盛大に相模とりもあつたが、今は儀式だけやる。

向 誰が儀式をやるんですか。

下 神主さん。

向 この区にいないんですか。

下 興徳寺部落に山崎という人。

向 興徳寺には、昔興徳寺っていう寺があつたらしい。そして興徳寺という。

向 10月20日はこれは何の祭りですか。

下 今年の豊年祭や。

これも休みます。

向 結局週休制とかはないし、農作業とか林業の作業とかだから、こういうもので、こういう祭ってというようなものを借りて、つまり休むとか、休養するということなんでしょうか。もちろん形式的にはそれは、神主さんなんか来て行事はするけれど、若い者としては、幼くものとしては、そうしょうちゅう休まれても困るけれど、体の休養だといつようにことですかね。

K 休養もある、それからお祭りだとか、そういうようなことには、ここから出た人、他家に嫁いた人とか、そういう人がその日によってや、お祝いして、御馳走もして、そしていろんなことに花を咲かせると、だいたいそういうこととなくです。

向 他家に行った人も、もどってきますか。

三井のあたりの人はいいけれど、少し一寸遠い人は？

T 他へ嫁いた人は、穴水からでも大体もどってくる。女でも男でももどってくる。

向 一番にさやかなのは、

T 5月 2 日それが一番盛大なんですね。

それから 7 月 11 日ですか。

向 郷社の祭りの時には、サーカスとかきたりなんかするんですか。

T いやそういうことはない。

露天商がくる。

向 こういう時に区長さんは何するのですか。

その段取りを考えてたりすることが、区長さんのお仕事なんです。

T いや、それは、その中にまたお祭りの世話する人かおるのや、交互に毎年 3 人受ってや。

向 これはとりさめた文書、書きつけみたいのが、あるのですか。

T 書き付け文書ではないけれど、一応口答で毎年やっており

ます、おそなえものなら、何だとか、そうなっています。

K さっき宮山といったが、そこに収穫があった訳ですけど、その田からの収穫で今までまかっていたのです。祭の経費を。

向 ああ、なる程今はどこから。

T 部落です。

向 それは何するんですか、剣えはどういうところに使うんですか。

T だいたいお酒でもぶったり、それとやっぱりおそなえ物、それにお肴、そういう面に使っています。

向 今年の場合は、合計しますといくらですか。

T 大体 1 回 15,000 円ぐらいでしょう。3 回だと 45,000 円いるわけだ。

向 なる程。郷社は。

T いや郷社は別です。郷社も大体 2,000 円ほどいる。

向 それから 10 月 20 日のおまつりは。

T そのお祝いといつのは、郷社と別や。それらの部落として 2 日間部落は一応お祝いの分でお勤めすんでから全部決算します。

冠婚葬祭の費用

K そういう所は祭りとか、それから結婚式とか法事とかそういうことに物すごくいるんですわ。

向 そのために働いている様なもんです。

T ずうと前からやかましく言うとりですけど、中々むずかし

しくてね。1年に葬式なんか3回、4回ありますが、その都度集った時には、経費がやりきれんと、もう少し簡潔にやれというけど、中々やれなくて、段々経費がいるようになってきた。

向　　こういうのが、一番派手に沢山使うのは、各部落によって違いますか。坂田なんて本当の山の中でしょう。ああいうところのなんか、やっぱりかかりますか。

ク　それにしても、大体その家の至禰にも、いくらか左右されるけど、三井で普通に葬式するなら15万円以上いるでしょう。

向　それぐらいいくでしょう。都会でもいりますよ。

下　わしらでは15万でできんでしょう。それで今の々々日ということになれば、また1つの法事でしよう。その法事でもお参りしてやっぱり御馳走します。

向　御馳走皿を買ったり、輪島塗りの塗物だとか、それから膳だとか椀だとか-----。

ク　そういうものは10年に1回とかを、ちゃんと箱に入れてしまっておくのです。膳を現金にして銀行に預金しておく、これは大変なことになるね。

下　やっぱり今の葬式なんか、これをもう少し共同にやったらいいやないか、それで現在の株なんか、そんな沢山の株なんかいらんし、共同にやっておれば、大変便利でいいと云っておりますけれど、中々それが出来ん。それはやっぱり今までの、現在ある、利用してはその経費なんか相当大きいもんや。

向　部落のうちで有力者の家に2、3膳あって、そして借りたりするといふけれど、段階をおいて2、3段揃えるという、そういう傾向がほしいね。

他の部落機能利用

向　それから電燈会社の料金はやっぱり徴集されているんですか。

下　それはやっぱり区でやっています。手数料が8円になっています。

区長の送出方法

向　そうすると後は、役員を、区長さんをどう送るかというのはどういう形になっていますか。

下　それはいつも12月20日頃です。わしらの部落は、他の部落とは全然反対なんだが、ワッポウにその区長なり、隣保班をそこで決める訳だ。

向　ワッポウってどういうことをする人ですか。

下　いやそれは村の1年の決算です。

向　決算の時に区長さんを選挙する訳ですね。で、その場合はどういう風に投票をやるんですか。

下　ええ投票です。

向　だいたい下準備するっていうことは、つまり区長さんていうのは、やっぱり信頼のおける人でなきゃならんし、お金も扱うこともあるかも知らん。ある程度の身土ないとそれは困

る。そんなことで、この次はあの人がいいんじゃないかというようなことは夫々隣保班なり、今何人かの候補者の名前を一応あげてみて、そういう形の選挙ですか。誰でも送んでいくという訳でもないでしょうね。

ク。 - ええ、これでＴさんは２年です。

役場との交渉

向 役場、市役所なんかにはどの位の回数で出なければならぬですか。

Ｔ 回数は平均月３回出張所へ行く。

向 主に出る会合というと、どういう会合ですか。

Ｔ 会合は一応区長会があり、そのほかに税金を納めに／回、それからその他にまたいろいろな用件で／回行っております。

向 隣保班というのは、これは自発的に出来ていたんですか。あるいはＮという組があって、その中にさらに２つの組があって、こう作ってきたのですか。

Ｔ 隣保班は戦時中に出来たんや。

向 その前、戦時中の前はどうなっていたんですか。

Ｔ 前から組頭があった。

これはどこの三井村でも、そういうことですが、隣保班が出来たということは、そういう形でそれが戦時中配給物質があった時にこれでは区長が全責任もってやることも出来んということで、隣保班を作った方がいいんじゃないかとなってそして継続しております。

向 火災、盗難とか、そういう予防なんかは、これどこでやるんですか。

Ｔ 火災は主にここで自警団というのがある。

向 これは他の組、部落でもあるんですか。

Ｔ ええ、あります。

向 盗難ということが下、出川に盗難連絡所というのがあります。そこへ連絡すると、その連絡所から警察なんかへ連絡することになっている。

区の常会というんですか、そういうものは毎月なり、／カ月に／回なりがある訳ですね。総会が／回あるだけですか。

Ｔ 総会は 12月の20日に総会をして、それから前は3月だったけれども、今は2月の月に、またその村の大体予算会、大体村なりにどういう今年仕事をやるという、そういうような予算会をやります。大体2月の5か6日頃でしょう。

向 あとはそういう会合ない訳ですね。

Ｔ ええ、あとは前に常会というのは毎月やりましたけれど、今は常会というのは毎月ありません。

その他に青年団なり、婦人会なりそういうような入達が、時々集っていろいろ会合を開く場合もありますけれど、村の会合というのはそれだけです。

農林業研究会と部落

向 そうすると、例えば林業なんかの場合に、今度は何を植えたらい、あるいはそういうような技術的なことはコロカッ

ぎの問題とか、そういうことを話しする折は、区としてもない訳ですか。

あるいはそういう会合で来ているけれど、そういう会合は来外別の会の終わった後で飲んだり食ったりする時に、そういう話になっていくと、そういうことはないんですか。或いは区に労務班みたいな組で、そういうの俺のどこ足りないから仕事あるから来てもらえんかというようなことなんか話に出ないんですか。

下. うん、そういうことは時にあります。それは今の木材の搬出でなくして、今の自分からの部落として、用水堀りがあり春になれば田に水が出ます。その時に組が出来ている。これは隣保班でなくして、隣保班の他に、組というものがあります。

問 この用水堀りというのは、さっきの共同作業のなかの用水堀りではない訳ですか。

下. ええ、それは違います。さっきの今の興徳寺の用水堀りはああいうのは結局は区全体としてやっているそうです。それから自分らとしては、そこに関係ある人達がノつの部落を作っている。

問 じゃ、そういう利害関係者だけ集って、適当に組作ってやっている。でこういう直接隣保班の集りとか、それからそういう区の会とか、それから出川の組のなんか集まりなんかの時に、そういう林業技術のことって見たり、それから農作業のことって見たりするような折はないんですか。

下. ええ、やっぱりそういうような時は、そういう話は出ますけれど、それはまた林業なれば山を持っている人達が、またそういう別にいう会合を、特に会合したい時には、その人達集まってすることはある。けれど村として集まって、今の用水おこしとかということはしておりません。それはその区その管理着だけが集ってやっております。話もあんまり出ない。

問 カツギについて、なんかどう思いますか。区長さん御自の。

下. そうですね。今では搬出の先決は道路の問題ではないですかね。

問 道路が少ないというめですか。

下. ええ、道路がまだまだ少ないから、少しでも車利用したいということ。始終そんな話が出るんですけど、まだまだそれが容易に出来ませんから。一辺に出来人から除々にやっの方がいいんじゃないかということで、やっておりますけれど。

問 こういうカツギは道路端までの運ぶ方法だから、そのへんを今一輪車みたいなありますとか、あれを少し改造して、人間がかつがなくとも、少し改造したものを作らせれば、押して運べないですか。

下. いや、それはちょっと難かしいね。現在のことは、今搬出方法は、道路のそばで搬出しているところも一応背中にかつがれるところは、背中でかついで出す。どうしても背中でかつがれんというようなところは、人夫が引張ったりそれから

馬で地引きでやっております。

問 そのへんの、確かに道路は狭いし、また林道も少ないかと思いますが、かつぐ問題は、そういう運ぶ問題はむしろ道路端まで運ぶ訳ですから、だからその道路は林道は少ないとかいうことと少し違うところがあるのではないかということですが、車道の道路を歩くんであれば、これは林道が足りなくても道路が足りないんだということがいえるけれども、そのかつぐのは、あるいは地引きするのは、そこから先きのこっちのことであります。道路を歩く訳でないし-----。

下 いやそれをあそこまで林道を入れれば、かつがんで自動車に搬出できるということです。そういうところがまだまだあります。それを今度は1000mもあるところを、かついで出していた。そこに道がつけば、かつがんでもトラックですぐ搬出できる。

問 それからそういう会合があった時に、この労力が足りないとか、ここにこういう仕事があるんだけれども、というような話しは、その飲んだり、食ったりした後、その総会なんか終わったりした時にはありますか。

下 やっぱりあります。今わたしのところも出かせぎということがぼつぼつするようになって、そして現在森林組合は県行造林とか、公団造林とかを、どんとんやっております。それがその仕事が、どうも金があたらんとか、なんとかということがある。それでやっぱり森林組合といって、公団造林を何十何年度までに完成したいと、それでは人夫が足らん

らんから遅れてくる。それで責任者という者が、やっぱり思ったより人夫を頼めんやさかい、仕事がはかどらん。そういうことが、やっぱり部落の責任者がその部落の人夫を使ってやっているでしょう。それでその部落の人夫がどうもこの仕事やったって、金あたらんということをして、というような話は時々出ております。

問 やっぱり区の総会のあと、飲んだり食ったりする時に出るんですか。

下 ええ、その地区から、その部落に知り合いが部落を作っているんでしょ。

問 例えばこういう中部落なんかの責任者ってどういう人ですか。組合の人ですか。

下 森林組合なら組合として、やっぱり県行造林なら県行の方に、やっぱり責任者はいるし、また植林なら植林の係の人がいるから、係の人がその地区に来て、その取人なら取人の係の人がいるから、いついつか、どこそこの木を伐れということとで、そんなら仕事が出来んということになりゃ、やっぱり森林組合もある程度考えるし、そうしたらやっぱりその人夫も契約の意味で仕事やっているから、その仕事はそれで遅れて来るのだから、そんなら森林組合なら森林組合の責任者の仕事がおくれるというから、そうするのでないですか。

問 そうすると、その責任者がそういう時に、会合に沢山人もくるし、云われる訳でしょうか。その会の責任者が中の出身の人でなくても、森林組合の責任者が来て、なんとかという

ようなことを宣伝するというようなことはあるんですね。

下. ええ、そういうことはある。村の寄合にこういうことは、ほんのわずかですけど、今のまた森林なら森林の山を持ってる人なり、またその管理者が集まって相談しようとかの時にあります。

尚. 植え付けなんかの時にそういう寄合はないですか。たとえば肥培があったとか、これはいいなあと、いうようなことを一定の責任者がそういうことを会合で云われるというようなことはないのですか。

下. それはまた、その会合の時に、森林組合がノ年に二、三回区長のところに来て、林業関係者を集めてお話しすることがあります。わしらの部落として、こう森林組合が試験的にやっておったところがあるんじゃないですか。この土地ならこういう肥料をやった方がいいんじゃないのかと、そういうことを研究していたんじゃないか。それはやっぱり組合自体がやっているし、やっぱり山持っている人達も、やっぱりいろんな肥料を組合の指導によって各所に肥料をやっては、この土壌ならこの肥料がいいとか、とやってるんじゃないですか。

尚. カツギなんかのことで、やっぱり仕方がない。この土地としては、一本伐りだし、一輪車もかよわない。寒いのが理由だとか、そういう話題は出ないのですか。

仕方がない、三井の現状としては、これはカツギの方がいいんじゃないかというような話、そういう意見とか、あるいは区の比較的山もっている方の御意見ってないんですか。

下. やっぱりそういうことは時々出ます。それが現在のところは山持っている人が伐り出しに人夫をつかう時、仕事せんで、それでやっぱりノ日ノ500円もとっておる。ああいうことやっておって、その山から金入らんと。それじゃなんとかもう少し仕事させるようにしてくれとか、そういうことを話す。人夫としては、我々としてあれだけの仕事を労働8時間でどれだけ出来る。ノ500円では安い。つとまらんという。

尚. つまりそういう会合の時は、区なら区の総会があった場合に、そういう風な話がたまにまた出た。一方ではだめだという。そうすると、同じ部落民としていっている訳ですね。でその片方の労働者達はそういうことを云うわけですか。

下. そうです。たまにそういうようなことは出ます。

尚. あゝ、そうですか。じゃ必ずしも云ったからといって、そういうかりに茶のみ話として話が出ても、労働する側ではまたそれ反撥する声はあるわけですか。

下. ええ、そうです。

尚. あゝ、そうかといってあの人がいうから、そうしなきゃならんかということでもないんですね。

下. それは別にいっいつまでも根にもってやるということはないです。一応集った後にうわさに出るけど、結局それをいっいつまでも根にもって対抗してるということはないけど。

尚. それは事業する側と、山主の人達と、労働する側とで立場も違うからね。

農業の機械化の状況

向 ええと、農業の機械の導入の状況、例えば耕耘機とかそういうのはどうでしょう。この区としては。

下 まあ、耕耘機のごとは相当入っています。

向 入っていますか。それは中だけではなくして、旧三井はという部落でもだいたいそういうことでしょうか。

下 ええ、やっぱりそうです。

向 やっぱり、こう入れた方がいいですか。

下 入れた方がいいって、だいたい-----。

向 例えば隣りが入れるから、あそこに身上(財産)のくらいあるのに入れた。自分の家でも娘を嫁に出さなきゃならんから、ていさいの問題もあるから、使う使わないに拘らず、能力に拘らず、ということに入れるんでしょうか。

あるいはやっぱり、本当に個々の農家が必要だということを入れるという形が多いですか。

下 やはり現在のところは、必要でなくして、どうも息子にそう云う嫁さんをもらわんならんと、今頃の若い人は、田に出て働かなきゃならんと、そうなりや機械を入れておかなあ嫁さんの束手がいないと云って入れておく所が多い。

向 例えばトラクターは大きい訳です。そうすると、こういうところに入って来ないと思いますけれど、耕耘機と機能は同じなんですね。

下 え、同じです。

向 つまり小さなところを耕す機械ですね。どこのメーカーで

どういうものが入ってきていますか。

下 だいたい入れておるのは、主にクボタが多いでしょう。

向 そうですか。発動機がクボタですか。あるいは全部が、作業機までもクボタですか。

下 発動機も作業機もクボタでしょう。価格が15、6万しているでしょう。

向 だいたい同じ規模のものが入っているんですか。

下 やっぱり耕作によって違いますけど。

向 他の用に使いませんか。運搬する時に、耕運機というものはつかいますか。

下 後にリヤカーつけて耕運に行く人は、ほんの僅かです。今では一輪車というのが出来ていて、それで運搬している。

向 しかし例えば少し遠いところに農地があったり、薪を運ぶという場合に、耕運機を使ってないですか。

下 ええ、少し使っております。ほんの僅かです。

向 で、区の隣保班とか、2つの組とか、あるいは大きな区、こういうところではどういう農機具のそういう無駄というか、そういう見栄でやることに対し、最近はどういうような態度をとっているのですか、というようにお思いになるか。早い話が、ひどい金もないのにそんな見栄はっても仕舞かないと、というようなことでやっているのか、あるいは全くそんなことは、区の仕事と関係ないという考えでやっているのですか。

下 それは区の仕事と別に関係ないです。

向 農事生産組合には組合長がいるのですか。

丁. えーと、中にはやっぱり生産組合長かノ人います。組合長は機械については、普及もその他も関係ない。

農協について

向. ちょっと話し飛びますけれど、農協とYさんのところの製材工場は今つづれた訳ですね。ああいうYさんの若々しいやり方というんですか、そのつづれたことの話も伺いたい訳です。簡単に伺いたいわけですからけれども、そういうことと、それから農協の組合長というもののについての勢力と伺いますか。この旧三井のそれと森林組合との、例えばアデ林業なんか作る場合は、一番端的に現われている訳ですけど、旧来の林業についてやっていくと、そういう形とマツにしたらいというような、パルプ材だというような農協の考えなんか、林業について違っていると思うんですが、そういうことは山持ちさんや林業関係者にどういった影響を2つの流れというか、与えているのでしょうか。

なかなか大きい問題ですけど、つまりですね、そういう農協のような漸進的といえるかどうか分かりませんが、要するにそういうものに、そういう考え方になびく人達とかいうんですか、若い人達、あるいは年寄りの方とかいろいろ違っていると思うんだけど、ある部落によって違うかも分らない。そういう人達の農協に対する利害関係と、森林組合に対する利害関係と色々と利害なんかあったりして、意見が多くあると思いますけれども、そういう関係はどうでしょうか。

丁. どういうもんですか。わしらの部落じゃないし。

向. それだけれどもやっぱり旧三井の影響ある立場ですからね。森林組合にしたって、農協にしたってお金を借りるのは農協の力は大きいですね。また木を植えることについては、森林組合の力が大きいし、区長さん御自身ということでもなくとも、このあたりの部落の人達の、こういう問題についての考え方とかでもよいのだが。

丁. 今の林業ということになれば、Yさんのことは主に自分が人にやらせているに過ぎない。本当の林業については、私はそんな詳しいことは分らんと思う。農業のことは、現在のところは、三井農協をどんどんやって、今じゃ二期、三期Yさんはやっております。それに合併なんかもやったのも、大いに合併問題について検討しているのではないかと思っている。

合併ですね。三井の農協が輪島市と合併するということですね。Yさんも前は農協の専務かなんかやっておいでだけども、山のことは主に自分が人頼みしてやっているし、本当のどういうことについてはどういう風に研究しているかね。

向. Yさんの製材所がつづれたといういきさつを御存知ありませんか。何時つづれたのですか。金沢かどっかに持ってたんですか。終戦後22年ごろ出来たんですね。

丁. 結局はわしらは思うに、あの仕事は自分の山を伐り出して入れていたもので、どうもあそこではやっぱり木は沢山あっても、どんどん伐って売り出すことになればということになれば、なんかそういう関係上やめたんではないですか。

向　　いつやめたんですか。

下　　十何年もたつでしょう。

向　　あゝそうですか、じゃやってから向もなくやめたのですか。

下　　ええ、4、5年ほどたったでしょう。その当時のことは、森林組合の専務もしておいでですし、結構山仕事も熱心にやっておいでだが、今では山のことは前からみれば、関心が薄いんじゃないんですかね。製材がつぶれたということはそんなことでしょう。

向　　今も山をだいぶんもっていらっしゃるのですか。

下　　ええ、山を相当もっているんでしょう。

向　　農地は少ないんですね。

下　　ええ、農地は農地改革になってから、少し作っておるだけでしょう。

農地解放の影響

向　　それから農地解放、農地改革がありました。昭和22年ですか。あのへんでこの農業の、例えば中の具合というもの、例えばその機会に小作から自作になった人がいるとしたら、小作なんかっていうと、どうしても土地が少なかったという人で自作になって、そういう人達がどちらかという山林業労働者なんかになったり、そういう時代の波に乗ったというか、そういうことで発言力も大きくなってきたとか、あるいは労働組織のそういうあたりで、まとまって来たらしいとか、あるいは同じだとか、そのへんはどうでしょうか。中の組の具

合では感じはどうでしょうか。

下　　やっぱりその前の小作しておったときから全然変わっておりますね。

向　　どういうふうに変ったのですか。

下　　いや前ならやっぱり小作なら小作ってというような気持であつた。お前さんのいうこと聞かなきゃ、我々は生活できんというようにおつたけど、今現在のところは小作も皆一諸やと、当然だと、それだけこの人は山持ちだから遠慮する必要はない。金持ちだからといって、そう遠慮することはない。そういうところへ行っておるんでないかね。

向　　しかしその昔の、例えばこのへんはどうなんですか、あの柴だとか草だとか、例えば下草とかそういうものは山主から自由にとれるんですか。

下　　ええ、それは自由にはとれる。

向　　どこの山に入っても、伐採の後に入って適当に自分のものとしてとれる。

下　　それはある程度はたき木にする程度です。

向　　そういうことなら、三井全部同じですか。

下　　いやそれは地区で違う。中の場合は、それは草刈り以外のことは、山主が黙認しています。山に行き柴位は畑の手位を伐りに行く位、そうしている。

向　　それがそういう小作の人達が、今度は農地改革の時、比較的平等な持分になっちゃって、昔は小作の人は草なんか、その地主さんのところだけにしかとれなかったんですか。

下　「そういうことはないんですか。どこでも好きな所でとれた前から同じです。」

問　そういったように、こう発言力が強くなったというか、意識が高まってきたとかいうか、そういうことで片側からすると、めさばり過ぎてきたというようなことですが、でも特に労働組織みたいなものを作るような形になった訳ですか、あるいは同じなんですか。

　　労働組合でなくて、いわゆるカツギのグループだとか、そういう機会にだんだんまとまってきたとか、或は同じだとか、ただそういう個人々々の意識はそういう風に変わってきたという程度ですか。

下　そういう程度です。

　　自分らが、この今の2月の申頃にさっきお話しした寄合の時に、今一応山でも持っている人は、下刈とか稲とか、そういうのを頼まなきゃならないし、それからまた日雇いしている者は、頼まれてもらわないとならないから、その時に大体その日を決めています。その決めている時に、そこにやっぱり頼むと、頼まれるものの言葉が一寸そこで複雑になっている。ひまがかかっています。その時のことは、山へ行ってカツギしている者も、始終田仕事に頼まれていっている者も、お互いはどうしてこうしてと話して、それで甘をやりくりしておるのや。

林業労賃について

問　これは今年800円と500円ですか。この決め方はどのようにして決ったんですか。

下　今迄は、これでいいやということになると、それならいくらと決めることになっていて、区長がその話を持ち出して、今までと米も上ってある。だから少し上げてくれと、そやそこにはとんだけ上げるということになりや、山持っておると、田の日雇い頼む者と、頼まれる者が、そこにとれだけのものができるかというけれど、やっぱり頼まれる者にすれば、これだけしてくれと、はっきりしたと言わんし、そこに難かしいものがあるが、今年も相当ひまかかりました。それで結局は800円と500円ではということに決まったのです。今の造林賃金は800円です。田も山も一緒にしております。それはやっぱり村としてだいたい日雇い賃を決めておかねば、お金が今かりに自分が800円くれて、そしてちょっと仕事がひどかったので、晩酌の1杯飲ましたとすると、そしたらその隣りのものに一諸に仕事しておっても、一方では酒も飲ますし、御馳走もする。これでは人夫を頼まれん。それではいかんから、一応村に、とに角ははっきりした金を決めておけば、皆がそういう気持でゆくし、また頼まれん。

問　で、他の部落と、例えば本江だとか、この隣りの近隣の部落との賃金のつり合の協定とか勘案はどうなんですか。

下　それは、こうして中と本江は隣村々から、いずれ本江なんかとちよっと連絡して、話してやっておりますけど、日雇い賃金等はその部落その部落で違います。

問 あ、そうですか。今の興徳寺なんかとはまったくとんがしゃりに合っておりますね。これは興徳寺の共同の賃金の場合ですよ。

Ｔ わしらの 800 円は、今の森林組合なりとは違います。山仕事というのは一応山へ行って下刈りでもするとか、それから山の穴掘りするとか、そういう賃金です。

問 それが 800 円と 500 円ですね。それでさっきの部落の共同でやる場合も、やっぱり 800 円と 500 円ですか。

Ｔ ええ、それは一諾です。その外に違うのは、今の特にコロカツギですね。

問 コロカツギの場合はどれくらいですか。

Ｔ いやそれは違うでしょう。

3 元 Y 製材所工場長の話

(10 月 22 日 輪島市三井長沢にいる元 Y 製材所の工場長を約 10 年間つとめられていた M さんの話をこれから森林組合で伺います。M 氏は田 19 反、畑 0.8 反を所有。)

Y 製材所の発足

問 実は私はいろいろ林業技術について研究しているわけなんです。何回も伺っているわけなんです。

あらかじめの内容は分ってきたんですか、木伐業の関係とか、製材業の関係ということはまだ良く私もわからないんです。例えば、運ぶ労働者にしてもやっぱりそういう伐り出しをやるから、ここで働けるわけです。もちろん山に木を植えるという地主さんのこともありますが、そういうことで製材業の関係とか、それを伐り出す関係とか、いうことを以前に出た調査書なんか読んできたわけですが、その以後かなりの変遷がある。それで一番大きな変遷は昭和 24 年あるいは 28 年頃の調査では、大分高く評価されているわけですけど、Y さんの製材所が 22 年だかに出来てますね。それのその後の話を現在お伺いするとなくなっている。その辺の事情をお伺いしたいというわけです。

M さっき、私は 18 年から 30 年まで工場長やっておったわけです。それで結局 18 年の暮から 21 年の 9 月まで、石川県地方木伐株式会社というのがあったでしょう。あれに勤めておって、それから父親が怪我して、全然田んぼに出ないというような状況になったもんですから、やめたわけです。そしたら私や

めた途端にYさんが、今のYさんの父親が見えた。あの人が森林というか、大々的に森林を育てる人は、最終目的は、普通の素材業者、あるいはその他の製材業者に儲けを取られて売るのが販売の目的ではない。出来ることならば自分が育てて最終販売価格とでも申しましょうか、一応製品化して販売した方がもっとも収益が多いんじゃないか。勿論小さい人は出来ないとしても、大きい森林所有者です。そういうことで大きい人はそうやる。小さい森林所有者は、合併してでも、最終販売価格を獲得できるような方法にやったらいいんじゃないかということに、あの当時たしか個人経営ではZさんがトップをぎり、その次に森林組合が小規模者を代表するような形で、森林組合聖堂の製材も出来たわけです。森林組合は5、6年でやめた。そういう目的でやったのが始められたんです。

勿論あの人は山林面積台帳で、85町歩の山林面積を持っていたわけです。三井と大屋で、地続きです。三井のものを含めてです。大屋地区は1田地で、三井は1町、2町と幾団地にもなっている。それが9割までが、全部植林してあったということなんです。そういうことで、目的は製材だ。今現在の立木の販売価格と、その当時の販売価格というものは、結局業者の搾取が多かったといえはおかしいですけど、一般の森林所有者は真の木の値打ちと見ることを知らなかったんです。値段あるいは伐積を、今現在これまで報道機関とか新聞とか、あるいは雑誌とか森林組合あたりの技術面とか、いろいろな面で、結構勉

強して、どんな小さい山主でもそういうことを見ることだけは上手になってきたということは事実です。そこで発足した当時はそういうことを全然知らない。だから一般の素材業者にほとんど流されてやっておる。出発点はそういうことだったんです。

だからそういう当時は三井は非常に輪島、富山、金沢の業者が勿論入り込んで、三井の業者あたりなんか、もう問題でなかったです。ほとんど他の資本で買っていった。だからどうしても儲けが足りなく、余計取られていたことは事実である。そういうところにまたZさんが始めたんです。そしてZさんがやる、森林組合がやる。引き続いて小松製材が始まる。保田さんという製材があるが、これも結局地本社の工場であったけれども、地元に移下して、個人経営にかわる。そうようにして製材が方々に出来たということか、三井以外の業者の立ち入る隙もなくなったということなんです。結局他から入ってくるということは非常に至費がかかるということでしょう。そのためにそれがなくなる。そのために三井の業者は結局それだけ高く買った。買い付けあたりは高く買うようにしむけた。資本というものを利用してです。そのためにそれだけ高くなる代りに、製材も最終販売価格を獲得出来るような体制にもっていかねきゃならない。

三井の業者あたりが資本力というものを利用しないで、まだ他の市長村の業者あたりにまかされたまゝの現状だったら、三井の木はまだまだ安いでしょう。それにまた人夫あたりを全部雇用したという関係で今日あるわけだ。私の考えでは、これは

過言ではないと思います。それが個人経営を特に始めたYさんの理論です。

22年、私が9月1杯でやめて1週間もしなかつたかね。Yさんが結局製材やるんだ、と。それから私に毎晩毎晩来たんです。私は製材いやだ、うるさいことはやめたと云うて、断ったが頼むからやってくれといわれ、稲刈りの最中に1週間も毎晩毎晩来られ、しまいに根負けして、朝早いでしょう。晩おそいでしょう。眠むうて、引き受けた訳なんです。それから埋め立てから、埋め立てなんかはあの人の土地を埋めたんですから大したことはなかったが、問題は土地許可問題とか、まず機械を買わなきゃならない、苦労しました。製材機械が手に入らんで、金沢では誰かが製材を作る工場もたしか出来たはずですけども、全く素人ですからおいつかぬ。そのため京都、大阪に行こうということで、京都、大阪と神戸あたりの製作所を、今の息子さんと2人で、1週間程廻ったんですが、どこもゆとりがない。そこで一番ゆとりのあるのは、和歌山県の専門店であつたんです。そこへ行って割り込んでみようということで、そこへ行つたんです。そこへ行ったら丁度半製品相当持っておって、3ヶ月程持っていただければ、大丈夫、納入出来るという見通しかつて、それからはっきり建設出来るということになって、その他の仕事も進めた。そして結局22年、やめたのは私21年です。21年9月やめて、創業始めたのが22年8月10日前後でした。10日前後に始運転やったのは、10月から製材機械を買い入れることから色々始めて、初めて創業開始した、

こういうことなんです。

Yさんの目標は自家山林の伐採を1,000石、それから買入れをだいたい2,000石、その他500石ないし1,000石で、年間4,000石を製材で消費するという目的で始めたわけです。そこで1,000石あれば、あの当時1,500から1,600ないし2,000石だったと思うんですが、はっきりした記憶はないですけれど、1,000石出して儲けて製材を運営し、1,000石出した素材で、自分の家庭の運営をするというふうな狙いだったんです。ところが今現在ではそれでこの道路も私産が主体になって、勿論当時の森林組合が音頭とつたんですが、自分の家の文歩とかいろいろなことがあつた。その当時の出発点については県の林務課あたりに私相当行って来ました。また喧嘩もしてきたし、それで最後に地主の接衝も勿論私が頑張つて参りましたし、製材を運営しながら林業の開発にあたっています。それはなぜならば、あの当時から、暖冬異変とかといわれまして、冬全然雪も降らなかつたという年があつたはずですよ。

林道がないために、殆んど雪橇を利用したということなんです。そのために林道の必要さを痛切に感じたという訳なんです。それで止むを得ず、そういう方法を頑張つたということなんです。一番あの当時近いところで、さっきの項目にもありましたが、1丁場といいですか、中継所がだいたい1箇所、2箇所、3箇所、4箇所、5箇所目ではないと、かつぎで製材まで来ん。それで最悪こういうことやっていては仕方ないということで、山のてっぺんを、だいたい旧道といいですか、昔の山道と、地主

の承諾をえて、あっちこっち藪の向に一寸馴らして、しまいに馬車をあげたのです。ところが馬車をあげても、この向かいがだいたい海拔2500でしょう。あの山のてっぺんから向うに行っているんです。今この林道を上っていけば一番高いとこですけど。そのてっぺんまで来るけど、あとはこない。かつぎでおろすか、修羅って木をすべらして、あれでやるか、木馬ではとてもその当時まだ十分なワイヤーを買えない時代ですし、ワイヤーでつながないと、どうにもならないとこなので、修羅でやろうと警戒員を出して修羅をやったんですよ。

同 何年ですか。

M 23年、4年頃なんです。雪が降らんという、実に困った欠陥があったわけです。そしてそういうようなことをやった。

そして順調といいますか、それは製材面では、非常に困難したけれども、経済面とか事業面においては、全然問題なかったです。非常に順調にいったわけです。それが一時的な不況といいますか、素材高の製品安という目に合ったことが、25年から年でした。それがだいたい石川県の本枝相場がそしてあれで頑張って24年から5年か、もら直した。

それから父親が死んだんです。

同 なんていう名ですか。

M YH、その死なれる年ですか。有栖川宮の日本の森林撫育優秀者ということで、確か全国表彰受けた、なんか記念事業で表彰されておるとかということを聞いております。全国にそういう個人経営の優秀な植林家20名毎年表彰しているとかいうこと

を聞いておりました。現在も有栖川宮家の名の入った硯箱を送られて飾っておる。

そういうことで、それから現在のYさんが引きついたということなんです。そういうことでお父さんが死なれる1年程前までは、もう全般的に三井全盛です。伯人全盛の1部の人材山林の手入れとしたか、後の人は殆ど、これは全国的の傾向であると思うですけど、もう乱伐一歩限りで、造林とか手入れというのは、殆どしなかったです。それがYのお父さんがそうじゃないと、これは戦争が負けて経済界がどうなろうとも、日本は木がないと家が建てられないという生活の常識になっているんだ。だから他の人がせんでも、私は山の手入れはしなけりゃならんと、もう今ではどんどん皆が外地から帰って来た。

あの入か人より先かけて、10人程人夫を頼んで、一番先に始めたのは、植林じゃなくして、まず下刈り、手入れです。その次に枝打ちというふうに始めたんです。そして始めて1年に30万円だけ入れようとした。当時は私の家の運営は、Yさんの家の運営が、私の考えでは、1年の予算が5~60万円だったと思う。そしてそれをなんとかして、30万円を山の造林にかけたいということをつねに口に出しておりました。だから、1000石の素材出しても、最終販売価格にあっていて、製品価格を2000円か2300円だったと思うんですが、それが勿論歩止り計算からいけば逆算してくれば、1000石で製材は大体歩止りは6分5厘から7歩ほどですから、そうすると2000円にしても150万円ぐらいの水揚げがあつたということです。

それから経費引いてもYさんの考え方では、120~30万
残るということで、家計費に5~60万円、山林に2~30万、
後の残りは製材の資本に充実にしようとした。それは、
何故って言うと、結局物価の値上りで、去年1000石買ったの、
今年は700石しか買えないというように、ドンドン騰ってい
ったでしょう。そこで勿論自分の売った価格も上がるけれども、
それは1000石しか伐らなかつた。余分な分は絶対伐らなかつ
たです。1000石伐っておれば私の家は30年や50年大
丈夫だろう。いかに物価が上がっても、値段も上がるんだから、そ
ういうことだったんです。そういうことで、あの人が始めたわ
けです。

息子の聖堂

そしてお父さんが死ぬと今度は、YTさんが引き継いだ。そうすると、YTさんが引
継いでから、今度はこれから植えなければいかんとならん。私も勿論植えね
ばいかんと思った。そういうことで、じゃ、やるといっても植
えるということに集中したわけです。勿論整理をすることは、
勿論やっておりますけど。そのために一ぺんに100万超過し
ましたです。最初あの人が始めた時、親父は2、30万やった
けど、わたしは7、80万入れてやると、そして地植えから、
そういうものに4~50万増やしてゆく。ということで、7、
80万入れた。最初の初年度に使いすぎたから、100万
を越えてました。私の見とる分はです。そして4、5年やった
でしょう。それから4、5年やって、28、29年ですか。

木材の一種の不況、ほとんど横這い以下に下ってしまって、そ
して今度は今まで、必要経費以外に値さえよければ売る式で、
皆の各森林所有者の精神的な安定度がなかったということです
が、しかし日本はどうか独立もしたし、安定して将来性があ
るんじゃないかということは、どうやら一般の人達もようやく
身にしみかかった。そのために飲んだり食ったり、その当時は
昭和27、28年頃までは、もう夜になったら三井の駅のあたり
のどんなところでも、もう奥屋でも、酒屋であろうか、どこでも
飲屋同然で飲んで、5、60人いたもんです。その当時の林
務課の経営指導員とか、三井に来た人達は皆知っておりますね。

それは、なぜそういうことをしたかということ、敗戦の痛手と
簡単にいえばいえますけれど、殆んどが原子爆弾1発落せば、
焼野原になるんじゃないかと、そういう気持ちも相当あるんじや
なかったか、ということです。ただ、そういう森林の育て方を
した人はYさんだけでした。その当時はあと個人経営の人達は
50本や100本植えたわけですけど。

だからもう山出しのかっぎの人達は、勿論飲まなきゃ、やれ
ない。もう飲む、それに混って山主の人達は一諸に飲んで歩い
たもんです。私達もよく飲んだもんです。製材の工員あたりで
も、朝から晩までやると「Mさん今夜一杯飲んで来るぞ。」
「お前銭あるか。」「どれ、これも勘定日まで勘定払えるだけ
計算している。」そして勘定が払うだけあれば、あと飲み屋で、
家へはあとは一銭もやらぬ。別に家の親父もそれに文句をいも
せん。

それだけ人々が荒れていたというか、将来的な考えを持っていなかったということかね。それがあつ、9年ですか、いや、やめる1年程前になったら、非常に不況になって来ました。不況になって来たのと、それにYJさんが、YJさん自体も相当飲んで歩いて、もうしまいに私も奥さんも手におえなくなりました。結局、資金も私が販売から集金は勿論、山林の伐採もすべて廻るんですが、多い時には人夫100人位使っておったんです。それは製材も山も全部含めて、100人位恐らく雪の降った年でしたが、一口にええは100人位少ないというし、1人前を働いているなら楽ですわ。だから朝製材の段取りして、結局どの人前というのは何人前もあるわけですから、勿論請入れ制のところ（請負制？）もあるし、受入制でなく、日雇制のところもある。しかし受入制だから、人夫見廻りは、よろしいけれど、産出した丸太の監視とか監督とか、もう悪い奴がおつて、盗んで行くやつがおるし、そんなやつがおるし、そんなのを見廻りに相当苦労したもんです。100石盗られたこともあります。それだけ廻っていてこういう目に合うんですから、雪道を利用して、ともかく雪の道へズラーと両側にこう丸太をおくんです。置く場所は田んぼか畑か道路端でしょう。そうすると、ずうーと横1台か2台分積んで両側に並べる訳や。だから春先さになると雪が消えると、一番前の方からしか、自動車積んで運べないということでしょう。そうするとちよつとでも油断したら結局Aの者がこの辺まで来ておる。Bの者がこの辺中間に入って、Cの者がこっち側の中間においているとい

う具合に置いているということでしょう。雪が消えたら土場はなくなるわけですから、そういうことで100石ほど盗られておる。それから喧嘩してどうにかこうにか犯人を駐在所にちゃんと連絡して、かわりを取りかえしましたけど、わしは絶対そんなことはやらん、やらんと頑張っておりましたです。

向 何人の労務者ですか。

M いや、素材業者です。素材業者がそういうことやって非常に困ったことがありました。それでそういうことが三井にひんぱんではないけれど、3石や、5石ちょいちょいあった。

そういうこととYJさんの考え方は、あの人もYHさんはそういう考え方で製材所を始めたが、YJさんの考え方は、私にいわせると、結局一理はあるんですけど、これだけ皆さんが素材を見ることも結局搬出とかいろいろな面の、経費面の必要経費とかというものを、もはや全般が知りつくしたと、だからそして県外、県内の三井地区以外の業者が殆んど入り込まなくなった。そうすれば素材で売っても、今までのような踏みつけられた値段で売るといことが殆んどない。だからうるさい製材あたりするよりか、立木で売った方が利口じゃないか。またむしろ三井の業者たちが競争で高く買ってくれる。そういう考え方を持ったわけです。それと丁度その当時の彼の心遣とでも申しましようか、私の判断では、丁度農協の理事にもなりましたし、森林組合の理事にも、結局はた部落で推薦されて来て来た、それまでは子供のように――。

同 それは部落から推薦されるわけですか。

M 実際は総会またはそれ前に、事前に立候補制と申しましょうか、そういうようなことをやろうと思うですけど、定款の内容とは反対に、やはり各部落で理事なら理事、監事なら監事というように、部落であんまり競争心おこさずに、仲よく出した方がいいんじゃないかという下の申し合せです。それによってでてくるといことなんです。それで私の部落からは＼＼さんが出た。

で、なぜ出したかという問題もあるわけなんです。それは三井の農協は赤字でどうにもならないというほどどん底にいつておったわけなんです。相当の預金があるけれども、農協は全然空っぽで、その金額面だけは支拂い出来ない。ということで、＼＼さんあたりにも出てもらって、大口預金をしてもらって、そして運営資金を作ればという一つの考え方です。そういうことで、あの当時は各部落から出た理事が皆敗戦の人に出てもらった訳です。そして農協へ相当何百万円の預金をしていただいて、それを運営資金にあてて今日までどうにか農協が倒れんような頑丈なものに育てたと、こういうわけなんです。それが一つの副産物ですけども、そういう公取につかざるをえんようになって来た。

同 三井農協のそういう赤字を解消するために、＼＼さんが出て来たというわけなんですね。森林組合については。

M いや、森林組合はそのために＼＼さんをおされたというわけではないけれど、結局その当時の三井の1つのもっともそういうこと

が関心事というか、全般的にそうだったんです。

同 で大口預金をするということは、その農協の組合員という意味ではなくて、

M 農協に預金もするんです。

同 それとや大口預金というのは、森林組合か、どういう形ですか。

M 何人かです。そういうことで何かをやらにやいかんということとは非常に三井の全般的に空気が流れたわけなんです。自然的にもです。そういうことで部落からも、よそからも、そういうことだから是非部落からも、＼＼さんに出ていただこうということをお願いしたので、それが理事に、最後に組合長にもなりました。理事が総会に承認されて、理事の互選で組合長なり専務なり決める訳ですから。そしてその会合に＼＼さんが組合長になれということになったわけです。

それから農協の再建ですけども、大口預金というものを勿論＼＼さんが先頭に立って頑張りと、再建整備を受けて、今日めらしたということなんです。だからその当時の＼＼さんは山を2千石位一遍に伐ったんです。

同 30年頃ですね、＼＼さんが製材所をやめる頃ですね。

M ええ、やめる頃です。そしてその金を300万円位農協に一遍に預金したでしょう。自分が先頭に立って、今度はあと各理事の入産にどんな理事でも最低20万円位出した、今でも励んでいます、その当時それやったもんです。なかに出来なかった理事さんもおりますけれども、

その当時は各部落に賤商が出て来たもんですから、預金ではこれも私の推定ですけれども、5~600万円できたんじゃないですか。それと同時に、今までも預金引出しで、農協へ喧嘩ごしで行ったんです。その預金が入って運営資金が多少出来てYさんいつでもこい、10万、20万ならいつでも払ってやるから、いつでもこいという式で、金庫の中に入れたわけです。で、人間って正直なもので、何時行っても金はもらえるんだという安心感があれば、誰も預金おろしにいかんもんですわ。その当時は、筆筭預金では利子がつかんから、農協へやったか、そういうことになった。取れんようになったということか、Yさんのそれでそういうことが解消されて、皆安心して農協預金した。だから今でも一部の悪い考えの人たちが、まだ2~3人私、見ておるんですが、Yさん農協組合長やめたらもう預金引き出さんとあかんぞという人が現在おります。そういうことっておる人おりますわ。Yさん組合長やめたら、もと通り一緒だと、100万、150万円といってるけどあかんぞ、そういうことに一生果敢にどういううわさを聞かんかと思って目を丸くしている奴おります。だから面倒なことだなめと思っています。農協を合併してしまえば問題はないが、

そういうことでYさんの製材をやめようと、結局その原因は最初申した素材の販売というものは、搾取的な業者がいなくなったために、安心して立木が売れるようになった。それからまた全般的に立木の見積り、石数とかあるいは販売単価とかという、非常に全般的に勉強して上手になったということがある

わけです。それと今いう公取方面に引っ張り出されたために、製材も見廻われんと、で製材があればやはりうるさくて、そういうものに専念出来ない。資金面の金も私の印では駄目ですけど、Yさんのはんこはない。実印は1つしかないでしょう。で、森林組合も欲しい、農協は勿論欲しいでしょう。森林組合の役員にあとでなったんですけど、そうすると両方に出ていく。製材がなり立たんということになって来たわけです。もう製材のする人たちに対する北国銀行あたりの手形あたりでも、北国銀行の用紙を20枚ももらって来て、自分の印鑑押して、私にあずけていく、というようなやり方しかできなかったということなんです。そうすると結局非常に重要面にも支障をきたしたという点もあったんです。そうしたら製材やめんかということで、もう私の身体もつづかんと、そういうことであの入、スパッとやめたんです。その1週間の前にやめるということをや告したら、君、急がしいし、君に無理ばかりえこったって、君だって農業やめてというわけにいかんし、製材おかれんところいう話じゃ。「やめるんですか」「やめるは」こういうことですわ、

「そうすると後始末はどういうようにするのですか」「土場にある立木なんかは全部他の人に売ってしまって、製材も売ってしまう」「それから従業員はどうするんや」「従業員は退職金全部出す。出してわしの山林事業の方へある程度吸収する。そして吸収出来んといえは君と目立だけだ」私のことです。私勿論兵隊に行く前は、5~6年Yさんの造林をやったわ

けです。植林とか造林全部をやったわけですから十分経験しとったから、製材の時にお世話もしたわけなのです。製材業の間でも。

そして植林関係は現在では年間今のことは入夫が相当おらんになって現在4、5人程度ですかね。

同 YJさんは森林組合の理事ですか、専務さんですか、常務さんですか。それをされた時は、どういう形で出たのですか。

M いやそれも部落から、最初出発点は、自分が出たいからということではなくして、部落から出てほしいということだったんです。

同 それで何か森林組合でもすかしい問題あったんですか。農協でええは赤字だったとか。

M ええ、森林組合も農協とは違ったけど、そういう再建ということを目標じゃなくして、結局山林所有者が当然森林組合の理事になってもいいはずじゃないかと、こういうことです。

同 今はYJさんは部落でどの位もっていますか。

M 三井だけなら10町3反程でしょう。台帳面積です。結局ということで部落の入産もずるく考えたといえはそれまでですけども、当時は大きな人は当然理事になってもらってよいだろうということで、YJさんが出られたということなんです。農協理事の当時、YJさんは田圃作っておった。田圃4反ほど作っておった。だから農協の理事になった時から2年程たってから、農業もやめる、そういうことです。

三井林業の2つの途に対する工場長の考え

同 今のYJさんの林業経営の考え方は、アカマツ、パルソが中心であり、企業的に対して家業的なやり方が多い。このまゝで安全ではあるか。そこでYJさんの農協の林業の考え方の、森林組合のとだいふ違うと思うんですけど。どうですか、こういう2つの考え方に対しては。

M 私はこうして林業の指導機関の人とも、年に5-7回も会って、場合によっては一杯飲んで意気投合して話ったり、また三井の山で色々見聞しておるのですが、私の考えでは、やはりこういう小面積の場所で、三井の入産に云わせれば2町歩も3町歩も持っていれば、大きな山持っている顔している。そりゃ、評価すれば2000万、3000万円になる人が沢山おります。

そこに2000万、3000万の山林を一応現金に換えて預金したらはどうであるかということです。その預金利子だけで肥るか肥らないかということと、三井の要するに近代的なという、若いものを育てて、改良ある育て方をしなければいけない。それが実際、現在のものに合う、それから打算的であるという考え方の面からすれば、金にしておくか、木にしておくか、そこで私は100町歩、200町歩とある人とは、寧ろ金にした方がいいんじゃないか、そして、何十年何百年たてはたつほど成育はおちてくるんですから、そういうものはどんどん伐採して、新植樹に切りかえて、余分な金を預金しておけばいいんだ。

だからせいせい5町歩までの入産がそういう打算的なことを計算して、預金するということを考えても、成る程計算的には

よろしいけれども、利子だけおろして後は絶対使わない、これ5尺、6尺の大木の身がわりだという考え方を持っておればいいですけども、それは考えはもっているんですけども、ついでに預金通帳にのっておると、すぐ使う時に使う。ところが山に10万なり、20万なりの通帳の残がたっておるということになればなるほど、あの木1本売るからこいよ、10万だよといえは、8万5千円だということになれば、自分が10万だと思っただけでも、8万5千円になって評価額が8万5千円の金が入るという場合によれば預金通帳だと10万円だけど、8万5千円だったということもあり得るけれども、小さい所有者はこれは金を欲しくて育てることは間違いないけれども、やはりこういう山間地の人達は金を、太る木をながめて、そして金がふえたら、そういう楽しみ方と申しませうか、木を育てる一つの愛情ですかね。これによって結局山林というものは、私はささえられておるんじゃないか。打算的には明らかに伐ってです。そしてまた植えるんだということだけに、山林は成り立っているんじゃない。そういう、だからそれによって考えれば、無理して伐る必要はないんじゃないかと思う。電話1本売れば、いつでも10万、20万の預金はおろせるんじゃないし、場合によれば預金通帳が20万円になってくる場合もあるということでしょう。1本の柱を500円だ、山主が思っただけでも、業者が2000円に売れるということになれば500円利息がついて帰ってくる場合もたくさんある。これは小さい例であって、そういう考えでない、2町歩や3町歩の山を、どんな態々ことを考えとつても、現金にしておくとすぐになく

なってしまう。私はそういう考えなんです。

育てる、のびる状況を眺めて、これを楽しめるところの山林を持ってる人のいいところであって、愛情-----。

木というものを我が子のように思うような人たちが、社会的にのびるということだと考える。これは勿論それだけでは打算的です。私も、もともと伐ったことはないんですけども、35年の冬ですね、雪でやられました。それから7年か8年でしょう、ジェーン台風だったか、伊勢湾台風の時には、相当やられました。その時も14.5万必要のない金を作った訳なんです。それがあの倒れた木の代償だから、これは山にかけるつもりで銀行においておったんですけども、いつの間にか其の後はどこへいったものか、ないと、こういうことなんです。だから三井あたりの人は必要迫らなければ伐らない。こっちの方があっちの方が軍配をあげようということになると、私はやはり打算的にいくのは、大面積に少なくとも三井あたりでは、50町歩以上の入産と、それ以下の入産は、やはり箱庭の木を作るわけではないですけど、全国的な意味でみれば、いうてみればこんなのは箱庭と一緒にしよう。だから思い切つて伐れんのは当り前だ。無理して打算的な方々じゃなくて、置いておけばいいんじゃないかと思う。

だから私自身も伐り出しをやっておりますけども、山主が売るから買うてくれという場合もありますが、これについてはやめて置きなさい。だめですよ、あるいは金の面とかどうしても必要なものならこの木にした方がいいじゃないか、現在のところ

私の考え方はそうです。

向　　そういうような考え方をしている人は多いのでしょうか。

M　　そう当多うございます。現在かせぎはどうなるかといいますが、金沢とか、三河わどこかに出稼ぎに出さんことにはどうにもなりません。例えば1年に10万~15万の木を伐ってきて、3歩あれば、それが全部植わっておるのだから、あとは親父と息子が春になれば、10日も、15日も木を起こしに行ったり、夏に下刈りに行き、あるいは枝打ちしたりすれば、それで充分家庭の運営はやっていけるわけです。1年に20万とって、米に15万も取って、あと親父と2人で15万とれば、それで50万になる。50万あれば、恐らく三井の生活は十分出来る筈です。また仕方がないから手入れもせんと放ったらかして、出稼に出る人もちょいちょいおります。

私の見た眼では、こういうことを考えているんです。勿論よせから来たあんたがたは色々、私だけじゃなく、往々にして色々聞きますから、聞いて得た結論を考えれば、これは第三者の見た眼というのは一番正直なもんですし、地元の者はどうしても何か飾るわけじゃないけれども、説明が下手っていうか、飾ったこともないですから、それは大勢ですから。私はそういうことを考えております。

4. 三井森林組合の話

(10月25日三井森林組合で、組合長M氏〔山林9.1町〕、専務F氏〔山林9.9町〕、生産係職員K氏〔山林5.0町〕〔何れも田畑もある〕の話。)

三井林業の展望

向　　三井林業の展望と抱負について伺いたい。

M　　県行造林は県の計画としては大事だろう。しかし永続性を私は心配しておる。県がとれだけの予算を永続的に見てくれるかということです。こうした経済の変動の激しいときだから、朝令暮改的な考え方があるから、為政者の変わったら、どういう風になるかという不安もあります。

これはもう我々が県当局に意見を具申しては、美林を仕上げている。それから三井の特殊性を生かしてアテ林業の……。

向　　その前に、そういう県行造林が入ってくると、これは薪炭林が用材林に転化していくとともに、一つはそういう奥地の雇用の場がないところに、地元の農業、中農っていうか、小農っていうか、そういう人達の雇用の場を与えられる、労働力を与えるということはあるのでしょうか。

M　　そりゃありますね。なんて表現したらいいか、労務者の定着ですね、が必要だという時には、労務報酬がある程度満足出来んということを理解しておかねばと思います。

向　　労賃の問題ですけど、労賃が県行造林1日いくらかと伺っていないんですか。

大抵、日給だろうと思うんですが、いくらですか。

M 現在のところは750円か800円だろうと思うんですが

同 そうすると、そういう費用、1日当りの単金というものが、他の造林をやっている。公団造林でない造林者の一般人にどういう響きを与えるか。同じくらいになっていくだろうとか、あるいはあれはあれ、これはこれと区別するのかなどか。

M 県とか公団は全国的な余裕をよく考えますから、この地域よりは低いことはないことは事実です。公団とか、県行造林のものの人夫賃は決して低いことはない。高い位です。多少一般造林者の方から苦情の入ったこともあります。しかし時代の趨勢でこれは止むを得んだらうと、私自身は考えます。安いようなことはないですが、これは大勢が許しません。

同 それとです。そういうことが高くなって、ころかつきを上げてくれ、造林の費用も上げてくれということになってどうも困ったもんだと、あるいは仕様がなないんだらうと、何れですか。

M それは私は林道網の開設と、国かいう造林者に長いローンを与えてやるという区外以外に現在は望みはないんでないかと、労働を押えることは絶対に不可能なことである。林野庁あたりもそういうような方向にむいてPRしているようですが、まだまだ大蔵省との接衝はうまくゆかんらしい。それを期待しておるわけなんです。そりゃ最も大事な救済の方法だろうと思うんです。

育林事業は一定の限界をいきませんと、収益を見られんです。固定した資金というものは相当かさばります。山へ木を植えて

貧乏したという例は、昔ないでもなかったということです。原因は造林意欲を鈍らせるというようなこともありますから、そういう救済の為に長期低利金とということです。布施さんあたりは3分位でないと駄目だというが、私は3分5厘でもかまわんでできるという意見を出している。これは是非実現して頂きたいね。

公団造林になると規模が大きいかから、個人の手の伸びない奥地を開発して頂く、これは非常に結構なことです。

同 それはやっぱり村の方から働きかけたわけですか、或いは一

M 公団造林法が出来た時には、向うから呼びかけたですけど、

最近はその反対のような恰好になりつつあります。石川県でやっている県行造林は、100年事業で当局が立案したもので原野を開発して模範をしめるというか、そういう腹構えでやったもんじゃ現在はないのです。将来公団造林に準じて奥地を開発してやろうという、産業開発の意味の県行造林もやれたらやっていただきたいと思います。

撫育のことについては、林務課長さんによく美林を作るようにしてくれと頼んであるんです。予算も関係しますし、林務課長は分らんし、知事なんかになると、常識的には知っとるか知らんけど、何でもとり入れますと言っていると中西知事はいう。

それから一般の方々は、まだ拡大造林の意欲が、この地域は衰えてはおらんですね。意欲が旺盛ですな。

同 一般というとどういう人達ですか。

M 山林所有者ですね。大規模の人は大規模なから、中小規模は

中小規模ながら、意欲は旺盛です。中小規模の人は自家労力を期待していますから、非常に自分の家庭労力が不足している場合には遺憾に思っております。労力の豊富な人とうらやましかっているというような恰好で、過しているわけです。大きい所有者は労務者の獲得に困っておる。年間200万本の造林撫育費を入れたいという計画だけでも、150万円程しか見んと、そういう恰好じゃないかと私私は見ている。

アテ林業はますます期待されております。

問 どういう形で期待されているわけですか。

Mr. これは下木で耐え得るという特長を利用して、スギ林の中へ伏在させておくという、スギの世代を期待するという恰好です。当面の収益なんかをあまり期待せずに、それが実って50年、100年後は立派な美林になるという結論をよく知っていますから、ある程度結論がわからないと、やっぱり事業もやりにくいものです。一方の人は造林の厂史から、どういふようになるという結論を知っているから期待出来る、という風に考えております。特にマアテの材質がよく、いろんな方面に使用価値があるものですから、少量ながらあらゆる方面へ開拓されて使用されるようになったんだという期待もあります。林相が複雑だから永続性がある。間伐、択伐は全く自由だ。

組合はその意欲をおとろえさせぬ様に指導、実践してみたいと、私は現在そのような考えでおるわけなんです。

問 それから、しかし少量需要であるということです。少量生産、つまり例えば関西から、とてもいい人だから、いい質だから、

5,000石出してくれということに、とても向に合いません。そういう1つの難点がある。そういうことについてはどうお考えですか。

Mr. それはもう大量生産できるような体制にもってくちゆうことがリ要なんです。

問 で必要の具体的な方向に進んでいるわけですか。

Mr. ええ進んでおります。

問 まず第一番にどういふ具体的な方法ですか。

Mr. 古い造林地は、アテとスギとの材積の比率が変ってくる時代がもう来ます。新しい造林地は遂次アテに変わるような、造林の施業方式を持っております。

問 その他大量需要に向に合う体制という、ということですか。具体的にいうと。

Mr. 数量の問題で、10年あとにどのくらいの数量を獲得できるかというふうな、そういうふうなことを、今あなたに質問させて、はじめて気がついたんで、そういうことまで、今考えておりません。

問 とにかくアテを多く生産するって方向なんですか。薪炭からまず針葉樹に、針葉樹の中でもスギからアテという形ですか。

Mr. ええ、そういう順序です。

問 それでアテ一斉林という、そういうことは考えてないですか。

Mr. いや、アテ一斉林に変わるんです。今のやり方やと。

問 しかも帳面なんかで見た限りでは、今ずっとスギが6割、7

割、アテが2割位、マツが1割位ですね。

M それはもう拡大造林をやっていますから、なんていいますか、の比率が大きいから、その比率がそういう風になっている。旧来のある時期をとらえて、昭和の初めとか、大正の末期とかいう時期をとらえて考えて見れば、その比率は恐らく変わってるだろうと思うんですがね。

同 それじゃ、アテ一斉林ではうまくないんですね。

M 一斉林じゃ駄目です。アテは伏条、挿木、植込みで、ほとんど影響のないようにしていくのがほんとなんです。そして複雑な階層林へもっていくのが、もっともアテの有利なところなんです。それでおまだ現在の状態では、量より質に変わりつつある、大径木に期待せずに、小径木の良質のものをねらうというような傾向が強くなってきている。そのためには多くの労力を必要とする。そういう予定です。

同 薪炭林地帯はまずどういう植え方をしているわけですか。

M ます、林転します。スギ、マツですね。現在の林転地域は、私の考えでは、半々ですなあ。面積から言うと。林転のこれからの施業法方は、スギ、マツ半々です。

同 どうですか、アテはスギや、マツが一たある程度成長してから、挿木とかをやるわけですか。

M 苗木も生産さえ出来ればね。苗木の生産とにらみ合せて。

同 苗木生産は、そうするとアテの苗木生産は追いつかないって言うわけですね。苗木生産はどういうことになるんですか。ここで組合で苗圃で作っているが、それでいいんですか。

M 村内の個人の方が多い。

同 村内の個人で作っているものは、自給生産だけで、なんか販売用には作っていないわけですか。

M 販売用には、まだそこまで伸びないんです。

同 それでこのアテの品種ですけども、こゝではマアテだ。そこで穴水はサアテですか。それで、そういう品種について、ここではマアテ一本で行っているのですか。クサアテも植えるのですか。

M それは何ていいますか。庭木ならいろんなものを植えて見るといいというようなことで、やるようなもので、クサアテも少しやってみるかというような、そういう軽い気持ちでやっ取る程度です。

同 大半はマアテだ。カナアテは勿論やらない。

M そういうわけです。

同 それから、さっき量と質の問題が出たわけですけども、量の問題、例えば公団造林のような、量でもって植えて行く、そういう所もあると思いますけども、こういう問題については、さっき公団造林の問題として伺いましたんですが、どうですか、経営の問題とからみ合せてお考えいただくと、どういうことになりますか。つまり良質のものを作りたいと、そういう方向であるという傍ら、片方では薪炭林が用材林化してゆく。

M 私のいう美林は、たとえ小径木でも、根元から全部用材になる。公団造林のような労力が充分つぎ込まれんような所は、私の今の考えでは良材がたくさん作り得ないというような状況だろうと判断しているわけです。材質に関しますわ、その美林と

粗悪林とは。

向 伐積にどういように関係しますか。

Mi そりゃ、かりに経済効果を与える時には、美林は石数がたくさんありますし、粗悪林は石数が上らんです。それに根曲りの一番石数め上るところが曲って用伐にならんから捨てなきゃならんでしょう。これが一番勿体ないです。それをやっぱりねらわにや駄目だと私はそういう風にえうとるんです。

向 廻って見ますと、結構曲ってこうなってるアテがありますね。あれは伏糸の関係ですか。

Mi ええ、あれは伏糸の関係です。あれは私らの方では労力が入るっていうのは、縄をかけて引っ張ったり、それから枝打ち、枝の調節、枝を正常な形にしてみよう。そんなことです。私が枝振りのいい木とか、枝振りのいいアテとかって、片枝のアテとかって俗にいっています。やはり枝振りのいい、育ちの木は石数は伐積が多いし、片枝に一方ばりして。

向 そうすると、普通の小経木優位と、そういったようなことで、それから一方では奥地に何でもいから、とりあえず薪炭林を改良すればいいんだという考え方、このえつが入り混じって、村民の考え方の中にあるんだ。極端にええはね。そういうことをどうい風に調整して、統一して考えていけばいいか。

Mi そりゃ労力です。労力の問題です。奥地だと、実際の作業時間が短くなりますから。本当の山に入った作業が短くなります。こういう伐会の場合だと、まめな人は、1時間でも行って何かやって来ようかというような具合でやっております。

そういうことが非常に効果があるわけです。それによって差異が出来る。

向 ここでいうところの良質伐というのはどういうことですか。つまり、例えば無節ですよ。そういうことが良質伐の内容ですか。具体的にえうと、どういうことですか。

Mi 本当の狙いは柱丸太です。これが一番やっぱり良質です。これは限度がありますから。適寸ということではばられますから。それがその域を抜けると、据置きして、また他の要素になるという、そういう悩みもありますけど。

向 無節しで、通直なものですな。

Mi それは用途からえっても、伐積からえっても一番有利なわけなんです。根元から利用価値のあるものと、ただ上げて伐っとらにゃあ、利用価値のないものと、3文の童子でも考えがわかる。

向 将来もこういう形で改良中には今すぐには間に合うけれども、そういう方向に持っていくし、こゝからの発展があるだろう。そういう風にお考えですか。

Mi ええ、考えています。ええ、そういう風にいかなくては、もう倦ます。たじろす、挫折することなく、続けなくっちゃあこりゃ植林はできないと総会でも、私自身でも、こりゃやりきれんというような苦しいこともあります。そういう時には、随分自重しているが、これは造林家としても一番の要請です。それがなかったら、挫折したら成功しません。

一例を上げれば、今は故人ですか、YHという人、こりゃ大きな造林家です。今その子供さんは農協の理事長をしている。

運のよいことは不況になると、植林をやったんです。丁度うまくそういう状態になったらう。不況になる、あの人は一生果命にやる。植林する為に費用がかかる。祖先伝来の蓄積もあったけれども、それを思い切ってやった。そういうような苦しい状態を2回程繰り返して10年か15年の経済変動が、その一番不況の時やった借金が、10年か15年全くと経済状態が変わってきて、借金が膨張するものだから、そういうことが2回位あったです。それでふくれあがったわけですね。その時に挫折してしまえば、自分の命がけで植林したものを、別の銀行に渡すとか、他に売るとかいうような、そういう弱い気持ちでやれば、伸びない。それをじーっとがまんして、忍耐しておったことが、成功のもとになった。それで私の木の値段が良くなったから、慌てて山を作ろうということが、原則でない。最も不況の時に造林の意欲と燃やすのが本当なんだ。経済効果から云えばです。私は60年間の経験からいつもそういう風にしています。

私は植林させというのは20ギ台のそういう青年にいうのです。青年の山を持っている人に、君は木を植えると、私位の年にはれば経済効果も上って、Miのじいちゃん、いいこと云ってくれたと、必ずくるから、やってくれというようにすすめる訳なんです。私らの年代なら、木を植えるというのは釈迦に説法になるから、いいませんか、若い人にはそうすすめておきます。必ず効果があるんだからと。私のいうことをまじめに聞いてくれた人は必ず幸福になるんだとね。

現状維持か、減少してゆくもの、これは大勢のことだから何人もありますが、その人は落伍者やから、これは止むを得ん。ある程度まじめにやる人は現状以下には下らんです。私はそういうふうに見ています。特にここは食糧もありますし、食糧の心配はなく、ある一定の規模においた経営面の管理について、それ相応にふさわしい生活方法を持てるというように見ておるんです。全般から見ると、真面目な人は、わりあい農村では文化的な生活も追求出来るという凡な恰好である。

私等若い時分は輪島、穴水の繁華街とにぎわせて三井の若い人達とこうおったけど、最近はどういうことには、私等の年令よりか大それたことをする人は少ないんじゃないかと思とるんです。だんだんをやっぱり変わってきます。

農業構造改善との関係

向 それと農業構造改善、林業構造改善とか、あるいは近代化法とかを適用する場合もありますが、ここはどうですか。

Mi そりゃ、この地域の現在の米作の方法は、生産力は限界に達しているだろうと私は見えています。それで生産力を伸ばすには、やっぱり構造改善を是非やらなければならんです。そして資金の関係で非常に困難性があるうけれど、これはもう是非やらにやならん。経営面もこの地域じゃ平均すれば大きい方です。奥能登では大きい方です。それでもまだ現在の経済効果を上げて文化生活をしてゆくということは困難だから、やはり兼業でいかんやならん。で、よくこの現在のところでは、現金収入が

一番いいんですけれども、クリ或いは他の果樹だとかっていうのを非常に奨励してやっとするけども、クリなんか私は本当に適しているかどうかっていうのは分らない。^{すえ}洲衛というところでやり出したが。

同 それは農業構造改善ですか、林業ですか。

同 農業です。クリの栽培やっているが、果して効果が上るか上らんか、私は不安に思ったりします。

同 構造改善、あるいは山村振興法の対策などの対象になっておるのは洲衛だけですか、三井では。

同 輪島市はなっているけど、市は全然違います。

クリでたまた私が不安、怖いのは、クリが成熟する時期が丁度この台風の時期なんです。台風によられるという、もう収穫皆無にはならんだろうけれどもやっぱりとれんでしょう。台風の季節を外れて収穫できるもんか、台風以前に収穫してしまうもんか、そういうものを選ばなきゃ、駄目なのではないかと、私は最近台風によく遇って、そういうようなことを考え、おるんです。また官庁はいつて見れば、予算面から一本槍でやりますから、本当に事前に来ていただけりやあいいんですけど、恐らくあとの効果が上らねば、三井地区の人はほとんどそれをするでしょう。構造改善やればいいということだけは皆さん思っておるんです。

ただ交換分合が非常に難しい。駄目じゃないけども、なかなか困難です。利害関係がありますから、それはこの田んぼとこの田んぼと、この残地を集めりやいいと思っても、いろいろ人間の場合、欲がありますからね。あたしならこ

っちにある程度集めりやいいものを持つておるといっても、山の人が5~6人持っているけど、そういう風に話を持つていくことがなかなかそれが妥協できんという難点があるわけですよ。

私のところは、1/4を帯あつて現在9町しか耕地がないね。労力は半分ですみまして、その労力を山へむけると、山はたいしたもんになるぞというといっても、まだそこまでゆかん。

ここはやはり人情豊かで、先走ったことなかなかやらんけど、誰か一ついいことしてみせりやあ、そりやあもうすぐ真似してついて来ます。でもみんな誰がどういうことをやっているかということ、フラフラと歩いては、やっぱり見て歩く。そしてその一つの技術、いいとこの技術があれば、必ずそれを取り入れることは早い。

同 これは木原団地になつているんですか。農業開発の計画があるか？

同 これですわ。

技術の話し合い

同 技術の交換会とか経営の話し合いとかそういうものは、まだややオープンに会合ができるという形にはなっていない訳ですね。木村価格はどうなったかとか……。

同 技術の交換は、今頃は文化が進んで、便利になって、難しい言葉で云えば私はつきり分らんけど、レジャーとか何とかとよく云うが、そうするとその部落なら部落へ、集まり易いところへ、若い衆なら若い衆、女衆なら女衆が集つては、雑談みたいなものをやっているわけなんです。そういう時にやっぱり最終的に

は、あそここの田んぼはどうやろうか、あそここの山はどうやろうかとか、私はそれを「爐辺会談」という名前をつけているんや。その「爐辺会談」によって三井の造林というのは良くなかったのだと、私はそういうように判断しとるんだ。寄ったかると、最終的にはやっぱり山の話し、そこになっていく。熱心や。そういう「爐辺会談」によって三井の造林はよくなって来た。それははっきりいえるね。

向 それは若い人達だけを、40代、50代の人でも、やっぱり「爐辺会談」やる訳ですか。

Mi え、やります。

向 それは区だとか、区の場合は区会、総会があった。あるいは講の集りがあったという、そういう場所なんかではどうですか。

Mi 一杯飲みあっていても、話に花の咲くものは、やっぱり山の話し。山の木をあっかって商売している人が集まれば、あくまでもやっぱり商売の話し、山の話し。そういうことで林業に關する意見の交換になつとるんです。そういうことが非常に有効なことやつとると、私は判断しています。とみなさんにお話しする。

向 正式のそういう会合というのは、例えば青年の研究会というものも、たまにあるけれども、それよりかその「爐辺会談」をやることですね。

Mi 今最近グループ、グループといって、林業グループとか、森林グループとか、ここでも5人~10人の青年グループとか系統的にそういう連中もおりますけども。抽象的だけど「爐辺会

談」が一番効果があると私はみています。

向 ということですか。カツギというか伐り出し技術全般についてでもよいが、そういう関係ではいかがでしょうか。

Mi それもやはり誰それは技術がいいとか、悪いとか、カツギが盛んな時分には、どこそこの今あんたさっき呼んどった岡田という男なんか強い男やが、興徳寺の岡田はどういう丸太を運んだとかというようなことは、三井の人はほとんど知っています。それが伝わり伝わりして、競争になってどっこい岡田に負けるもんかというような有志が出て、それでカツギ屋が非常に強いことがあったんです。

カツギの将来

向 そういうものの将来性と、現状というものは、そういうことはどうでしょうか。

Mi これは肉体を使うことを嫌う時代になって来たから、斜陽だねこりゃ。

向 斜陽ですかね。それがどういふようになつて来たとか、そういう伐り出しの技術がどういふようになつて来る見通しにつかめているか。機械を入れるたつて大きい人はいいいけれども。

Mi 小さな丸太位なら、どういう難儀なところでも、頭にドッチというもんを置いて、かんつけて、なわでひっぱる。1人か2人で、どこへでも動かせるといふ安易に動かされるようなものを作って、経済効果は上るし、短期間の伐採もでき、私のねらいはそこなんです。また何れかそういう簡単に動かすことも

これ考えならんだろうと思う。私共のような考人でも動かすことができるだろう。

そういうことも林道やそういうものの開発が難かしいところはワイヤーで、ロープを張りつめにして、それを運搬用に利用するようなこともいいじゃないか、どうしているか、考えています。私は今そういうことをやってみたいと、自分で誰かロープを捨てるのを、もったいないから利用して、用いられないかと思っています。カツギ屋がおらんことになりゃ、どうしようもない。冬の雪を期待する以外にはないです。雪に期待しても1本や2本の伐ち出すとしても、単価の高いものになります。するとやはりその沢に入り込めば、伐出の人が山に入り込めば、共同でその沢を皆でやらないかというような協同体を作るような時代も、小規模の経営のところは、来るかも知らんです。Mもあそここの山へ行った。それじゃ私もついでにやろうと、他を置いてやろうかというような、そういう協同体が組織できるようなことも、あるいは来るかも知らん。林道をつけた程のことではない。

林道の開発も1つの協同体の簡単な仕事やわ。これはまだその本当の効果の上るところまで、山の沢までみんな入れておらんけれど。よくいれておるところもあるか、私らの目的はまで、まだ入れられんですけど、これは所有形態が大分変わってくるからどういうようにするかと、分担金いわけるその費用の分担金をどういうふうにするかというようなことが問題になってくる。その問題が解決できれば、将来まだ延長、延長で単独

とか共同でやるとかの時代が恐らく来ると思います。

同 そういうのは波及伐採と私は呼んでいるんです。Aという人がやれば、自分は来年やりたいとか、あるいは近々伐りたいと思ってた人達という人は、その時かりに少し時期が悪くて、ついでに便乗して伐ると、そうすると業者が入って一緒に出しをしますし、安くつきますから。

M そうだろうと私は思います。時々ワイヤーを張る位の程度の時、張れば必ず私も、私もと、2〜3やっぱり出てくるから、そういう協同体というか無意識に、はやそういうようなことが来るんじゃないかと私は考えております。

同 カツギ屋がなくなれば、やっぱり簡単なコストの安いものでなくてはならん。だいたいどうしても選伐という形は続くでしょうし、それが皆伐になる訳ではない。そうすると安いものという、やっぱり、人力による。人力によると、カツギはないけれども、地引きは土地を痛めるということであれば、木馬とえうんです。木馬というのも枝木さえあれば、あれは一般に背負いよりかちと多量に出ます。そういうものも、少し面倒だけれども、そういう形で人力でも入ってくる。カツギよりも3倍以上でてますから。調べてみるとここでは木馬はほとんどないですね。

M 今はほとんどないです。

同 しかし奥能登でもやっているところはあるんですね。これはやっぱりどういう零細分割しているような比較的小さな経営が多い場合は、難かしいでしょう。大きい人は、これは皆伐したり

する場合もあるうが。

木材流通

向 林産関係、木材、素材、製材こういう展望ないし現状の問題点といえますか、あるいは将来どうなるだろうという点については、どう見ておられますか。木材業で、三井の将来展望の問題と現状までの問題把握といえますか、どういう問題点があるかというようなことです。

M 私のいう良質材が生産できる域に達していれば、製材も繁昌するだろうと思うんです。というのは、ここは土地の関係で良材がとれるところやからでそれは自然的で建築材なんかの注文がどんどんと製材へ入ってくる。今でも入っています。それでそういう良質材が出来て、その製材が消化するようになれば、せいぜい繁昌します。

向 社の仲間問題は どうして、これはあんまり古いことなんですけど、社はなぜ、どこから取り入れたか。なぜ林業だけに、林業労働だけに、この地区では社、社って昔からいっていたのか、三味線の仲間が社というか、そういうことに関わりはないと思うんですけど、その辺はどうですか。

M それは分らんですね。そこにその精神的なつながりがあるわけです。精神的なつながりのある、本当によく通じた者、それを社というたんでしょうね。そういうふうに考え、いつ頃からそういうものがえわれたかというようなことは私達は分らんですね。

向 誰か、しかしえってた人あると思うんですけど。

M お茶の何かに経々社というのが。あるいは舞踊の三味線とか。そういうものの社中、社中っていいますが、1つの秩序のあるグループです。

向 そうしたら林業労働のこの社でも、というか組でも、気の合った人があるわけなんですけど、主従関係はあるわけないんですか。

M あるんです。私なら私が、その社のやっぱり世話をする人が1人あるわけなんです。

向 あるんですか。林業労働の場合、だけど平等に賃金払われるんですか。

M ええそこが面白いです。

向 拘束する必要があるんだけど、拘束ではなくて、その何て言うんですか……。

だけど具体的には何も拘束しておらん。別に組の人にどういう例えは岡田さんなら岡田さんという組があるわけなんですね。やっぱり岡田さんが責任者という。それはどうしてかということ、結局力一はい運べるということですね。

やっぱり岡田さんが単価を決めてくる。その決めて来たものに、安いとか高いとかは出る。そこまでいけば絶対服従や。

向 それは相談して決める訳ですね。4人なら4人という組がありますね。3人なら3人と。

M あらましあの山をやらないかというような話はしても、どれ位だろうという基本線はでてきたらただろうけれども、細かい

決め方は岡田さんがきめとって、それはもう異議をいわん。異議をいう連中は破壊者です。遠からず社中は離されるか、離れていくかというようになるんです。そういうことでは社中は高合集散がよくあるのです。

同 決める時の、決め方がその責任者が一番最高ですね。長年の経験と、勘とそれから実際に計算して。

M ええ、そうです。僕がやって見せてやるという横平な男や。お前はこの丸太を運べるか、私はそれはやる。それで分配は同じやというところで、やっぱり社中がある。

同 カツギに当っては力があると、どちらか怪我をしないようにやって、その組員に対しては何か拘束権みたいのがあるんですか。

M だいたいあるんです。

同 そうするというと、具体的にいうと、どういうことですか。

M その人が強力といえは、強力どおり動くということなんです。

同 いくらで決まったと、じゃ明日こいと、やらないかと、言葉ではやらないかと言っても、それには絶対服従するというようなことがある。そしてどこそこの木を伐って運ぶ。そうしたらこの辺で一つお前このへんで休め、お前はこのへん、俺はここまで続けるけれど、中取ってという風にということを大体決める。それから怪我のないように気を配ってやる。助けてもやるということですか。

M 内治外交とやる。そういうことやりうる人が社中の親方である。今日は一日休んで、パチンコでもしにいくかと呼びかけり

や、そうかというようなことです。

林業の調査

同 やっぱりこういう林業労働の調査に来られた方はありませんか。

M そういう人ともはお話ししたことがないような気がします。

同 もう少し以前の調査より、つつこんでみたいと思っています。それは何もかつぐ仲間だけじゃなくて、やっぱり林業労働のよのような林業労働技術のような、何人かで力合せてやらなきゃならんというものは、同じように必要ではないのですか。

M ええ、必要です。

同 すると、そういう立場の人は、生活に困るとやっぱりそういう組員に対して、お金を借してやるのかそういうことはしないんですか。

M そんなことはしない。そんな難しいことになれば……。○なら○が組合と話ししにいて、5万円の仕事をした。仕事の分量で○に3万円やった。○がそれを分配せずに私腹したというようなことでもありや、すぐ离れる。

同 ああ、そうですか。連絡というのはどうするか。

M そんなふうなことは社中には関係せんでしょう。

同 それで、その月に仕事がある と、それで30日に払いがある。それでそれは仕事が終わらないとお金くれないから、そうした場合にはその組員がちょっと10000円借してくれという形がありますか。

Mi それはもう別にどこに借りるという訳ではないです。信用の問題と、かわいそうだという同情の問題です。

問 それは請け買いという、そういうところに使う言葉ですか。
あるいは日給発らとして働いている場合に多く使う言葉ですか。

Mi やっぱり請け買いの方がやっぱり多いですか。

問 日給でやる社中もあるのですか。

Mi 季節的な社中もあるんです。あれは請け買いではちよつと具合悪いから、日給でもいいかと、私の方は、だいたい請け買いでなくだいたい日給です。男なら700〜750円、女なら500円とか、徳が損か分らないけれども。

問 やっぱり請け渡しでやると、乱雑になるというか、そんなことないですか。

Mi そんなことないです。それは私なら私が時々廻って、これはいかんという。

問 それからカツギって、伐り出しの方はやっぱりそういう出来高でやった場合は。

Mi 小規模の人になれば、ひどく、この山なら何十石あるというふうに、にらんでどういうことやる人は勘がいいから、大低勘が当たっている。親方の気分も見ろ。

問 かつや場合なんか日給でやると量はへりますね。それから出来高でやると、たくさんやれますね。

Mi それはそうだ。

専務の見た森林組合の現状と将来

問 森林組合の現状と将来組合の責任ある立場として、どういうように見ているかと、いうようなことを何か語って頂ければと思います。

答 今、三井は近山ですか、鉄道沿線なり、県道の沿線、近山には古くから植林をされて来られて、特にアデ林業などの恰好で、のびてきておったり、そのことによって認められている訳です。奥地にいたってはまだです。こういう時代になって来ますと奥地のそういう奥山に行つて、植林するような努力なりが出来ん。

そこ来つてきて、薪炭林がいかにもこれはうまくなくなつてきた。そこへ森林開発公団が、昭和36年ですか、三井に受け入れを出来るか、出来んか問い合せてきたわけです。三井とすれば、この際そういった形で開発されれば、森林組合、造林者の三者契約という形であるから、森林組合としてもお話を仕甲斐もあり、またそのことによって、組合もよし、山主もよし、公団もよし、そういう仕事であるならば大いに推進しなければならぬ。

共有林で奥山で、しかも保安林でなくては公団では出来ないという。そういうことで保安林であり、伐採制限もされていて、奥山でしかもひどい、そして共有だとそうしたもののに対して造林を全然やらすに公団がやってくれるというようなことであれば、これは賛成やと、そういうことで始めた訳です。

同 一応三井であっても、輪島市としても、あるいは三井の森林組合としても、非常に両手をあげて、これはいいということで、特に、もちろん反対はなかったし、むしろ良い話だという形で受け入れたとと、いう訳でしょう。

F そしてその当時、契約予定面積というか、だいたい200町歩予定されました。実際は少し200町歩のうち少しへり、170町歩ほど現在契約してきた。そしてそのうちのだいたい半分ちょっと、現在までには植林は終わったわけです。5年間です。そして、それは現在のところ順調に行っているわけですが、その他に今度はそれを実際やってみたら、これはいいことであると、そうみなさんに認識されて、新たに三井の奥山で、しかも広い500町歩の奥山を共有じゃない山を、500町歩のうちの、300町歩ほどを、いやな人は抜いたりして300町歩ほどやろうじゃないか ということ、それはまだ保安林になっていなかったわけです。公園造林になるには保安林でならなきゃならん。と、いうことです。保安林に申請して、その予定地としての認可もきたわけです。それと同時に、分収造林の契約をやるべく、最終的には申込みの段階で、契約というところまでにはいかないですけど、それが時間の問題で、今年中には契約しなければと、そういうことで準備を進めてるわけです。それは、可能性は充分あるわけで、すでに申し込みをしておるわけで、山主の了解を十分受けて、そうすると、三井の奥地の広いところを500町歩ほど公園造林することになる。

同 それで、主に労働との関係では、仁行はんかの人が多く来ているわけですか。

F そう、なんといっても地元の人が多い訳で、そこに時期的に各部落から かり 集めてやるんですが、造林の時期なり、造林の期は農繁期すぎた時期で、ひまな時期で、そういう時、遠くからでも借り、多勢で仕事に従事するわけです。

組合の木材扱い方法と量

K これも組合の信頼、信用度がうすいからですが、どういうことになるか、委託されることは。

同 委託は一般に少ないんじゃないですか。

K そうですかね。

組合あたりを信用してもらえると、これ一番理想的で、そのない売り方だと思うんですが。私らの考えとすれば、だいたい5%の手数料、100円なら100万円で5万円。それだけの手数料で伐採から販売、現金化して、そこまであげるまでに、だいたい5%手数料をいただくわけです。

だいたい業者は、1割から1割以上のリベートがなからんと、今頃は商売にならんからね。

同 それでこのごろは、この前の数字では、森林組合で扱う そういう生産量というのは、11,000石ですか。

それで全体の何だったですか。

今はどの位ですか。

K1 あの時は一番多かったですね。

今も生産量は殆どです。だいたいその程度でしょう。

あの時は風倒木で伐かうんと増えた訳です。普通7千石から8千石を上下しています。

39年度は8千石、今年もまずだいたいその位じゃないですか。あとは^{馬で}保出と小松と能登林産、それから山下一夫さんとか、そういう人が2、3人おられます。それから村外^外にもある。これは1割ないね。

同 そういうのは全部でどの位ですか。

K1 だいたい三井の伐採量が25,000石位と思います。

同 そして林業労働者は他から来ますか。

K1 殆ど来る人はいない。

5. カツギ労働者の話

三井興徳寺のカツギの労働をしているOさんの話。Oさんは当年36才(昭和40年)だったと思いますが、若手ですけれども、カツギの労働としては、この界隈では非常に多量にかつぐ立派なカツギ労働者だと言うようにいわれております。そして村内の角力大会でも7人も抜いて優勝しております。そういう豪力の方です。(山林の7反所有)

カツギ労働者の組(グループ)

同 さっきいったような労働組織ですが、大きくってそういうことなんで、Oさんのグループはどういう名称になっているんですか。組とか、組じゃないとも云われている訳なんですけど、やっぱり組っていうんですかな。

O グループだね。責任はグループで一緒に負っている。

同 グループは1回ずつ、これは解散してまた結成するというのですか。

O 変わる場合もあるけれど、だいたい固定しているんです。

同 メンバーはOさんね。それからSAさんは新宅で、SYさんは本家の関係です。

それでOさんとSAさんとSYさんと、それから誰ですか。

そのOさんの組、去年私10月かにお会いした方は?

O 大阪へ行って、入って間もなくやめた。それから女の方はYさんです。

向 せの常連というのは、緊急の時助けてもらうとかということですか。何人位ですか、

〇 だいたい3~4人。YU、YM。それから私の家内。Nのはあさん。ほおの木のこと。

カツギ労働者と農業経営

向 それでは農業の方からちょっとお伺い致します。農業もやっておられるわけですね。

〇 ええ、そうです。

向 それで機械なんか入っておりますか、耕運機とかそういうものです。

〇 耕運機は持っておらん。

向 それから、そういう区でもって部落というか、区というところでは、誰も入れたからってどうもおかしいということも言わないし、それから入れないからといって、誰もと言わない。勿論区長さんとか班長さんとか、そういう部落の人についてです。個人、個人が入れるにしても、反対するにしても、するのですね。

〇 いない。

カツギ労働のかわりになるもの

向 天体そうだと思ったんですが、

かつぎは大変な仕事だから、こいつを何か今のノ輪車ありますね。曳引きは土地がいたむかとすれば、ノ輪車だとか、そういう形の若干数とまってるという形のものはないわけですか。同じ人力でやるにしても、曳引きもあるけれど、もうノつ何か道具を持ってきて、本場もノつの道具ですけども、そういう形のものとか、例えばノ輪車とかノ輪車は地の方が歩きにくいからだめだとかということは技術的に分りますけれども、ノ輪車を工夫して、あのままだったらちょっとだめだというものはないだろうか。

〇 一寸持ってこれる品物や、つたらかついで来る方が早いからね。

向 一輪車でなくても、二輪車でもなんでも、小さなものを作って運び出す方法はないものでしょうか。

〇 道がないわけですね。

向 道がないわけだけども、しかしこの林地だって道はないわけですよ。いや、ここだけじゃなく、全国の林地でです。

〇 馬の背も利用する。

向 扱伐だからノ本伐りなもんだから、あっちにパラパラ、こっちにパラパラ伐るから、かつぎが一番いいんだというのが、この地域の全体の人の説明なわけです。そういうわけですけども、同じ扱伐でも、もう少しとまってる代るような形、隣りの人が伐れば自分も仕方がないから伐るという、一緒にまとめて伐るということはないのですか。

私達も色々のところに行っているわけです。例えば西川林業ってあるんです。東京から2時間足らずです。やっぱりこのこと

同じような：比較的中小規模のノロ町歩とかが多いです。勿論
50町歩以上の人もあります。ここでは本馬です。

Q. 箇所にもよるが、三井ではそういうことはない。それで大き
いやつを伐採すれば次のやつがまた2段に成長していく。

向. パッと伐採しなくても、あんまりここでは、ノ本伐りが多い。

Q. 影になってきて太らんことになる。三井は山が「そろそろ」
って云います。「そろそろ」の山はよいという。

向. そろそろって何ですか。

Q. ということは、大きいのと小さいのと、また大、小、中いろ
いろ混った山が一番いいということです。

カツギ労働と世代

向. それで、かつぎ人の世代というが、20代の人、馬鹿馬鹿
しくてあんまり来ないということだったわけなんですけども、
そうするとだんだんかつぎ人の年齢は上になってくるっていう
ことはありますね。かつぎをやっている方は、お父さんもおじ
いさんも大体やってたわけですか。

Q. ええ やっとった。

向. 大体そういう人が多いわけです。お父さんはそうじゃなくて、
自分がやり出した人とか、お父さんはやってたけども、自分は
やらない。30代の人とか今の非常に若い人は別にして、そう
いう30代の……。

Q. 家庭にもよるが、やっぱり弱い身体の人には、かつぎ屋はさ

せなかったです。大学を出てかつぎをやれといっても、これは
向に合わない。ともかく百姓をやっているがまんしてやったら
そういうことです。

向. この向の去年見せていただいた時の、Sさん、あの人はかつ
ぎやるような顔なんかしていなかったように思ったんですけど、
あの人は最初からかつぎやってたんですか。

Q. そうだね。学校おわってからやってる。

向. やめたり、出たり入ったりしているというお話でしたけども
……。

Q. ということは結局、自分に力があるから。

向. 力というのは、かつぎ力じゃなくて、勿論かつぎ力はあるわ
けですけども、何かこう自分でやって見ようというか、そういう
ものですか。

向. 組メンバーについては、AならAという人が、BならBとい
う人に許可をもらうわけですか。許可というとおかしいけども、

Q. それは、他の3人、BならBという人に云うんじゃないくて、
他にも言うんです。

労働について(1)

向. それからお金を払う場合は、つまり一山いくらで、かりに
2000円で受け取ったというと、2,000円金もらったと
き、それは直ぐ出た時は、大体終わってから、ノ週間位以内に
いただく訳ですか。組合の場合は特に早いのですか。

○ 何時と決めてはいないが、自分が個人で欲しい場合は少し借りる。

向 前借りは多くありますか。

○ 余計ない。

向 前借りは大体どのような内容が多いですか。飲みしろにするとかですか。

○ 飲みしろには、そういうことは恐らくないと思うけど。

向 同じ仲間同志で借貸ありますか。

○ それはたまにあるね。

向 リーダー格の人に多いのですか。

大体組合なんかの場合は、そうすると仕事完了した。そうすると何日位で大体いたゞくんですか。ノ週間、5日、翌日ですか。

○ それは時と場合による。

向 時と場合ですか。大体で、いいですよ。

○ 5日位です。

向 Bさんも、その他にある木材屋でも大体同じですか。

○ Bさんは、大てい5日なら5日に、1月1回です。

向 能登林産は同じですか。

○ 同じです。それから、Kも同じだろうと思う。Mさんは貸してくれという人には、工面してでも貸してやる。いわなければ貸さない。

向 他の木材業者はどうですか。

○ いっいつかまで金を作ってほしいと、こちらでいう。

向、いろいろ云う人があるんですが、社というか、グループというか、組というか、組合では組というんですね。その人、その人に性格が違い、あの人は本当にかつげるのにかつげんとそういう人もいる。

この前伺った時には、かりに10本あるとすると、10本を2人なら2人、そうすると最初のが重いのをもって来る。その人がもどってきたら、軽いものを持ってゆく。そういう風に大体交互にやるんだ。いちいち計る訳じゃないから、同じ軽い重いといっても、重さが違ふでしょうけど。

○ やる人は、先に来たから重いものを持っていくという心構えです。あとは乗になると、ということをやっておる。それが応着な人になると、細い方からもっていく。

向 そして軽いのはかりもってく人は、ずるいを見るわけですね。

カツギの苦しさ

○ とも角かつぎは昔から、身体の身の切り売りだといわれたもののね。本当の重たいものを担ぐなりや、足はヒリヒリひしゃげて、汗はたぐたく流れて、それで杖をついて、そいで、うん、うん息の止まるか、止まらん程してやるんです。そいでうんと負う積りで、矢す々いけは最高ね。その時は120貫以上かかるでしょう。

向 それは平均の重さではないんでしょう。カくらべのような時でないんですか。実際120貫かつがなきゃならんということ

は。

○. その場合は材木を2つに割るとか、3つに、4つに割るとか、それは結局3人いれば、3つに割るとか、なんかそういう方もある。それは1つにしたものをもって来なければならんわけよ、それをバラしては、だめなことがある。

グループの中の責任分担

問. 会計なんていうのはあるんですか。例えば○さんの組で、会計係とは誰がやるんですか。森林組合の仕事だったら、受け取ったり、分配したり、あるいはノートをして置いたりする仕事です。

○. それは森林組合の仕事をしている場合、1万だということであれば、3人行く必要はない。ちゃんと分っているんだから。それで、それをもらってそれを背に見せる。そいで納得してもし女がいればいくらになるということにする。

問. そいで組合に金取りに行くのは誰がやるんですか。○さんの場合は？大体そのグループの何というか、最初にグループをいいたした人がやるとかですか。

○. 自分で切いた金を自分でもらうてゆけばということもたまにあるけれど、自分からいに行くことがある。

問. て、もらって来た日すぐ分けるわけですか。

○. 例えば4時に終わった、5時に終わったら、その日でも、翌日でも、雨が降った日でも、この間、あそこでやった山を、今日雨が降ったので、勘定を取りに来たという風に、今日遊んで

いて、丁度いい機会だしというように。

問. 事務っていうのは、特にないわけですね。

○. 事務はないね。

問. あるいは、その取り決め、組合と例えば○さんなら○さんの組と契約するという時の契約書なんかは。

○. 契約書は大抵書いてもらって、持っておるわけです。

問. 契約書、書くわけですね。普通の製材屋さんでも、木材屋さんでも簡単な契約書を出すんでしょうね。

○. ええ、そうです。

問. 何て書く訳ですか。

○. 大抵私にすればこの山が全部かたまっただものがいくらある。全部でいくらあるということです。

問. それから石いくらで運ぶとか、搬出期限の契約は、いついつとかか-----。

○. そういう契約はない。我々の仕事はとにかく雨が降れば絶対やれん。その場合天気でいてくれれば、早く出せる。無理だと危険だから、そんなものはもうやれん仕事や。そういう時は引っぱるとか、地引きで出すとかする。

問. そうするとこれだけですか。この山いくらでやるかということ、何か書いて、お互いに組合なら組合と2通もっている。

○. 互いに信用もっているさかいに。

問. その契約書は契約書と書いて、どここの部落のどこで何尺の木が何本、何尺の木が何本と、アテの木が何寸が何本、それからスギの木が何本と書いてこれを石いくらで出す。そして書

いてもらって持っておる。

向 どこまで出すということも書く訳ですね。

O それは勿論書きます。

向 売買契約書みたいな用紙で書く訳じゃなくて、ただちょっと森林組合のメモみたいなもので、コピーとって――。

O 氏のカツギ労働への背景

向 Oさんが昨日のお話ですと、ずうと一人でやっているようにおっしゃってたし、その後段々と自分のグループでいうものが出てきたということですが、その辺のどうして長く一人でやっていたのか、力の衰っていたせいとか、その辺のことを話していただけますか。

O 終戦当時、丁度私は昭和4年生れですが、兵隊に行って誰もいない。そこで、こっちに残っていた飛行機のプロペラ材を出していた。

向 その時に一人でやってたんですか。

O それからずーと一人で老人か、とても若いものかとやった。

向 そのプロペラ材を一人で頼まれた訳ですか。

O もちろん一人でした。

向 Oさんのお父さんもやっぱりかつぎでしたか。

O 俺の父は早く死んだ。4才の時に死んだ。それで家庭の事情でやり出した。おじいさんはかつぎをしたか分らない。

昔は材木というもんはそんなに売れなかったもので、かつぎは昔は殆んどなかった。薪があった。板で引いて穴水でも、輪島

へもってゆくので、馬車に積んでもって行った。

向 今度はプロペラ会社から直接頼まれたんですか。

O ともかく根木が16才の時に、直接Oを眠につけて、やって見ないかということですね。

カツギ労働の技能の重点

向 仲間とやってもOさんの力は強かったんですね。

O そういうこともあった。25、6才の時に、橋を渡る、足が強い。2本橋とか、1本の橋とか、畦道を歩くと分に上手だった。

向 橋を渡るとか、畦道を歩く技能はどんなのですか。

O 畦を伝う場合は崩れないようにしてゆく。

向 かつぎ時にやっぱり呼吸っていうものがあるでしょう。あの重たいものを、こう背中にのせるわけですから、やっぱり男の人でも普通は1人じゃ無理ですか。誰かにこう支えてもらわないと。ぐっと持ち上げてやる。上げてしまえば、歩いていける。そういうコツっていうものがあるんですね。それから今度は歩きますね。

O あのコツっていうのは、背中にかついで物重じをとることだね。重心をとって、それから自分の呼吸と合って、足をどこへやって、その重が崩れないか、それから橋にすれば、どこへやってこれが折れないか、それからどこへやって足が滑らんか、そういうことをやっぱり頭で考えるわけです。

向 直線的にね。

O それから今は地下足袋。昔はワラジやった。地下足袋には指

の股がある。股草などが入り、つまずくことがあるのや。よくいつも見てやることが大事だ。なんぼ早く歩いても、着実に自分の一歩一歩勘でやる。

向 それから山やなんか歩いている時には上にひっかかることがあるね。

〇 ええ。それも見なければならぬ。針金にかかった時、ポンと打った時、バックしてふわっと返る場合もある。かつぎことはまるで勘のいる仕事や。

返る場合は必ず足をへりにつける。踏むのが悪いと思ったら我慢せぬこと。身から先に返り、上になるやろ。本当に下手な人は足を折る。カツギで死亡した人は、今のところ聞いていない。

向 捻挫したり、足を折ったとか怪我をしたとか、そういうことですね。

〇 かっいでも足が後ろに滑ったら、それはどうか知らんが、たいていかつぎ人はそういうことぐらいは心得ておるだろう。

向 簡単に見えても中々技術が要りますね。

〇 あるいは伐採の木挽きより、本當をいえばもっと技術はいると思う。それが証拠に、誰れもやれん人が伐採ならやれるけど、かつぎだけはやれる者は、ちょっとやとつてごらん。都合が悪いとか、疲れたとか、肩を入れちがいますとかいう。

向 伐採の時はお木のお伐り方が下手だと、伐ってからの丸太の直段に響いてくる。だから誰でも出来るか知らんけれども、ちょっと親方の方から叱られる。あいつ雇わんということになるか分

からんけど、かつぎ方が、結局怪我はする。本人が失敗した場合、しかし丸太木口痛めて商品価値を傷つける、そういうことはないですね。

〇 それは、まず全く美しいものをいい品物にして出す。それとそれから今やっとらんけど、我々は木口を美しくして出すとかそういうことじゃなくして、とにかく道路のないところや、今のノ輪車とかああいうようなもので運ばれない、道路のないところやね。そういう所を運んでくる、それが一番むずかしいのだ。田圃や山の木のあるところや、坂を歩かねはならぬし、田圃が崩れ、文句は云われるし。

向 かつぎでは、俺の所通ると時が傷むから通らんでくれとか、それからノ什よこさんとためだと、暗に云ってめたり、そういう障害が大分ありますか。それはたまにはあるでしょうけど、ことわれはあんたのどこ通らしてくれといえは、どんどん通れますか。

〇 たまにはあるが、そこを通らなければどうもならんものは、理解もっていいという。

向 地引きだったらどうですか。

〇 人間の引張る地引きだったら大していたまない。多少痛んだところは、直してもとす。

向 馬はどうか。

〇 人間と違う。

向 富山へいかれた時も、このかつぎをやられたのですか。

〇 伐るだけです。

カツギの分布

向 この辺では、かつぎは三井だけじゃなくて、あちこちに、製材でかつぐのは別として、色々あるのですか、また三井のは有名であるのですか。この辺では。

○ まあ有名です。三井のかつぐ人は石川県でそうおらんでしょう。色々歩いて見ているが、他のところでは横にもかつぐ。

向 全国ではどうですか。

○ 全国ではどうかね。

向 これはYさんの写真ですが、県の人に撮ってもらったのです。55貫目あると書いてます。目方というのは分りますか。

○ この二本かつぎのかつぎ方は、くつついていないから、うまいかつぎ方じゃない。

たいてい自分で米かついでいる人は大体わかる。

向 分りますか。大体正確ですか。

○ それからアデの木、根っこはうんと重いですが、スギのムネ木、柱になると、うんと重いです。大体分かる。

向 それでこれは輪島の図ですが、大体この辺が、とにかくかつぎが大部残っているといいますが、どうでしょう。

○ まあ、そうです。

向 あとは木馬とかです。かつぎってというのが非常に少なくなってきたというんですが、私は組合でいろいろ調べたんです。3か年間のを、それで少なくなってきたっていても、やっぱり案件数からいうと、多いんですよ。

○ 三井は多い。ということは、とにかくそろそろの山を抜き伐

りするわけです。

向 そういうことだろうと思うんですが、なおいろいろと組のことか、部落の問題とか、いろいろのことで、こういう問題が残っているんじゃないかということでお話ししている訳なんです。

メンバーの内容

向 ここでは、今ちょっと話してきたんですけども、さっきアンケートで、出来高じゃないかということで申し上げた訳ですけども、このアンケートで私が請け負いといっているのは、小さな労務関係の会社と考えれば、組長さんがAという事業主と契約して、これはノ山いくらだと、10万円だとすると、この組長が5人なら5人の組員を連れてくるわけです。でこの5人に対してはこの山をいくらでうけとったかは云わないわけです。云う時はそれを含めて云うわけです。いい加減にいうわけです。で、このAという事業主はこの山いくらで、搬出費がいくらとか書いた契約書取って、だけれども直接Aという人はBという請負師に対して、請負師の配下の労働者に対して、文句はいえない。文句云う場合は、そのAという事業主の、例えば森林組合の何とかいう請負師の、請負師に対しては文句はいえるが、しかし個々の労働者に対しては云えないという形が、それとその賃金が請負師と森林組合とだけ契約してるわけです。知らせたとしてもいい加減にしか知らせない。つまり請負師がかりに10万円で請負っていても、うまくやれば人夫を使って9万円でやれたとすれば、そうしたら1万円もうかるのです。そういう場

合は、ここで云う請負制といいます。

こういうのは、例えば三井のかつぎのグループにはなくとも三井のかつぎだけでなく、そういう色々な業務の他のグループにもある気運でしょうか。Bさんでも一体どうなっているのでしょうか。木馬、雪橇などでのこういう面は？

O そういうことは分らんね。

問 例えば、この三井のかつぎの場合だったら、行ってみるわけですか。だから本当の確定するまでには、あれは10万ではやれんと、20万出してくれと、そしてまた交渉もある。一たん契約してから、契約するということは、さっきの紙切れなり紙切れをもらうということですか。

O 行ってみます。多少の変更はある。

問 それから組長さんと云ったらいいか、何ていったらいいか。例えばOさんならOさんが、O組の3人なら3人に対して、これは危険の場合は注意しなければいけないし、それからいつか、どこそこに集まってくれというのに、4人であるというのにも拘らず、連絡もなしに来ない場合もあるかも知らないし、あるいは前夜急に明日どうしても出れないということで、メンバーが狂ってしまう場合もあるかも知らない。そういう場合なんかが変更しなきゃならないですね。そういうことはOさんがやるのですか。

O 誰でも、山へゆける人がやる。

問 それで女の人とか、馴れない人が入って来た場合は、どうですか。

O 馴れない人は大抵危ないから頼まない。

問 それから組員というか、グループというか、それは今のOさんの話では、Oさんは興徳寺の人であって、メンバーは2人とも本江の人で、娼婦の女の人と同じ部落という形でする場合、そういうグループの組は、ここではどうなっているか。同じ部落の人が中心ですか、またはそういうことは全く関係ないか、極端に言えば、坂田からでも、どこからでもメンバーが集まるのですか。

O どこからでも良い。

問 しかし連絡つかないのではないか、坂田は遠いから。

O 行ってみた時、その仕事をするようになれば、その人に出来るような人を、部落の人に来てから、あの人ならいいとはっきりと分れば、1〜2度くり返して見れば分かる。そして、その人なら大丈夫やと、そんなら1日頼むということになり、半日やってみれば分かる。やれんともどる着も居る。そういうわけで、この仕事は無理はせんということである。

問 だけとだいたいの組のメンバーって決っているものでないですか。

O そやね。

問 今の場合だったらSさんとは2年間やっている。で、それは他にもかつぎのグループがあるとすれば、だいたいそういうようなものは決っているんですね。

O ええ、そういう人達は大抵仕事も一緒にやっている。

問 じゃだいたいこのグループというのは、1回1山やれば、グ

グループは解散だと、そしてまた次の何かくれは新しくそこでメンバーを作る――。

Q いや解散ということは、よっぽとでない としないね。

向 それは興徳寺のかつぎの組にはそういうことですか。他の本江、市ノ坂、長沢でも大体同じですか。

Q 1回毎に解散するんだということはないね。長沢は最近そういうことがあったね。

向 興徳寺には、かつぎのグループが2つか、3つくらいあるんですか。大体きまっているわけですね。それで大体メンバーは特別にたくさん人がいる時は、坂田でやる場合は坂田で求めるけども、大体固定したメンバーっていうものは同じなのか。

Q メンバー崩れても、かつぎ人は連中しかともに出来ないわけだ。

向 だけど去年のSさんは、臨時で来ただけ。

Q あの時は1年程やっと思ったが、それからまた出た。

向 Oさんとこに入って来たのは、いいように思うんですけど。大阪では、どこに行かれたんですか。

Q 冷凍会社かなんか行っとたんじゃないか。

向 そうなってくると、組がやっぱりある程度自由なのかなと思ったんですけど。

Q そうでもない。しかしそういうことは何も気にせんですよ。

労賃について(2)

向 今はいくら位の値段なんですか。色々言われる訳ですか。山

山によって随分違うということは分りますが。

Q 手取りで1日/200~1300円じゃないですか。

向 平均ですか。その他に酒代がつくわけですか。

Q 酒代がつく場合と、つかない場合とある。

酒代は別に100円位つくんですか。お金でくれなくても、現物の酒だけか。

Q うんとやりにゃ酒はつかん。

向 Oさんの場合、どの位平均で酒飲みますか。かついた時は必ず3合か4合飲みますか。

Q かついできた場合は、飲める時と飲めん時がある。うんとやって来た時は飲めんね。

向 それでそのまま寝てしまうわけですか。普通飲まれる時はどの位飲むんですか。

Q 飲めば1升です。

向 1月のうちに、1升位何日位飲みますか。

Q 10日位や。

毎年、毎年、毎月、毎月、1月に10日位は、1日1升飲む。

向 結構飲みますね。それは家の晩酌で飲むんじゃないくて、帰りに、仲間とどっかへ寄って飲むということですか。

Q そうだ。

向 何飲まれるんですか。焼酎もあるし、2級酒、1級、特級――

Q 焼酎は飲まない。焼酎は駄目だ。まあ2級酒や。

向 それで1升飲んで翌日かつぐ場合は、やっぱり何ともしないか。

○ 仕事行かれるね。二日酔いする場合もあるが。

問 誰でも 10 日位 1 升位飲むんですか。

○ ああ今んところは飲むのはたくさんやと思うが。

問 造林は別にして、普通の林業労働の人よりは飲みますか。

○ たくさん飲むね。かつぎの人だけが特に飲むって訳じゃない。

カツギの調査

問 京都の山国という所がありまして、そういう労働の関係とか組の関係を色々調べているのですが、中々面白いです。

いろいろそういうことを調べたことあるですけど、かつぎのそういうことは中々ない。前に、10 年位前に来ませんでしたか。だれか興徳寺の人がなんかに。

○ さあ。

カツギの将来

問 しかしやっぱりあんまり調べられると、かつぎという仕事はなくなると思わないですか。

○ そんな気持はない。やっぱりいいものがあれば、変わってもよいと思う。違ういいものがあって、金もとれればですね。

問 今は保証が出来てる訳ですか。怪我はんかした場合。

○ そりゃある。やっぱり、そういうことの場合には組合でも保出さんだね。

問 かつぎをそのまま続けていくっていう気持ちは、普通のかつぎ労働している方にはないんですか。

○ そうですね。やっぱり先のことを考えにやめいけんということですね。

林業労働の習慣

問 ここにも書いてありますけれど、書くのも面倒だとすれば、こういう習慣の労働といえますか。そういうものとかが、いわゆる村に入っていると、部落のなんだ、かんだと共同のお金も取られるし、どういう方向にもっていったらいいんだろうとか、そういうような、それから私産、ほかから来てみると、まわりのことと比較して、ちょっと山があって安定している。家の作りはえらい大きい。なんか5年か何年に一辺の冠婚葬祭に用いる輪島塗りの漆器を入れるためだという。あんなのも共同的に使えはいいのにと思われる。すると社会的な無駄が防げるということも考えられますが、古い習慣について、その辺どうでしょう。

それから、お膳だとか、そういうことは能登とか、能登半島では大きすぎると思うが。ここばかりじゃないですけど、それは1つには見栄張ると云いますか。そういうこともあるでしょうし、それから講などの寄合いがあるために、隣りの家、あるいは部落の公民館を借りればいいんだけど、それを作らないで、各人のまわり番にゆくから、ああいう大きいのを作っておく。だけど、いすれにしても、田地のようにそんなに小さく作ることもないけども、ほかでかいのも経済的に馬鹿々々しい話しでね。

○ 地元はいいものを作っておられます。大きいのは、やっぱり昔造った品物が残っている訳です。今はそんなものは何もないね。

農地解放

問 それから農地改革ありましたですね。昭和21年から22年に、あのあたりを境にして、労作の組織、かつぐ組織、林業労作の組織なんか何か変わって来たということをお感じになりませんか。

○ ええ、変わりましたね。それは変わりました。

問 労作組織になんか変わったもんありますか。グループとかね。

○ そういうことじゃ変わっとらん。

問 労作はこんど民主主義の世の中になって何か重んじられて来た。ノ人ノ人の自覚が高まってきた。労作するからといって、山林経営者とか、山林所有者とか業者さんとか、農地の地主さんにペコペコする必要はないのだ、同じ人間として、それらがなんか形に表われてたですか。

○ 余り分らない。

問 組合でも何かあったですね。今、その人は名古屋へゆかれたとか、組合の労務班にいた人が、2、3年前に名古屋か大阪に行かれた事情は御存じありませんか。その時は国体交渉が、でうまくなくなったとかですか。

○ 知らない。

第 2 部

1 社中について

問 コロカツギの社中の慣行。つまりこの地方ではる月にはこういうことをもなくてはいけないというような、前提条件というものがあるんですか。

また早い話しが、代表者の方は交渉に行ってみた場合、その時の日当を払うということは、常識的につまりこの地方では慣行的に決まっているというような類のことが、あれこれあるんじゃないかと思っていますが。

S. (石川県輪島林務事務所長) 方々に聞いておりますが、それ以外に考えられることはないんじゃないですか。

問 時々狙つまりメンバーが変わるということはないんですか。

S. 気のうちとけた、そしてよう似た労働のできるものが集まるか、この人でないといけないということはない。出たり入ったり、出たり入ったりする。

多少の感情の移りでかわることもあるが、大体は気のよく分った同じような労働の者がフルースである。

M (石川県林務課、SP(機械)) 15 貫かっけないと仲間に入れんということはないか。

S. 大体社の親方が、わしの所にこれだけの伐採量だけど、これは一寸大きすぎるという場合、やっぱり、大体その1、2年をしっかりと切らせるものを頼んでいる。

M. それじゃあ、誰でもなれるということですね。

S. それから、年がいくら若くても、子供のような力のあるものは大勢き

て、うちの社にきてやってくれんかというようなことになるわけですがね。

M スカウトするわけですね。

S それから、そうしたまだ学校を出たなりで、そんなだけの労働力のない人が、あらの息子も頼んでくれという場合になると、1人前にできんから70〜80のところを払うぞという条件でですね。それから相当の年配になってどうしても人の量ほどかけないということになると、自分も非常に難儀しているわけですね。

M 年令というものはあるわけですね。しかし50になっても30の正気盛んな人ほどがつく人もいます。一概に年令的にやるという会社や、われわれの定年制とちがう。

問 感情のもつれというのは、主にどういつところから来るんですか。

S 社の親方が余りにもガメツすぎるとする場合、こちらでいうときかなすぎる場合、あそこにも行って来る、ここにも行って来るというように、日当に入れなくてもよいものを、日当に入れたり、する者もたまにある。

問 代表者だけじゃあなしに、普通の仲間とどういう争はないのですか。

S そう、普通の仲間は平気ですね。

問 親方を批判するわけですね。

S ええ。

問 会計は誰がやるんですか。あるいは山を見るっていつのは親

方というが、代表者がやるんですか。

S 出役人、出面をやる時は大体親方がやる。帳簿がある。

向うが出したらいいんですかね。自分も出したなら、それを引いて、その実は、はっきりしている。

問 親方のところに、大体事務の、簡単な、裁切れにかいた事務帳のようなものはある。

それで、木材業者というんですか、伐出業者と契約する場合はどうなのですか。

製材工場が1つの山を買って、そこから材を運ぶという場合、1つの社中も見つけて、ボッカをやる。その場合に製材工場とボッカの代表者が、お金の受渡しするわけですか。

S そうです。

問 製材工場は各個人に、仲間か5人なら5人いる各個人に、それぞれ分割して、丁度われわれがケラリーもらうみたいにお金をもらうのですか。

S 日当の場合には、個々に1日いくらという場合は、そういうふうにもなります。一応その社に切っていたということになれば、製材なり、木材業者なりが代表者に渡し、仲間を清算する形ですね。

問 それはやっぱりみんなの前で、自分で調べて、計算して、また出来た総額にけ渡しということになりますか。

S まあ、いついつかまづにこの山は、もはや完了だということになると、それから製材なり木材業者に、金をもって来てくれというわけです。そうすると、その製材や木材業者が手差の所

に金を持って来て、みんなにお渡しですね。そうするとその
働いた人達が出役の計算が出来ているから取りにきてくれとい
うことである。

中々金をくれないとか、また持って来ない場合には、仕事す
んだから、みんなでそこに行って、仕事がすんだのだから勘定
してくれと、というようなことになる。大抵はもってくるが、

M | 現場でそういう人達が、さんなりち人なりで1つの山をつ
けとってしまって、それを持って行って、製材屋さんにこれた
け搬出したぞという所で、これだけいくらとして、うけ取って
やるのですね。

S | そうです。

M | それが終わってしまえば、雇用関係というか、そういう頼んだ
関係は、それで消滅してしまって、そのグループはまた、他の
方の受け入れをやる。

S | 大休山からトラックの着く所まで出してから、金を持って来
て見てくれというのが主ですね。

ここへ出してありますといつのを確認して、出した人が金を
おって行く。

M | 今では組合なんかがしっかりしているから、組合の枉なりな
んなり、こうしてやってしまうんですが、そういう所でたんだ
ん少なくなってきた。

やっぱり、抜き切りで、1山こうして出すわけですね。

S | そうですね。この辺は、まあ抜き伐りですから、この機械運
搬は一寸やりすらいんですね。300石か400石か、たまたま

たもんでなければ、中々採算がとれないから、そういう関係で
……。

問 | コロガンギというのは、全くの1人では出来ないんですか。

S | 1人でも出来ます。

問 | 荷頭うのをですか。板に50貫、70貫の丸太を自分1人で
荷頭うわけですか。

S | 大きいものになると、一寸駄目です。

しかし、40貫位のか、50貫程度位の6尺です。ところが
ス向とか、ス向5寸位の大きいものになると、一寸出来ませ
ぬ。1人か肩へ入れ、2人で送って行ってから、荷を少し入れ
るのだから。

問 | そうすると、長さは……？

S | 長さは12尺5寸か13尺位です。

中丸太位なら1人でもかけられるんですけど、大丸太や普通
になると、同じ目方であっても、6尺と同じ目方であっても1人
でかけない。

問 | 1人で荷頭えない方が多い訳ですか、少ない訳ですか。

S | 今はまだそういうことはないですね。まあ、大丸太、中丸太
が相当普及している。

問 | そうすると、昔はどうなんですか。1人でやれないような長
い丸太が多かったわけですか？

S | 以前は、この地方は大径木の生産地であった関係で、そして
板材は、非節に一杯であった。

そういう様な関係で、6尺に5000ものものが多かった。

問 どうすると、大怪木というのは、12尺5寸か、あるいは、13尺以上のものですか。

S いや、直至てすね。そういうものが余計に生産された。

問 どうすると、目方があっても、昔でも1人で背負えたど、背えても良い実てすね。

S まあ、尺なら、相当自分がかかっけるという位のもんですから、おこすことができるから1人でやれる。

しかし、長いもんだったら1人でおこされんでしょう。そして、背を入れられんでしょう。それだから、1人か入っていか、かつくということになる。

問 どうすると、組の関係と関係づけてみると、必ず組でなければ運ばれないという必然性というのはどの程度あるんですか。組の発生ということを考えているものですか。やっぱり、そういうことを、どうしても1人では出来ないから、2人あるいは、5人の組で仕事をするのだというように。

S 1人という作業は、この重労働の作業には、非常に無理なんです。どうしても長続きしないんです。

なせかという、どうしても無理するんです。木をおこす場合もそうだし、また、伐林地から搬出道路まで、1日これ程のものであるというのを、少しでも労賃をあてるつもりで、無理をやる。これでは、どうしても続かんです。

そういう関係で、休憩時間にしわよせがいく、1日の能率は上がるが、つとめにくい。

M おしは輪島の久保さんから一寸と聞いたんですけど、かつく

場合に谷底から上にあける場合に中々1人でかっけない。そういう時「むかで」という方法でやると、大分大きなものもかっけるそうです。

「むかで」という方法は、大きいやつを3人か4人で、背中にのせて、這うらしいのです。そいつを一番先に縄をつけて、上で1人ひっぱり上げると、そうすると大部重いものまで上にあかるということですが。

S いや、そりや違います。1つの台で、木を編んだ、こういうところを、ちょっと引っぱると非常にちがうんですね。

M やっぱり上げるような場合には、2〜3人いることになれますか。

S ええ、そうなります。

問 どういう「むかで」というのは、どこまでやっていたんですか。

S こりや、輪島の大屋地区です。

少しやったことがあるんです。

問 こういうことから来てるんですかね。

もう1つ、そういう組が発生して来た推定ですけど、こういう地域に同じ10軒なり60戸ノ部落というところの、部落民の中の、意識といいますか、近所付き合いとか、そういうような関係で自然に組が出来てきたものですか。

この背おうという技術の他に、そういうところから、こういう組一社中という形が出来たんですか。

一番最初に、親せきとかそういうことより、むしろ同じ部落の人とか、隣り近所、あるいは、仕事で知り合って、つながっ

ていったのですか。

部落的に 自然発生的に出来たもののようには受け取れるんですが、その辺はいかがでしょうか。

S 知り合いということですね。別の理由があつて、出来たわけではない。

問 もしも栗のMさんなんかに伺いたいのですけど。

社中という言葉は能登会体でいわれているんですか、とくに三井の方なんですか。

M いや、これは能登全体でしょうね。

U (輪島林務事務所 地区AG) うちの家でも社中、社中という、私は大屋ですか。

問 羽咋 なんかのオも言ってるんですか。

M いや、聞いたことがない。

問 管内でいえば輪島管内のことなんですか。

S でしょうね。

問 そついう奥能登の仲間、社中は他の地域、たとえば白峯とかあの辺の、あるいは羽咋からこっち、金沢寄りのオの林業労働の組織と比べて、何か特に変わった感じ、普通のたに名前だけか少し変わった名前だという程の相違なのでしょうか。どうでしょうか。

M 他の方だとこんな風に、労働の質というんでしょうか、プロ慣ならプロの質がつける人たちと集めた様なクルーアツマ、ないんじゃないかと思ひます。というのは、他の部落では、たとえば親戚とか、いつも作男に來ているとか、そういう部落の中か

ら、まあ親父さんが一番目をつけてるのをお前も来いといって、集めていゝような感じがする。ここになると、一つのこういうのをかつげなくちゃならぬという、これが一人前だというレベルかどうなっている感じがするですね。

U 長い間かかって、こうやれるものであり、きついものをやつた後は軽いものをやる、お互いに相助けようという觀念が社中のいみでないかと思う。

弱い者は自分で自主的にやるというのはたまにはあるが、その他は、みんな平等だと取り扱っていますね。

問 社中という言葉は、^{木荷}木荷だけについての言葉か、あるいは、他に地引きとか搬出方法が各種あるが、雪橇の場合とか馬車の場合とか、地引き、それから今度近代的になると集材機とかあるが、どういふところの仲間をそう呼ぶのですか。

U ここはどうだかわからんけど、わたしらの所では大屋地区ですが、使っている言葉です。

馬車引きの仲間にもやはり社中というものがあるし、木挽きの仲間なら木挽きの仲間によつて社中というものがあります。木荷だけ使っていない。6尺に玉切ったコロをかつぐ、即ち扱ふということについて、今非常にやつぱり機械化して、やっておりますけど、昔はほとんど、どついう重いものでもかつかなければ絶対搬出できないという意識があつたもんて、7~8尺の、こういうでっかい丸太でも、100貫位のものはかついだのです。今では、せいぜい担ぐもので50~60貫位でしょうけど。昔は非常に、体力的にも辛働強かつたですね。

問 日本の水田地帯では別に、ゆいという言葉があります。ある一定期間忙しい時にお互いに手伝って仕事を並めますが、こういう様なのを別途に新しい意味も付加して、この社中という言葉で、この辺では使っていないのですか。

リ 農業には使っておりません。

問 全然使っておりませんか。林業だけの言葉ですか。土建の方はどうですか。

リ 土建の方は、たまに使っておるんです。組ともいうが、

問 そうすると、一番使っているもっともらしい理由は、さっきMさんがいわれた様な、謡曲とか、踊りとかそういう仲間が社中という言葉をつかっているが、なにかそういう所からヒントを得て、持ってきたのでしょうか。

M その踊りの方の社中、そのものかという語彙ででるかなんまりませんが、ともかくなんとか社中といえますね。

これ確か、お茶や生花にもいわれています。

普通こうして言う時は、「あの人は木荷に行っている」といっても、公に話す時は「コロカソギ」というようにしたりします。

S 労働者にお預けする時、「木荷に行ってもらいたい」というようには、いわない。労働者を喋っている時は、木荷ともいう。例えば土建事業でも、「工事に行っている」というのと「土方に行っている」というのと、うんと感じが違うようなものだ。

問 コロカソギって云うのは普通という言葉なのか。

S ええ。

問 この辺で公用語というのですか。たとえば、役場を使うとか、森林組合を使うとか、というような時には、どういう言葉を使うのですか。

S 搬出という。

問 三つ位言葉があるんですね。搬出する、かつぐ、それから木荷というのと。

M 聞いたんだけど、木荷にあてはまる言葉で、ボンサンで言葉をつかうがああいうような感じです。

問 ボンサンでどういうことですか。

M ボンサンで結局、店なんかの「デッチャレ」ですね。

丁度ボンサンに似ているということです。

大阪などで、今なら就取して働き始めたころをいうのです。

その人がいない時は、少し下げた様なみで「ボンサン」ということがある。

S 家の方では、息子を坊主というね。

問 そういうことは、全国的によくいいますね。

リ また自分を卑下して、「おれはボンヤ」ともいう。

問 それで前に、今大分少なくなってきたという事をうかかったのです。

要するに木荷だけのグループがあるというようにも考えられないわけですが、そういうものがコロカソギになったのか、あるいはそれと全然別なのかもわからないが、いかん。

S 大体そういう人達をあの社、この社とか、ノ部落にそういう組がいくつかある。そうすると、あの社やとか、この社とか

こういう風に、私が若い時分も、よく言われました。

問 社というのは、この辺でなにか特別の意味を持っているのですか。

S 会社の社の中です。普通、社中をこついったのではありませんかということに私は考えますね。

問 はあ。

S ええ、社の中や、会社の社の中だという意味に、社中と言ったのではありませんか、いわれています。

問 そうですか。しかしそれは会社組織でもなんでもないんですね。

S なんでもないんだけれど、気持の合ったちんなり、ク人のクルーを、ぞうしたノツの社という言葉で表現しようとしていると思いますね。

問 気持が合った仲間というのはどうですか。

S 造材、搬出は大体ノツの組になって、今までもやって来たわけです。

問 古い時から、といわれたか、どれくらい以前から続いたと思いますか。

S 私の子供の時期からずうっとそうであった。私も若い頃は伐木夫とか木荷もやりました。高野小学校の頃です。

問 何年位ですか。

S 昭和の3年か4年位です。不況の少し前頃です。

造材木荷とか、そういう言葉をききました。それだから、それがいつから始まったかということになると一寸わかりません

ね。

問 その頃にはあったんですね。

S 生花とか、踊りのでは、あの人達のクルーは、どこの社中と言いますね。私のおとなりに、生花の先生がおりまして、お茶の先生とか、ああいう人達が、今度どこそこの社中が主体をにぎるという言葉を使っているのです。

おもしろいなあと思うような気がしたのです。それでプログラムを買って見ますと、何の踊りと書いて、何々社中と先生の名前をつけている、ということは聞いたことがあるんです。

問 それは、金天ですか、羽咋ですか。

M いや、今これは全国的にです。テレビなんか見ていてもです。

問 ノツの集まりというんですか。

S そういうのじゃないかと思えますかね。

問 それで、それ以外に何もつかっていない。例えば、別の地域にいけば、何々組というのが一般にあります。他の地域で、伐木造材する場合に存在しますね。

S 最近、ああいう組だとか、この組だとかいって、そういう言葉も使われる様になりました。

問 いつころからですか。

S 2の最近ですね。前に、林業機械が入ってきた頃からです。それから、この組ということも土方の、土木事業の何々組という請け買いがある。そこでも、そういう風にいわれるので、こういう風になったのではないかと思う。

問 そうすると、機械が入ってきたというと昭和34年、35年、もう少し前、33年頃ですか。

S そうですね。

問 そうすると、何れにしても、昔からそういう名前があったかもわからない。

けれど、名前のことは、どちらでもいいとしても、そういう気の合った仲間ということはあるわけですね。

S ええそうです。

問 何か別の呼び方で、そういうのはあったのですか。

S 別の呼び方は聞いておりません。

問 こういうのは、やっぱり同じ部落の、たとえば小泉なら小泉というところに住んでいる人達が、あるいはまた親戚縁者、そういうグループが主として多いですか。

S その部落にいる人で、その可能な人達の集まりで、そういうことが言われるので、親類とか色々でそういう風な関係は、あまりないじゃないですか。

それから部落民、部落をこえて社を作っている所もある。長沢とか興徳寺になると森林組合に労働者がたくさんくるという場合になると、こっちから人、そっちから人とか、組になって、それが1つの社ということになるわけです。

問 社は現在ほどのくらい、何組くらい、旧三井地区にあるのですか。

S 現在どれほどありますかねえ。

U Nさん昔の木荷は三井の地区にとれ程あるか。機械の組もあ

るだろうし。

N (三井森林組合職員) えーと、市の坂に1組、新保に1組、長沢に1組、興徳寺に2組、仁行に1組、これだけです。

問 そうすると6組ですね。

N 機械持っている人は、本江に1組、そんなだけです、計7組です。

問 これは、今年、今現在ですか。

N 今、現在です。

問 過去は分りますか、あるいは、一昨年当たりの変化はわかりますか。

N 去年と変りないですよ。

問 1昨年とどうですか。

N あの台風の時を境にしてかわった。

問 台風はいつでした。

N 昭和36年の9月15日のオス室戸台風です。

問 オス室戸台風を境として、減ったわけですね。

N 減ったわけです。

問 どれくらいありましたか。

S あの頃は、大分あったですね。

問 何がどのくらいありましたか、統計で、台風の時。

S 台風の時は、その倍まではなかったともわしや思うのだが。

N 興徳寺だけでも、5組より多かった。各部落に少なくとも1組はあったもんね。

問 機械持っているのはなかったんですか。

N 機械が入ったのは、本江の人達が買ったのはいつだったかなあ。37年か。組合より1年後なんです。

問 どんな機械ですか。集材機の小さいのですか。

N そうです。ワイヤーのスパンが500ですかね。

問 大部分の人は組でもって、荷買いをするわけですか。

N そういふわけです。荷買いが多かったのです。

問 地引きとか、そういうことはないですか。

N 地引きは、この地区は、林地を痛めるという関係で、禁んでいたのですねえ。

今でも、部落の山道作りというのがあるが、年に1回各部落で、山道の修理に部落の住民が全部あたる習慣があるんです。

N Sさんの所にはないんですか。

S わしの所は、地引きはほとんどやらんし、山道作りはある。

N 1年に1回奉仕はやりま。

問 その場合に、36年9月頃ノ2組あったのが、その前の2〜3年前ですか。丁度昭和32〜33年頃はどつなんですか。

N 同じ位だったんです。一番多かったのは昭和30何年頃、木の子供の時分だったと思う。木がよく伐られたか知らないが、木荷をやっていたのだった。

問 コロカツギをモッカ？ポッカというのですね。

N ホッカ。畠山に行ってもいいます。ポッカというのは畠山の立山の方をいうとか、こっちはポッカと言います。

問 コロカツギの方言ですか。その子供の頃ポッカといわされたのは何処ごろですか。

N 昭和34年頃です。

問 どれくらいあったか。

S 各部落に平均2組ほどはあったです。

問 そうすると、ノ2組ですか、ノ1組ですか。

N その頃のノ組というのは、今より人数は少ないです。

S 人数は少ないでしょう。

N 組数も多くて、組の中の人数は少ない。今ですと大体5人位がノ組です。当時2人でも3人でもノ組になれたです。

S そう。それは生産が余計だったということではなくして、林道とかが案外発達しておらん。それだから搬出人夫が余計だったということですね。

N 組合が林道を作り始めたのはわかりますが、昭和30年を境にして5千何百mかけたんですが、区内でノ3線かノ2線に。

S 搬出、山出しの関係は、道路が、林道が入っているか、生産がそこそこあっても、木荷の組数は少ない。昔は林道がよく入っておらなんだ。今林道は開通しているということで、組の数は減ってきたというわけです。それだから、昭和34、5年頃は、相当大きな組でなくて、3人か4人くらいの組が相当数あったということです。とくに集材機のような機械ができてかわってきた。

2 機械力への移行

問 あのオズ室戸台風を境にして、どうしてこんなに変わったか。

S これは、やっぱり機械化がなされ始めたことです。この地区内の救はよく分りませんが、よその地区からすると入ってきている。

問 しかしデータによると、それ程機械は入っていないじゃないですか。

S 三井としては少ないですが、隣り地区から入ってきてやっている。こちらの三井に持っているだけではないのです。

問 室戸台風で組数が半分位に減ったといいますが、その減った人達は、どこに行ったのですか。あるいは、新しい機械で搬出する労働者になっていったのですか。あるいはまた金沢とか秋田とか、そういう所に、この仕事を辞めて、行ったのですか。

S そういう人達も、最近では、この地区にもありますが、この造林事業ですね。拡大造林を盛んにやっている。県行造林とか公団造林、それに一般造林と、この辺に非常に救出されている。災害復旧で、昭和34年の水の災害復旧に相当の労力が取られているわけです。それだから、今までの労働力にとってもトランスがとれることになる。

問 そっちの方が、造林は別としても、災害復旧などの労働の方がよかったから、そちらに行ったわけですね。

M ヤッぱりかつぎの方がひどいのですから土木工事の方に行って、モッコで石をかついたりするというようなそっちの方に、人は

行くとしょつね、給料も高いです。

問 この地区ということではないのですか。たとえば、門前とか、輪島などの地区とか。

S こちらの方は相当この仕事があると、山の仕事は出ないという関係で、よその地区は別ですけど、今までこう見ている。

問 ボンカが少なくなった、その少なくなったというのは、この地区の三井なら三井に住まわなくて、災害復旧の労働者にかわって行ったというのですか。この地区で大体半数ですね。

それから地区外が残り、輪島とかです。何々組が受け入れたというんで、その専属のいつも来てくれる人夫を、トラックに乗せて他の現場に行く。こういう具合ですね。

S 自家生産をやるというのがあり、それは自分でやるのもある。

問 いや、純労働者、純粹の専業の労働者ですが。

S 専業とはいかんですね。

3 一丁場

S 途中長い道路になると、ふっと止まっている。

問 ああ、やすんでいるわけですね。そういうようなことから、

6町も10町もあると續がない。その重さによってちがうんでしょうけど、1000kg位かついて、そして休息するんですか。

S そうですね。たいたい1000kg位かな、1丁場というのは、

U もっとあるんじゃないか。

問 「ひと丁場」って何ですか。

リ ええ、「いち丁場」といわすに「ひと丁場」という。材木によって軽ければ、1丁場といつても300mもあるし、重いやつになれば、50m位で1丁場という場合もあります。70貫、80貫以上になると、やっと動かすことが出来る用もある。今は、そんな昔ほどの寸法はしません。

問 今はそうすると、たいたい50〜60貫、あるいは大きく70貫くらいですね。

その場合の1丁場というのは、地形によっても違うでしょうけども、どれくらいですか。100m位ですか。

リ まあ、やっぱり150m位じゃないですか。

S 昔は、それをやったんですが、今はもう時代がちがってねえ。

リ 昔は自分も30年ほど前にやったことがあります。

問 重たいでしょうね。

リ 今でも最高60貫や70貫はかつぐけどね。あの当時は肉の切り売りでした。まあ1週間と続けば背中の背髄のあたりの皮をむすむいたですね。

今は、そういう辛抱して、背中の皮むいたりして労働するのは、いないですね。

問 そうでしょうね。

こんなに時代が変わってくれば、それがどう考えて見ても、どうもいいともいえないでしょうね。

S 100貫の金庫を動かす時に、かついである一定の力へ運ぶ人もおったんです。ところが、材木になると、同じ100貫

あつても、かつぎやすいんです。

リ 金庫なんかと比べると、同じ目方のものでも非常にかつき易いんです。金庫は、真四角のものです。だからかつぐには費ふれするし、後にそり返るし、後にひっぱられるし、非常に中心がとれんです。

問 1丁場というのは、何のためにある言葉なんですか。

S これは、さつきりさんから云われた通り、重さによっても多少距離がいった時、平均この材木は相当あらいと、重いという場合には、その丁場を距離を短縮するんです。そうして、そのままおろして、次に行つて、次からもどつていつて、次から、またかんて（担いで）。その又現場に行つて、かんて来る時は、桶一杯のものでない、次はク分から分目方の小さいものをかんてくるのです。そうでなければ、続けて大きい80貫も90貫もあるものを、ス度ス度すると体が疲弊して、そこはどうしてもいかないでしょう。

リ 1丁場ということは、どんなに難儀でも、そこまで休まずに行くという距離です。軽い荷ならある程度まで、150mあつても、200mあつてもさざとそこまで行けるからよいですけれど、相当大経木なれば、相当な目方がありますし、それでやっぱり短くして、1丁場をこしらえている。

問 1丁場は単金と関係あるんですか。1丁場、これは100円位とか、これは150円位というように。

リ いやいや、そういうわけではない。そういうこととは関係ないです。要するに休まないで、とにかく1回もかついた丸太を

おろさないで行く距離というわけですね。疲勞の度合のために休めるために、ノ丁場の丁場を短くしたり、長くしたりしている。

問 これは、まあ非常にノ500mの時もあるし、あるいは500mの時もあるし、300mの時もあるというように、その所に依りて違つわけですね。

M そいしゃ、ノ丁場行くと、そこに下しておいて、次のやつをかついて……。

問 またもどるわけですね。

U 社中は5人か6人しかおらんから、そこまで皆一緒に丁場に来るけど、10人も20人もいる場合は、丁場は、ノ丁場、ス丁場、3丁場をそこで区切つて、そこで5人もいて、あつこうに6人もいると……。

S ……こっちにおえた奴はこっちに行くと、当然体はそりやいくつあつても足らぬから、最初重いものをもつたら次に軽いものをかんでくる。こうして疲勞度を少なくするというわけです。

M そうしたら、長いやつをストンとおろして、立てたまんま一服しておいて、またその次の丁場に行くというんじゃないで、その1つのまとまりを、ここにノ丁場おいておいて、全部運んでしまつたら、またこれから、オスの丁場へ運ぶと……。

S しかし、急坂の所にかつて上つたという時、そこにはいい休み場所、木をすつと並べておくところがないという場合には、これは休む場合も入れてノ丁場を考える。

問 「ひと丁場」というのは、どついう字を書くんですか。「ひ

と」はまあノでしようね。「は」というのは馬ですか。

U 「は」は場所の「場」でしよつ。

問 そうして、これは何分くらい休憩するんですか。

U ちょっと長いですね。50分くらいも、半時間も休む場合もあります。半日に2回ね。これは普通ですね。よっぽど重たい木なら、半日に3回くらいは休みます。今では林道は、そうとう奥まで入つて、ほとんど昔のような苦勞はいたしませんけど。

この丁場は道のなかつた時代は大部長かつたのでしよつ。ノ丁場500mというような場所もあつたでしよつね。

S ええ、そりやたくさんですよ。

U 500m位のは普通でしよつね。

問 そうすると、運ぶ方法としては、ノ人ノ組の人にもいるのですか。

U それはこの重労働は危険かともなうから、誰かついていないと、ノ人だけだと、どこか打つても、誰も助けてくれない人もないから、だからやっぱり5人以上のものがおつたわけです。

問 大分怪我することはあるんですか。木の下になつたとか、滑つて転んだりとか。

U ええ、ありますね。天気ばかりの日に労働するわけじゃないから、雪の道でやる場合もあるし、それから雨の降る場合もあるしね。

問 はあ、雨天でもやるわけですか。

U ええ、雨天でもね。朝、天気だと思つて出ても途中から雨に降られても、半日で途中までやめて帰るわけにはいかんからね。

相当の大きな雨だと、そりや止めますかね。

問 そうすると、運び方としては、たとえば五人ノ組の場合を考えた場合は、ここに伐採地がある、またここに伐採地がある。この木を運ぶわけです。かりにこれを500本としますと、そしてここがかつき出しの道路の終点だとすると、かりにこれが50貫のために、ノ丁場ノと0本とします……。

リ 最初は、この辺の山は全部皆伐でない場合があるから、集材をして、山のどこか良い場所を見つけて、まとめるわけです。どこの山でも。

問 そのところは、木寄せみたいなことをやりますか。森なんかで転がして、ある一定の地裏までもって来るのですね。

リ ええ。

問 そうすると、かりにここに持って来た。ここに、何本が運ぶという場合には、そのノ番目の運び方として、ここに五人がいると、Aがここまで、またここをかりにノ丁場でもってノ分休んで、またこうつついて持ってくる。またこんど、これがノの地裏、その地裏、3の地裏、4の地裏、終裏が5の地裏としますと、順次にこうもってくる。

リ 搬出の方法は、まちまちですが、今の、あんたのおっしゃる……。

問 ノつの方法としてこういうのもあるわけですね。

リ ええ、そういうのもたまにありますが、大体は……。

問 五人がこういつようにかつぐ、そうするとヌ番目には、さっきもおっしゃったように、これが0の地裏でノの地裏、ヌの地

裏、3の地裏、4の地裏、5の地裏で終裏としますと、これがAの人がここまでもって行くわけです。

リ ええ、そうです。

問 ここから、今度Bの人がかっついていくんですか。

S いや、そういう場合は少ないですね。五人なら五人で、普通の場合はここまでもんどん運ぶわけですね。

問 皆、各人各人ですね。

リ この場所は、そうとう空地がある場合、ノ丁場……。

S ここも五人、ここも五人とね。

問 さっき所長さんがおっしゃったような、100貫持って来て、次の人が60貫とかいうようなのはどういうことですか。

S それは、はじめ大きいのをかんだから、2度目の時にはここへもどって、軽いのをかんでくる。

問 その場合、Aの人は、ヌの地裏、3の地裏、4の地裏、5の地裏までに行ってから、今度またもどってくる時に、60貫目の重さのものをかつぐのですか。

S いやいやそんなことはないです。

リ ここまで、まあ100本としますね。それからまたもどって、その時は疲れていますから、細い木をもっていく。

問 100貫の木をかっついて、今度50貫の本にするとします。この人がノ日4回運べるとすれば、4本ここまでも運ぶわけですね。そして今度最後の4本目をかっついてくると、今度このAの人は、70貫の重たいやつからかつぐわけですか。

リ いやいや。

S 考え方は、ここで集材して100石あるとしましょうね。ところがここへは5人して20石運んだとしましょうね。これは5人の人が20石運んでくるわけです。ところがこれは一休みして、ここに20石来た。そしたら5人でまた20石ここに来ると………こういう順序です。

U これはなぜそうするかと言うと、1つは共同ルールというのは非常に入会的な場面がある。1人がかつぐのは、非常に難儀なんです。

だから、やっぱりお互いに競い合って運ぶとお互いに手伝いして搬出するわけです。

S いいえ、別々ではないんです。これは、ここがかんたものは次の者はまたここからかものではなくて、これは皆共同です。

U 今度自分がかつぐ番だと、ちゃんと自分で常機的に考えてかつぐわけです。

問 しかし、するい人がいれば……。そういう者はたまにはのけ者になるわけですね。

U いずれはのけ者になるわけですね。たまにはいるけど、弱くても精一杯かつぐということです。

あの人は弱いけど、精一杯かついでいるから、かわいそうだから一緒にやってみるとともに働こうと。こういうような意味あいです。だから社中というのは、非常に意気の入っているもので、気合の通じたものの集まったものが社中と言われているわけです。

問 そうすると、こういう形式は少ないわけですね。つまり100石なら100石を1日当たりになると、5人で20石運ぶとす

ると、その中に20貫のものも、30貫のものも、40貫のものもあるとすると、そういう場合は、とにかく、ここまで20石を……。

S 20石でも、30石でも、100石でも、そこに置かれる場所があれば、その丁場のところに持ってくるわけです。ところが、20石なんかここには、おけんという場合には、20石をこっちに送って、それからこのやっをこっちに持ってくるというわけです。

問 その辺は、臨機応変に夫々に違うわけですね。この運び方しか大体ないわけですか。

S この運び方が重労働のこれ。私はよく考えたもんだなあと思いますね。

かつぐ丸太を運んで、ここまで運んでくれはいいのですが、これは非常に疲弊してためです。

問 そうすると、兎に角、20石なら20石をAの人がここにきまーす休みまたここにきて休む、そしてここまで持ってくるというんじやなしに、とにかく1丁場の所まで持ってくる。重い木をかつげば次は軽い木を自分で適当に選んで持ってくる、また別の人は重い木、軽い木と交互に選んで、その地裏まで持ってくるというわけですね。

ここで休んで、すぐ申ついでここまで持ってきて、Bの人もそういうやり方で……。

S そうなると、それは、非常に難儀しますね。後の休憩時間は長いですが、重い木になると、すっとうして行けんわけです。

ね。そうすると休む時間もなくなるわけです。ところが重い木をここまで持ってきても、ここから、もどって行って、次に軽い木をかつくからうまくいくわけなんです。

問 要するに疲勞をとる方法としては、比較的に一息で歩くのに短距離にするわけですね。之番目には、重い木、軽い木を交互に、合わせながら運ぶということですね。こういうことで出来るだけ疲勞を自然にというか、工夫の結果、こういう風になっているわけですね。

このほかに疲勞を防止するような自然の方法はお気付きになりますか。

M 大勢でグループで歩いたり、かついたりする時、お互いに助け合つて、1人で無理してしないことで安全にする危険防止もあります。

問 1人ですることは、まずないですか。

S まさ殆んどないですね。

まあ、自家用でやるとか、小さい木をやるものであったなら私が木挽きであつたら、自分をかついてもってきますか。大量のものであり、大量のものの場合には、やはり隣りの息子さんでも親父さんでも必ず来て手伝ってもらってやる。これが普通なんです。

し 余程、その部落なら部落、その町村なら町村を回抜けて力持ちの人がおれば、どうせ銭かせぎのようなら人の社中の中に入って働くよりも、自分1人で請け負ひして、出役した方が有利だと思つ場合には、たまには1人でやる人もいます。そのよう

な人は仕事もやりますし、また力もあるし、耐久力もあるし、そのような者は、たまに1人だけでやります。それは珍しいけど、ソリヤ特別だ。

M コロカツギが、一番最初出て来たのはこの地区でもやれると思いますが、とくにこの地区が丁度担げる程度の木を生産してるもんだから、非常にコロカツギが残っているという事柄はないもんですか。丁度1人がかつげる程度の木が生産されるというようなことです。

問 それから、林業労働者というのは、やっぱり減ってきているのですか。

S 三井の方は全体から見れば減ってはいるが、困っているわけでもないです。

問 困っていないということはどういうことですか。

S 林業労働者は、よその地区も、ここも困っていないようです。やはり出稼ぎの賃金が少ないということです。手仕事でやる人が多い。家庭労働か兼業でやる人がいるということです。

問 それで一時少なくなったように見えても、またかりに出材量がたくさんであれば、林業労働者に行く人も出てくるということですか。

S ええ、そういうことです。

44 出材の流通事情

S 現在、中小径木も相当値段がよいし、そういう風に中小径木の生産に移行しつつあるようです。

M 他の所みたいなの、たとえば他の場所では、こんなでかい木もあれば、こんな小さい木もあるといった場合には、大きい木はかつけんことになるんですね。そういう場合、小さい木だけは担いで出せるけど、大きい木はどうしても出せないものだから、急に機械が入って来たというわけですね。どうにもならなくなったということですね。ところが、この地帯には丁度木かいつも揃っているのだと、そういうようなことは考えられませんか。他との比較で考えるのですけど。

S すっと前は、マツは非常にスギ、ヒノキより重たい。こういう場合にはですね、縦にこう引いて半分にするわけです。

U そういう場合、また雪を利用してやりますこともありますね。雪を利用する場合は横につけて、6人がかりで出すものもあります。

M 木取屋さんの木をこう区切る人達は、この辺なら1人でかけけるから1間にとっておいてやれとか、又間にとっておいてやれと、そういうようなことはないですか。

U そういうことはやりませんね。やはり、それは販売によって値段のする方に頼む。搬出のことは考えていません。そういうようなのを目標として、まいますね。

S それをやっている中々ひま、手間かかるでしょう。工賃も

かかるでしょう。たまらんですね。あ、いうふうにすると非常にむつとしやすいし、扱いやすくなる。

U 今は、どこでも400石程かたまっていればそれがほとんど柴薪でやります。400石以上もあれば、流材でもなんでもやらずで、搬出したけやっている業者もおります。たまには、コバノ枚がやはり20石か30石か、100石以内のやつはたんとある。

S アテの特色として、扱伐でいいんですが、そうした面についての生産コストは、高くなりますね。1遍に大量の材を伐れないことです。

問 扱伐だから生産コストが高くなるわけですね。

S やっぱ人間によらなければならない。

U 扱伐の時は、チェーンソーなんかよりも、やはり手挽きでやった方が自分の思う前に出せる。やっぱり早くなります。一番痛まずにかえすということは、やはり手挽きの技術なんです。チェーンソーでやる場合は、たちまちやるんだからね、どこにでもかえります。

M 下にいつでも機械があるわけですから、それで割合こちらは木を伐る割にチェーンソーをほとんど使っていないわけですね。

問 僅かな、たとえば1本伐ったとか、2本伐ったとか、自家用以外の、要するに販売用にという理由によると、販売用に使う場合は、森林組合に委託して売らせるといった形が、三井にはありますね。このほかに、個人の所へもし売る場合は、僅かの場合どこに売るわけですか。土地の製材屋さんですか。

U 1本、2本、あるいは5本、6本とわずかな場合は、製材屋の方へも売る場合もあるし、業者の方へ売る場合もあるし、組合の方にも持ってくる場合もあります。やっぱり1本で5〜6万円あるいは10万円からするんですからね。スギ、アテをとります。

問 ここは、むしろ今でも売り手市場なんですね。多くの業者が他から入って来ますでしょうか。

S そうそう、よそからの業者は割合少ないです。それで製材品として、一寸出てあるわけですが、製材の所有する者は挽いたものの他は、みんなよそに出してあるというわけです。

一部は家を作るとか、いわゆる家の修理というのかもしれませんが、それは、僅かです。

M 穴水市場にアテの材が出るが、富山の業者達が買って行って、あそから船に積んで島山に行くというのはどんなもんですか。

S あるんです。はやっております。ところがやはり価格が相当高いものですから、私の知っている請け買いの人は、こっちから買った市売したものは扱わないのです。

南洋材か北洋材ああいうのだとあるいはよいのかも知れないが、こちらのは高くついて、もうからない。我は良いのは分っているが、高くつく。

M 穴水市場渡しの価格はいくらですか？

製材のですね。これは1つの事例だけを挙げると、最近調べたのは丸太が金沢市場で10枚当たり14600円しているのが、穴水市場だと15100〜18800円ほどの差で引きとられる。穴

水の方が高い。やっぱり量が少ないのですかね。取り引きされる量が金沢まで行かないというような。

S そういう気もあるでしょうね。

問 この地域では、森林組合の扱い面積、これ今いたいたのですが、旧三井村としては、これはどの位の割合になるんですか。他に製材業者などがあるわけですね。その内の半分ぐらいですか。製材する量がですか。生産品、林産品取り扱い、丸太のことですか。森林組合の扱い方というのは、旧三井地区では、どれくらいの割合を示すのですか。

S 三井地区では36%です。だいたい35,000石ぐらいです。そういう推定なのですかね。

問 35,000石の基準は、どういうふうにして推定されているのですか。製材品とか、製材から逆算されてですか。

S 製材からも逆算しますし、業者の取り扱い方ですね。いわゆる税務署筋じゃなくて実態のところですね。

この業者はこれだけ持っているという具合に、それから大きい山を持っていた人ですね。あれは何百石売った人のそういうところを一寸数えてみたのです。

問 なるほど、それが35,000石ぐらいあってそのうち3ヶ年度は11,000石ぐらいあると、約1/3だということですね。森林組合長さんも1/3ぐらいと言っていました。

ここは製材工場は4つとか……。

U ええ、4つですね。

5. コロカンギと林業技術

問 それからホッカ コロカンギは 日本全体の林業生産の技術の方法としても、また石川県としても、ちょっと現在の時流に立って考え直した場合、非常に珍しいというような方法だと思うんです。外部の人間からすれば、ところが、ここの方では、別に珍しい方法でもないだろうと思いますが。しかし、焼物とか、テレビとか、ラジオとかいろいろなところで、いろいろな形で、こういう重いものを背おって運ぶという方法、一口にいうと、古い搬出方法をPRされるわけですね。そういうことに対して、現在疑問といいますか、県の職員の人達は別としても、一般の人達のそういうホッカに対する感覚というんですか、不思議に思っていないとか、なんとか、そういう面はどうでしょうか。

U 不思議に思わんです。それはなぜ不思議に思わんかということ、この地域は、アテ林業の択伐林業だから、ここでの地域の特徴でなからうかと思うんです。

S 択伐だから当然こうあるべきものであるという考えなんて……。

経済の面も、そんなに今200万も300万もする家の経済をやっていきぬわけではないし、それからどうにも、こうにも経済がやってゆければ、伐期に達したからと、急に木を伐る必要はないと思います。

それで、やっぱり年に50〜70万円を売買すれば、どうにかやっていける家計が多いわけです。70万位取れば、あ

ちこっちの劣等木とか大径木とか、さらにそういうのを伐ればね、そいだけ所得があるわけです、それで、たくさんかたまっただものを伐採するのなら、やはり機械化して搬出することも考えられますが、たまにあっちにも1本、こっちにも1本というのを搬出するのは、一々機械を持って歩いて搬出するということは、なお一層経費がかかると思います。

問 しかし、それにもかかわらず一般的な感としては、恐らく我々林業関係の研究をしている人間ですから、仮定として問題を出すわけですが、ジャーナリズムが取りあける場合は、それにもかかわらず人がかりに10貫ぐらゐの荷だったら、これは製材工場の中でも背負っているわけですし、あれこれ背負いますけど、30貫、50貫の背負おうと言うのは全く不思議に思っています……。

S それはそうですね。

問 大変じゃないかと。だからたとえば、今度農産車が出来るとかいいますが、そのような簡便な方法は、かりに1本であっても、そういうようなものでなければ馬車とか、冬、雪機にするとか、林地崩壊をするという別の面もありますが、地引きもありますけど、架線にまで行かなくても、何かの方法があるんじゃないかと言うような疑問が残るんです。

U それでは、こういうことをやれば経済的だという……。

例えば機械をもってきて、架線の方法でやるということになれば、相当やっぱり経費がかかるのではないですか、1本のものを出すということになれば、どんなもんでしょうね。

問 確かに問題にけど。そうすると今度は、たとえば森林組合とか、あるいは何か組とか、製材業者とかあるいは素材生産業者ですか。そういう人達のクルースが単独でもいいですか。要するに自分が特になくても、うけおわせるとか何とかの方法で森林組合が一番いいんでしょう。

山 ほとんど委託それから請け負いで森林組合が搬出するようなことをやってはありますが、たんだんと現在変わりつつあります。ただ今話した通り、ノ本かス本か3本位なものを、やっぱり機械力にやらせるということは、非常に経済的にも有利でなくなるのではないんですか。

問 県の中ではいかがですか。やっぱりノ本、ノ本というのは、極端ですが、しかしかりに100石未満というのは、あるわけでしょう。富山県も石川県でも、そういう場合はどういう風に搬出しているんですか。

山 ほとんどの場合は皆伐なんです。マン、スギです。それに実際の石の現場を集材機を使って出している人もあるんです。それで、その皆伐も一カ所に集まっていれば、そこに集材機を持っていかなくても、トラックのエンジンを利用したり、架線だったら線だけ持って行って、専を使うよりも架線を出した方が安いというて実行しているんです。それと、この場合を考えてみますと、このコロカソギをとおしても好きだからやっているというんじゃないと思うんです。一番ね、そのもとというのは、皆伐機そのものを搬出する丁度手頃な安い機械、その方法が一見当たらないうこと、それから、それが見当らんもんだ

から、その次にくるのが家庭の中？大体コロカソギをやっている家は成り立って行くんだというような経済状態になっている家庭だもんだから、必然的に他の機械がないもんだから、手取り早いコロカソギをやっているんだということになってくるんだと思います。それがもっと若い人達になってくると、重労働でなくて兼労働だと思いますが、兼労働というものに、かりにも、すでに若い人達は疑問を持ち出していると思うんです。昔のようにゴソゴソと、とにかく身を粉にして働く時代ではないと思うのです。うまいこと、手軽に早いこと運び出してくるような機械があれば、ここんところは全部それに変わります。

それからもう一つ、今がついているよりも、もっと早く早く出してこなければならぬという経済状態が来た場合、その場合にどうしようもなく、そういうのをあみ出すかも知れないですよ。

先きに機械が入ってから、そういう風に早く出すのか、それともどうにも経済的にならなくなって、機械をあみ出すか、どちらかだと思うんですが、あれだと引っ張り出した場合に4500石だったか、新潟県の資料によると4000石ほどだったら、それを出すと元を取るというような計算をされておったのですね。あれがあれば皆伐材でもなんでも引っ張り出せるのですが、それよりも15〜20万ぐらいの主索だけで引っ張ってこれる。そんな方法はないものかなと思っています。

山 そういうものは、あみたきなきやならないね。

問 それから伐採されるもの、ノ本、ス本というもの、かりに10

本位でも、みな個々はばらばらに出しているようですね。ある地方では、これはノロ石、スロ石じゃないですが、しかしノロ石とかスロ石という単位でもないと思うんです。500石とか1000石じゃなし、もっと小さい零細所有者という場合に、大きな人がその近くにいます。それかかりにノロ石とか何千石とが出す。そこには当然桀線、集材機が引かれます。その時に見はからって、それに便乗して自分も材を出すことはあるのですか。

S それは、あります。

事業では社に出させる。請け負わせた人が、隣りがやりだしたからすぐ行ってかりてきて出させるわけです。やっぱり、そうすると売る側も買う側もよいです。

M その場合でも山のこういうノツの所があると、あるノカ所までは何とかして木の間を縫って持ってゆかなければならないのです。

S たた桀線の場合は、その下木が5尺以上伐るとすれば、ノ尺、8寸もあれば、ノ尺5寸もあれば、こう真直ぐびんと立っているのではなくて、ずっとうすれるんです。そういう関係もあって非常にやりづらいんです。そうするとウラボ木にも傷がつくとかというが。

U さきほどのお話の通り、この皆伐ということになれば、昭和36年の風倒木だけです。その他に皆伐されているのは見あたりません。

それで今でも再造林するところは、殆んど災害地あとです。

それでこの一般の特徴としては、アテの中にスギがのびて、そしてやっぱり100〜80年たった木の中に、個別経営対象のスギさんの山も入ってたのですが、台帳面積が6〜7町ですが、ノ2倍ですね。混植です。スギからアテから、それがノ10年もあるし、スロ年もあるし、30年もあるしね。これはずっと持続して行く、どこかノ枚皆伐して、新植されたり、それから再造林した場合、手入ればかりを必要とします。実際にいったら、6町あって、スロ町以上あるでしょう。

S 町あたりノ500石ぐらいですね。

M これは仕立てるのにどんなもんですか、あれと今苗木を作って穴に植えて置くというのは、どちらの方がいいですか。

S 畑にすれば植えた方がいいと思います。

M やはり、その方が多いわけですね。

U ここでは、それも丁度ノ個ノ遍に育ったような大きいやつを植えるんです。よそは小さい年か3年にして植える。ここでは秋には5年か6年、これ位になったやつを植えるんだから、掘り穴等は非常に周囲の表土のゴミをとって植えておくんです。人が掘って入れて踏みこんで入れたのは、同じ土壌でも中々太らんです。

M 森林組合の方では、アテの間伐材というのは、今どこかに使って、この間伐材を引っ張っていつてくれと、というような調子にはやっていないんですか。

S ここは、こんなけ森林つくってたんて売り込んでくるんです。年に余計あって委託にするのもあり、森林組合の作業が一番い

い値を出すという場合もあるし、買い取る場合は余計ない。
そいだからこれだけ一生懸命やって、成績そのものは年々す
と上がって来たというです。

問 これで、アテとスギの天々の純林というのは、殆んどないん
ですね。スギはあるんですか。

S ヤっぱり混植の形が多い。

問 広葉樹林が多いです。その辺大雑把でいいのですが、ちょつ
と詳しく、これは針葉樹の、あるいは広葉樹の新炭林地帯とか、
これはスギとアテの混植地帯とか、その程度に三井での区別を
入れていただけないでしょうか。マンはあまり考えなくていい
んじゃないですか。

なぜそんなのをお願いするかと言えば、一つやっぱり鉄道と
か道路沿いの部落で比較的育林経営をよくやっているという。
アテ、スギというのは、やっぱりこの道路沿いなんです。組合
長さんとか、色んな人がやっていますね。ところが洲衛とか旗
田とか、いろいろ新炭林が多い所は、どうもそうではないよう
な気がします。その実際の姿というものを一寸見たかったん
です。それといわゆる土産的業質、フームスとか、そういう地味
弱というよりか、むしろ地利的な要素があるんじゃないかと
いうような、これは仮設ですが、そういうのも見たかったもん
ですから。

⑤ その点については、どうして奥地に造林が出来なんだという
ことなんですかね。これは仁行の部落をとって考えてみますと、
仁行の部落は森林のない面積が、ノス〇〇町歩あります。そこで

ここは、なぜ造林がおこらなれたかということですか。昔農地改
革前はここには相当な地主階級ですね。田圃等をたくさん持っ
ておる者があつた。

そうすると、小作料は相当入って来た。ノ年には小作料もっ
って、それから新炭材を、炭焼きしている人に売ると、まあ
これだけ売れば大体一家の経理は一応支えられる。その見通し
でやって来たわけです。これは、炭焼く人も全部でどの何戸、
あの頃あつたんですが、その中らの戸位は炭焼きましていた。
この時代は地主の経済は安定しておつた。しかし自分は、こち
らの鉄道沿線のように木を植えてよつとしても、この人達らの戸
の人達は炭焼きの事業所をもっている。つまり工場をもってい
るわけです。それから中々労力がなかったともいえるわけです。
それで頭のないやみは、ここに木を植えてノつやろうと思つても、
下植えとか何とかする場合においては、隣りの親父一つきてち
よつこり手伝ってくれということになった。

そうすれば、小作の關係があつたもんだから、忙しいんだけ
ど、隣りの親父の言うことだから、ノ日、ス日は行つてして上
げなければならんたろうと、そういうような気持ちであつた。
地主は安定していたからよかつたけれども、面積は鉄道沿線か
ち見れば非常にたくさん植えてあつた。そのような關係で造林
が遅れたというのが、現在のようになったのである。ところが
それから新炭林は斜陽産業になつたので、今はあつて造林も
やろう、公団造林もやろう、県行造林もやろうなんてことをし
ているわけです。既に遅れているわけです。

面積という観念にとらわれて、将来の見通しが出来なかった。それより、そうした環境にあったと言えるわけです。

問 面積が多いということは、面積が多いから、しかも手不足だから、再造林、造林する面積は、したかって小さいということですか。

S ええ、そうです。

それからその洲衛なんです。耕作面積が非常に多いです。この辺では普通に反百姓というが、洲衛の方では平均ノ町をこす程度です。田だけだね。そして一般の人達は炭焼きをやった。そんな田の収入は大きいものですか炭焼きをやったというのです。

そういう関係で、この時分マン並木は全部炭で焼いていたわけですね。ところがマンも今相当いいとなったら、マンも相当生えている。それから従って洲衛という部落は土質もよくない。それともう一つ^{よるき}炭焼きという部落なんです。新炭林の面積が非常に大きいわけなんです。これはまた背負地で、という関係で悪いわけなんです。

S それだから今、人工造林面積がまた35ヘクタールから76ヘクタールしかないというのは、そういう大面積の所には造林率が低い。それで平均してみると、そういう率にしかない。

しかしノコッペはやすでに出来た部落、長沢とか、この組合長さんの祖父母の部落とか、そういう所はほとんどが出来ております。

M この地判図に関係あるんでしょうね、やはり道路沿いのところ

は非常に多いと、そういうようなことは、それもあります。

6. コロカソギの方法

問 おいくつですか。

Sa (三井森林組合林産係生産担当機械班長) わしやまた、あんたヨソオです。コロカソギでなく架線をやっています。

問 組は何人ですか。

Sa 6人です。

問 どういうお名前かを具体的にいって下さい。

Sa 選取見です。

問 私は東京の目黒の林業試験場のKOといいます。おいそかし、いところどうも。本当は夜分ですから、こちらからおうかがいしたいと思っていたのですが、丁度組合の方で用意していただいたりなんかしたもんですから、お忙しいところ、お疲れのところ来ていただきまして、済みません。

丁度私の関心が、林業機械化がいろいろ各地で入っているわけですが、そういうのを少しまとめてみたのですが、それをまとめてみると、やっぱり古い形のやり方が大分残っているわけです。で、そういう中にもコロカソギというのは特色があるのじゃないかと思ひまして、何人かの人で少し集まって、研究して何かしているのです。研究ということも現地の人が、実際研究したりなんかしている人からすれば、直接に明日から役立

心 歩くのはやっぱり大変だ。

問 1 かっついていて あまりの重さのために、足が曲っちゃって、上に木がたってしまうことはないですか。

一 月 ええ 始めはそういうこともあります。馴れると たいしたことはありません。大体 体の筋肉というのは たんかやっぱり馴れちゃうものだと思う。

問 筋肉が発達するのはどこなんですか。

一 月 ありや、とくに足のくるぶし、骨 髁のあたりにこれぐらいのこぶがえつ出来ます。よりたこというのです。そのこぶが出来るのと痛くないのです。出来るまで背中が痛いのです。

問 どの位？出来るのですか。

一 月 始めてから1ヵ月もやらんと、たこになって出てこんわ。たいたい腰の背中あたりにこぶがちょっと 凹んだところがあります。

問 この地帯としては、いろいろ組合長や果などの方から伺ったのですけど、今のところこういう方法しかないということですね。たとえば択伐とかそれからノコギリ、スノコギリというのがあるし、そういうところに業者が入るにはお金がかかるし、林道も今まであんまり出来ていなかったし、人も他の地域に比べては比較的地元の人の労力もある。あれこれそういうことで、こういうオマケ一番まあ重労働だけでも仕方ないし、まあこれしかないということなのですか。

一 月 この辺は、主に択伐でしょう。そうすると機械力もつかえないし、人力でやる。今は少々畜力の馬があつて、馬にかつかせ

るか、もし馬にかけるとけなけなはやっぱり人間が追うてやる。

それと部落によつて、馬がいれられんという そういう部落もありますからね。

馬を入れるといつことは地引きのことでしょう。つまり馬を入れると逆に穴があいて痛むのでいやがるのです。

問 しかし、たとえば、いろいろあるわけですが、そのことに、さっき話がないという風にあったわけですが、何か別な、たとえば、木馬とか……。

一 月 木馬は相当多量になければいけない。仕方なしにかつかせる。

問 やつている人達からすれば大変なことですね。やりたくないというよつなことも起きるわけですか。喰う手段として、こういうものしかないとしてやっているのですか。

一 月 ええ。

問 いわゆる一般的にいつて不思議に思う。昔から私達は、ここに住まっていたいものですから、いろいろ広く浅くですけどね、あつち、こっち見て歩いて、あるいは果の方が、たとえば金沢でもいいし、果の方が見ていると、果の中でもまあこの地帯は、こういうやり方で木を運ぶというのは、いろんな状況があるけれども、とにかく、かなり危位のものかやられているといつことは特別のことです。それに対して不思議なという。今はマスコミの時代ですから、テレビとか ラジオとか、その他色々の報道機関なんかで、あるいは雑誌でも重労働だということは大変だということを色々な方法で地元の人にも知っているわけですね。

ね。それにかかわらずして 目の前に自分達が重労働をやっているという事について、どついう風にお考えですか。考えるとか 考えないとか、そういう段階じゃないということでしょうか。やるとか、なんとかいうことしやなしに。

昔からやってきたんだけど、荷中が/番手っ取り早いという事で、伐採方法を改良するとか、そういう風にするや、そういうことはおそろくないだろうと思うんですが、なくなるかと思う。皆伐をするとか、そうすれば植林の方法も変わるわけですが。

K 穴水の方へゆくと縦でなくて林の中を横に背負う。

U やっぱり、やりにくいですわ。

K いやかつく人は地方によってよいというのだ。だいたいそれに馴れてね。

問 穴水の方は少し、量が少ないのですか。たとえば、こちらのほうが1度に木の質せおうとすればもっと少ないんですか。

ア 穴水は少ないんです。皆伐です。

ア たくさんかつくということは自慢もあるね。若い頃これくらいかついたという自慢だ。

問 ああ、そうですか。そうすると5人位しかいないのですか。専属の組は5人位ですか。

ア その程度です。

M そいでやっぱり賃金も相当もらわなければやうないね。今では貴重な存在だね。3本 5本の木を伐る時などはね。

S 体をふらんで 安定して、ようやく腰を上げてゆく。体をふ

らんで歩くとすると、相当の力がいることになる。自分の力を100%生かすことができる。

はじめのうちはそうはいきません。はじめのうちは坂を下ってやっとたという事です。

ア カというものは、そう変わるわけではないんです。ほんの紙一重なんです。辛棒強いのが良いのだ。

U 人天は体に抵抗力がついてくるわけです。だからこんな格好のいい人が、こんなものかつげんかと思う時もあるし、またその反対もある。

問 一応最高何歳くらいまでですか。たとえばですね。

S あのと6尺の長さのを尺3位のは、かつげる。そんなもんやね。

N マテとスギは目方がちかう。

U 尺6位のかつげんと ボッカといえぬ。尺3の丸太のケヤキを、下駄はいてかつくんですよ。

問 そういう一辺に労力を消費するような仕事していたら平均寿命なんかやっぱり短いのですか。

S それはやっぱり私の親のような、あゝした重労働の非常に体を酷使した者は、早く死んでおるようですわ。

問 何年位それやられるんですか。コロカンギというものは何という事はないですか。

U 普通は中堅平業してから、45位までじゃないですか。長くやるのは65位ですわ。

ア 今はいないです。節会にあこがれるから。

問 その場合やっぱりこういうかつき方というのは、なくなっ

くるんじやないですか。そうすると今度はいやが応でも間伐でも何でも別の方法を考えなきゃなりませんね。

？ 今、若い人でコロカソギしている人は／＼もあられます。

S 昔この地方は、道でも何でも作ると言つと、御飯たべられないということだった。便利になると生活してゆけなくなったのです。それがずっと変わって来たんですね。

さっき若山さんが言いましたとおり、造林の方が採伐してあちらからも、こちらからも集めてくる、その関係がある。福岡林業関係については、努力は非常にしている。造林にしても伐採もそうです。

社の問題もありましたがね。それもやっぱり同じ、大体それと林道の入ったことと、それによってこれは発達しているわけですね。

問 やっぱり現地の才が一番あれじゃないですか。我々はやはりもう一寸別の角度で見るというのは、こういうコロカソギと言ふ、要するにさっき、Mさんが重労働じゃなくて激労働だといわれたが、確かにやっぱりそうなんですよね。何と云ったって、

ですから人間労働ということからいって果してこれでいいのたろうかと、とにかくいわゆる中央にいて机に向かって実際のことはあまり知らないけど、ほとんど知らないけど、人様の話、こうやってお伺いしてのことからですか、考えようとしているのです。

今までかりに／＼本、ス本伐ったというのは、今後／＼の本とかスの本とか、少なくともそれ位まとまらなければ、出してもち

れないというようになる。労働の方もしかりというまっな形になつて、その要するに伐らす方でも、変わってくるということになる。

問 能登も来て見るとなかなか開けたところですね。

？ 林業労働と農業

U この町は、門前でも、恵まれた地域です。他では／＼万円の金をとる時には山を／＼五歩を切らなければならぬが、ここじゃ／＼の本木だつて出来る。せいぜいまあ／＼の本伐れは出来る。

？ たいたいふとるところはね、／＼年に／＼くらい肥る。／＼寸以上だ。

問 コロカソギは、この三井と穴水と、それから門前と大屋と、その辺では一番ここが多いのですか。

U 大屋の方は、木荷というのは多かった。

X 今では大屋、三井、河原田の順か。

？ すると女の人でも強い人はいるね。

X 現在の残酷物語みたいなものだ。

問 あのう、テレビで出ませんか。九州の宮崎のあたりに、逢岡という所があるんですね。あの奥とかの五家の荘とかありますね。あの辺でやっていると話を聞いたんです。

？ とにかく田園の稲ですね。ここでは。

？ 肩も背、そう受けはせんね。

問 なるほどね。やっぱり林業労働が主なんですね。他の土建とかなんとか。

？ そういう仕事はあんまりやっていませんね。たまに一寸ノ運間かノ日は別のこともする。

問 それでこの辺は普通林業労働専業でやっている人が狙なんかにいる場合は、狙というか社というかそへにいる場合は、何日くらいやるのですか。かなりまちまちですか。あるいは大体決まっているのですか。ノツの社がありますが、その中で平均ノ人が何日くらいノ月あたり働くか。スノ日くらい働くとかノ5日くらいとか。こんなことは余りいえないですか。

ク よう働く人でス3日くらいじゃないですか。農繁期になるとやっぱり少なくなる。農繁期になると半分位、ノ日かまあ5日つとめればいいでしょうね。

問 そうすると、田んぼの方が盛んだったということですか。

ク とにかく組合で雇用されるようになってから、年間そういう状態になったということですが。これと農業の機械化によって、労力があてきた。

問 農業の機械化をしたので労力があまるから山の方へゆく。

ク 何せ山に依存しているわけです。だからね、農家は女に耕林、林伐をしなくては。男はよその労働へでる。3.4チャン農家ですか。

男でも今と反作っていて、農家やっていて農繁期でノ5日もでられるか。殆んど農家は女です。草取りはもらろん女でしょ

う。耕林、林伐するのは今までは殆んど男がしたけど、今にんたんと女性に変わりつつあるね。

ク クロさん機会があったら活動を一度見てやって下さい。

8. コロカソギの生産性

問 この方法は、ずっと前からこの地方にあったんですね。

ク ええ。

？ ノコノ石かたまると、機械でやれんかという具合にに搬出の労働者がいます。

問 やっぱり労働者がいないんですね。

？ 50石か60石か、かたまって、一寸根周りが大きければ、機械でやってくれというような部落の人もいます。

問 やっぱり労働を計算すると、専業主としては機械の方が安いのですか。

？ ええ、安くつきます。

？ かっくということになると、やっぱり長さは大きいもので6尺位にせんね。機械で出すとその倍になって間ものがでる。そこで単価が違ふ関係上、やっぱり機械でやってくれというようなことになる。

問 結構的に、たんと間伐とか択伐の阿邊以前に内部崩壊、労働力の問題で枯渇して来そうですね。

？ 大体ノコノ石以下だと採算に合わないです。距離的にもより

ますけど。

ア こういう例があるんです。仁行に行つて、こうして索を張つて出したんです。そして一寸線をはりかえて出せば、フ尺位のスギの木をやってくれというわけなんです。それはス間材位です。ノ尺ス寸です。そのク尺の木をノ本出してくれというわけなんです。それで張りかえて、三人してノ目を出したわけなんです。それをあんた引張って出したら、三人してノ目なんて絶対出ない。そこまで線がいつておった関係で、条件は良かったわけですね。組合の方にとれたけ金が入ったのか知らないけど、8,000円、7,000円か知らんけど。

M やっぱしそろはんはしいてみて、採算が合うならかつくということですね。

ア そういうことです。事業主の方は横着だからね、人力の半分ほどですね。

M そいで、もう今では大体出材する場合は桀桀で出来るという気持ちになっているのですね。森林組合で機械力持っているから、しかし全般的とは言えないですね。

ア 背中に乗せる気はせんわ。

ア やっぱり、この油(酒)をきかんとやれない。毎晩5合です。その分だけやっぱり日当の方につけてもらうんです。

問 日当の中に、700円なら700円以外に。

ア 700円とか1,000円ほどもらわんとやれん。これをやらんと乾かんわ。

M かつかれた人達が今こうして機械をやつてんだけど、昔は

井のし食べたというようなことがないですか。そういう方面は大分少なくなっているのですか。

ア ええ。

ア やっぱり、オイコにかつくと身長非常にのびんわい。押えつけてらねえ。

ハ 昔は小学校6年卒業して、そのあくる年からかついたものだ。小学校卒業して6年たろう。6年のノ5や、今は苗ノ4よ。

昔から考えると何でもかんでも地獄と極楽という差がある。自分ら学校に行った時分々の年先ですが、栗の靴です。わらじはいて学校に通ったですね。栗靴でなくなったのは、ここ10年ほど前です。これは大分最近というか、戦後でも北海道へ行けば、栗靴をはいていた農家の人もいます。

9 森林組合労務班

ア そいで又組の中、林産の方で、機械と伐採とそういうことになっています。Yさんの方は伐採搬出です。それから、このSaさんの方は、機械が中心です。

昔は社で同じような仕事していた。機械班と伐採班といっている。

問 そうすると伐採班の方は、かつぐわけですね。いや、かつぐより伐る方ですね。搬出もやる場合もあります。かつぎと雪糞と、それから地引きと何でもやるんです。

ハ マッカラーは1分間に7000回転です。

問 組合の場合は、組合でこのメンバーをつくったのですか。

ア いや、これは前からあった社が組合の専属になってできた。

問 機械班も伐採班も同じ形でできたか。

Sc 機械班のことは組合でメンバーを決めたわけです。

ト そういうことも同売が集まってやれば、その人の能力もあるだろうと言うことです。

ア 協力してやっていこうという風な気持ちで、本江の部落の人を中心に、やっぱり、あんまり離れたら連絡つかないので。

問 Scさんがもう林業労働の関係してから何年ぐらいですか。
ス5年ぐらいですか。

Sc さいだけやっています。ス0年だよ。やっぱり学校を出てから。

問 軍隊出たのですか。

Sc 軍隊へいきません。東京もいって来たしの。 2年
ほどだ。東京にいかれた時はノクの時やったね。やっぱり森産
商店に1年ほど。ノタの時に、木材関係に従った。それは本町
です。かつぎはノ0年です。

問 Yさん、社はある程度時々変わるわけですか。

Y (森林組合労務班伐採班) いや、うちの社中は、ずらと変わ
ってませんね。ノ人でおとして、かつぎなんてことはできません。
それでス人で軽い物だったら出来ますけどね。重たいもの
ならノ人してこうしておこして。

問 そうすると、やっぱり、いっぺんにやっていけるということな
ると お互いにやるとなると、良心的に協力してやってあった

ということ。そういう規約なんていうのはあるのですか。

Y ない。

問 働く時間は何時間ですか。その場所によってちがうだろうか。

Y だいたい重労働の関係上やっぱり、6時間ほどです。働く時
間6時間。いわゆる、この家を出かけていく時間は8時ごろ
くらいになる。

ノ丁場の休憩時間。そういうようなことは全然めきにして、
ス時間やると30分休んだ。そういうことはいけないで、かり
に家を8時に出て、現場に9時につくとしします。それから4時
頃までやると、かりに昼休みが1時間としますと4時から5時
に家へ帰ってくるとすると、その場合の9時から4時、まあ9
時間その中1時間とって6時間。そういう様な6時間です。

機械の方も同じです。どの社でも組合関係でない社でも、だ
いたい、それくらいです。

ア 1000円もつく場合になれば、ちょっと1時間や30分が
んばることもある。

受け取りというのは、殆んど受取りですね。受け取って、う
んと仕事やって、そして晩酌を5合ばかりやる。自分の家じゃ
なくて、途中三井のどこかで飲んでいく。

ア 普通は700円ぐらいです。日によってちがうでしょうけど。
受け取りにやると1500円位になります。

ア 体がクテン、クテンにはならず、体力もそんなになってます。
ともかくねえ、毎日、毎日やるんですよ。のめんな人でも1升位
やる。命をちぢめる仕事である。結局年いって残る病氣は 神

経痛、リュウマチ、心臓、胃腸病もある。

Sa やっぱ、これ飲まんければつとまらないです。飲んだ時の話の内容は、おもしろいお話とか、世間の話をし、仕事の打合せもする。やっぱ、かつく人が一番飲むな。

問 何時間位飲むのですか。

Sa たいたい8時間位だな。

? それが楽しみなんだよ。

問 なるほどね。テレビでもかけて、家で晩酌しながら飲むのはどうですか。

? やっぱ、組でカーンとなりながら、わっと騒いでも、いろんな話をして、飲むのがそれがテレビを見ながらよりが楽しみなんです。

問 どういうメンバーが、たとえばYさんの場合は集まったんですか。

Y 一緒の仕事しているもんですから、どうだ一緒にやらんかという様な事で集まって来てやるわけなんです。やっっているうちに離れてきて、またやるかということでも来る場合もあります。

それで、まあ、たいたい1人や2人では仕事は具合悪い、やはり4〜5人いないと、具合悪い。

問 Nさんが入って来たのはどういうわけでしょうか。

Y その人もやっぱ同じ仕事しておったんですが仲間割れというのか、結局意見が合わずで、仕事かうまくゆかんだ場合に、遊んでいるなら、おらと一緒にやるかという具合のことで、まあメンバーになったわけです。おれも、まあ入れてくれとかね

え、そういうことになって入ってくる。

Hさんは最初は炭焼きをしばらくやっていたんですがね。それで炭焼もうまくなかったから組に来た。

それから、このMさんは、土方にしばらくいつていたことがあるんです。昔は林業労働をやっていた。その災害復旧の土方時のね、やっておったんです。それで、また昔の仕事がいいといっぺ一緒にさせてくれと、こういうわけなんです。

問 Yさんの所が中ですね。ここで社といっているのは、何か。たとえば興徳寺とそれから、長沢の社というもの、何か性格がちがうんですか。たとえば興徳寺の方はいわゆる代表者がいろいろな企画、採配をふるつ。それから長沢の方は、そういうものが全く協目的なものだということ。たとえば、賃金の受け渡しとか、仕事のもらつ、どこにどういう仕事があるかという。これは森林組合のことなしに、一般のそのへんのことで、なにか少し性格がちがうわけですか。

Y いや、別にそういうことはない。皆たいたい同じですね。

問 興徳寺の何がわかりますか。そういうことについて……。

今ね、同じ社といっても興徳寺の社と、それから他の長沢とか、そういう社の性格が少し違うかどうか。たとえば代表者が興徳寺の方が代表者の人がいろいろ賃金の受け渡しとか、仕事があるとかないとか、もらったりなんかする場合、比較的その人が採配をふるうということ……、それから、他のところではまったく平等という考え方があるかどうかということなんです。

今ね、Yさんのお話では、全く同じだったんですけど、何かちょっと少し、違う所もあるというようにも思うのですが。

ア あまり、違わないんじゃないですか。

問 それを/つとこか一番わかりやすい社で結構ですから、過去の事でも現在のでも具体的に思い浮かべていただいて、社のお話をちょっとしていただけませんか。どこがいいんでしょうか。興徳寺は？。一番知っているSAさんはどうでしょう。仕事につく段階とかで。

あのYさんの所はいかがですか。前に組合に専属になる前に、お父さんとやられた時は、最初ス人ですか。

Y はい。

問 仕事があるとかないとかというのは、それはどこでわかるのですか。

Y たいたい製材関係とか、木材業者ね。そういう人達がたいたい部落のどこそこに木を何本売ったとか、どこそこにどのくらい伐れるとか、そういうことを聞くんですわ。

問 そうすると代表者でなくて。

ア ええそうですね。やっぱり代表者です。木材業者とか製材業者と交渉します。

それは、どういうことを交渉するかというと、たいたい石いぐらぐらいで出してくれるか。

ア そうですね、計算してね。

問 普通は、たれが計算するのですか。

ア 両方です。そこえ行く前に計算する。

あの木といぐらぐらいでやるかとか、あの山なら、だいたい石いぐらぐらいで出せるか、それまでだったら、いくらで請け買っで来てくれと。それで代表者がいくのです。

それは代表者だけのプランで行くんじゃないんです。社の連中と相談してからゆく。あるいは、全員で行く場合もあります。

問 ああ、そうですね。そうすると、ここでうまくいったと、こっちのペースにのって来たということで、話をすすめるわけですね。

とこの地実の現場で集合するわけですか。皆各人が連絡して、隣り近所なら一緒にいくんですか。

ア /人だけ違う様な場合は連絡して、何時にあそこに集まるとか、皆で相談して集まる。それから、集金のごとは毎日の出席簿というんですか、それを、やっぱり一応紙に書いておかないと、ならないか、たれがするんですか。

ア 個人個人と代表者です。

代表者は、全体のを個人個人で自分のをつけます。

問 記憶だけじゃないですね。

ア ええ、記憶だけじゃない。手帳につける。代表者は出席簿を簡単なノートで作っておる。どういうつけ方をやってるかというのと、/日/人というように記す。途中で帰る場合は○人とかという風に記す。

問 それで、これは月々支払いがあるんですか。

ア 受け取りの場合はちがいますけど、その場合は山毎に精算す

る。

その山に要した人夫によって、金をもらってきて、そしてわけける。

問 普通どのくらいの山ですか。

ア 背中でやると1000石ないし1500石ですね。それ以上多くなると、やっぱり、機械でやろうとする。

問 1000石ぐらいのか多いですか。

ア までですね。

問 えーと1000石くらいあったら何日ですか。

ア 距離が短くても、道が悪ければ、条件が悪ければ時間がかかる。

問 普通は、今までの経験で1000石ぐらいの場合だったら、何日くらいでおわったですか。

SA 大体石500位だった。やっぱり40人ほどに集まらなければ、やっていけないんじゃないですか。そうするとかりに4人の組だったら10日でおわる。天気がよければ。

問 10日で終いは、すぐ金を業者はくれるのか。

ア 1週間以内にくれる。

問 こういう場合だったら、その道の条件にもよるんですけど、いくらぐらいですか。1日何000円位ですか。

ア もうすこし、日当て10000円になるか。うけとりで。

問 そうすると、1人が40人だから、40000円ですか。

ア そういうことです。

問 代表者が交渉に行ったりした場合は、日当に入らなくて

か。

ア そう。はいります。とこの部客でも同じ。たいたい代表者の仕事は半日位ですね。長く話かまるとまる場合もあります。

問 それから、こういう交渉のことは、このほかにあるのですか。

ア いいえ。後はないですね。

問 途中で、たとえば、おしわらない出しかむすかしかった時の交渉なんかはないですか。

ア 余りない。

問 それで機械班のYさんのお家は、親子で住んでおられるんですか。現在何人ですか。

Y はい、そうです。私の父じゃなくて、一正は子供は3人。

問 じゃ全部で5人。おばあさんと2人つきり。

Y じゃHさんという方は、5人家族。それから、Maさんは6人。それからNaさんは3人。Naさんは田んぼ4反くらいじゃないですかね。台帳面積でなくて実際面積です。

問 Maさんは、田畑は、いくらですか。

Ma (森組労務班) 田が4反5畝。それから畑5畝。

問 Hさんは?

H えーと、田んぼ5反。

問 Yさんは?

Y 田んぼ6反、畑5畝。

問 お父さんの方ですか。

Y いや、山は別にないです。

問 Hさんのところの山は、いくらですか。

H (森組労働班)台帳面積でノ反くらい。スギ、アテです。

スギは造林地です。

問 それから Maさんのところは？

Ma 山林は3反歩です。スギ、アテです。人工林です。

問 それから Naさんは？

Sa まあ、ス反歩ほどある。同じスギ、アテです。

問 そうして、Naさんのところは、過去の仕事というのは、それから現在の仕事の主な仕事は何ですか。

Sa 林業労働です。畑の農業経営じゃなしに。

問 Maさんのところは。

Sa まあ、皆と同じじゃないですかねえ。Hさんは、前ははうく、ノ年もス年も木炭焼きをやったんです。人の山を買ってたんです。

問 Yさんの所もずっと林業労働ですか。

Y ええ、そうです。かっぎと伐採です。

H Ma、Naさんも皆同じです。

問 Hさん、Maさんなんかの息子さん、Naさんなんかは、どうされていますか。

A Hさんは、能登森の方で働いています。Maさんは土木業に切っている。土工ですね。これは当地でやっている。

それから、Naさんの息子さんは、京都か、名古屋の運送業をやっている。運転手です。

問 要するに、ここに今それぞれいないわけですね。

A ええ、ここにみられるのは、Yさんだけです。機械班の方、は、組合でピソクアッスされているわけですね。

？ ええ、そうです。

それから、この組合自身が専属になったわけではない。Yさんの方は、組があつて組合より呼びかけてきた関係で、そっくりそのままでできた。

問 Saさんは、組合の前にワイヤーをやっていたのですか。

これは、Saさんの場合は、最初の昭和30年から36年までの間は女工ですか。

Sa ええ。

問 これは、Siさんという方はどこですか。部落は。

Sa 皆本江です。

問 それから、その前のス9年ですか。

Sa それは、やっぱり、かっぎですわい。これは皆一緒や、代表者はない。

問 Wさん、もうすでに一緒だったんですか。

W (森林組合労働班)えーと、その時、Saさんと一緒になったのです。本江です。3人とも一緒です。その前のY、Maさんも本江です。

問 その前の、Na、A、Yさんは。

Sa Yさんは、申です。それから、Aさんは、本江、Naさんは、奥徳寺。

問 これは、どういう関係で仲間ができたんですか。呼びかけの動機は？

Sa ちこうからまぜてくれというので加えた。

問 製材は、これはどこの製材ですか。

ア 係出製材。

問 その前はこれは今なんですか。昭和19年か20年は。

ア これはまだメンバーをこしらえていない時で、兵庫県赤穂へ木専に行った時です。

So 兵庫県に行ったこの6人のほかは、まだク、8人いたが、みな三井の人です。合計で15〜6人いたでしょう。

問 そうするとやっぱり、そのオは皆かつぎやなんか、やっていたのですか。

So ええ、伐採から かつぎまで。

問 これは どうしていくようになったんですか。

So 守田さんの弟さんが、むこうにいていた家が木材業者なのでね。

問 ワイヤーに移られたのは、どういう動機ですか。

So ワイヤーやってみたらどうやということ。

問 どこから活込まれたのですか。

So 輪島で飲んで七尾までのり越してから、それから話が2、3人で始まった。

問 もう、かつぎの段階じゃない、一つ先駆的にワイヤーやってみようじゃないかと。ワイヤーの技術者、誰かいたのですか。

So そんないなかったです。皆自己流で、素人なんです。やり方も仕事におねいって見たのです。

問 とっから技術が入って来たんですか。

ア やっぱり、適当にやっていた人のをちょっと見てきたのです。河原田での上野さんという人のをみて来た。

問 年令はSaさん以外教えていただけますか。

ア Naさんは、23。

ア Eさんは、41ぐらいですか。

ア Saさんは、37。

ア Wさんは、17。

ア Yさんは、28。

問 それから、この3人の関係は、どういう風になったんですか。

So いやその場合によってグループが集まって、一つあれを受け取って出したらどうかということで組になった。

そうすると仕事のない場合は、組は、ばらばらになる場合があります。農繁期になると組がばらばらになる場合がありますわけなんです。農繁期が終ると一つ気のあった人がやろうじゃないかということになり、その時に、あるいはメンバーがくすれる時があるわけです。その時にまあ別のよび口があった場合、こっちの過去のメンバーにこだわらないで組ができるわけです。

問 金がほしいという場合は、こっちへつくわけとかいう風には、

問 農繁期というのは、

ア 4月、5月が一番忙しい、それと9月、10月ですか。5月と10月のこのころは木材は余りでない。

問 たいたいそうすると、比較的年令の似たような人が入っているようなことがいえますね。

それで東京から、こっちにもどらしたというのはどういうことですか。東京の方が面白いですよ。

So 東京でいい仕事につけば、都会もいいけど、あんまりぱっとせん仕事やったもんだから。で兵庫県へもゆき、この土地としては、隋分あっちこっちへ行った方ですね。当時もさそれれて、賃金がいいといわれて行ったのです。

10. 三井の林業労働一般。

問 ここは全く平等、年令がちがっても、そうすると経験をした人、さん積んだ人は、何か損するみたいな感じもしますね。

？ だいたいかつくということになれば、やっぱり年令によって差が出てくる。

それから経験積んでおっても年がよってくると、力がなくなってくるとあまりかっけない。年をとった人は、数をふんてゐるから経験者みたいな恰好で、なってくるんですが、他はそういう時はやっぱりびんはねするらしいわ。三井はそんなことしない、皆平等に分けている。これだと三井はまあ結構なことですよ。

人間はいいというか。

問 そうすると、ここで何て言うんですか 製材業者でも木材業者と言うんですね。木材業者というものに直属の労働者というのは、いないのですか。

そんで専属に何々木材業という業者の金だけ振うのでなしに、ちゃんとこう労働者のきちんと、たにしていける……。

え、3年前は専属がいたんですけど、今のところ、たいたい冬にやっている。

普通の業者になれば、今でも専属はえ、えある。

問 ああ、そうですか。そうすると、その専属はどういうのですか。木材業者の専属ですか、製材業者の専属ですか。

？ 木材業者の場合もありますけれど、製材業者の場合もあります。製材業者は一つ能登林産だけです。

問 能登林産は馬力はいくらくらいですか。

？ え、馬力くらいなもんでしょう。え、馬力、それでこれはどういう専属としてやっているんですか、何人くらいで。

？ 4人から5人やね。

問 これは、カツギの人ですね。カツギの人は名前なんて言うんですか。

？ Ta. Az. Ky. それで部落は長沢。3人は中村。

問 この4人はずっと長い間ですか。

？ いや、え、3年前ですかね。

問 専属だとどうということですか。仕事は月給ですか。

？ 月給ですね。仕事の無い時はほとんどない。山の方が切れた

場合、製材をやるとか土場を何かしたり、貨車積み荷をする。

問 製材エミたいなことはやらないですね。

ア ええ、あんまりやりません。後のカツギをする人は、カツギで、伐木をしたりで造林はやらない。

問 森林組合は専属ですね。仕事はなんか、かんかはあるわけですね。かつぎの切れた時は、どういうことをするのか、かつぎが切れるということはないわけですね。

ア そうです。

問 後、木材業者なんかで専属の林業労働者の形をとる所はありませんか。

ア 山下木材は新保部落です。Kt. Ki. Hs の3人います。

問 部落はどこですか。

ア 市の坂です。

問 専属になってから何年前ぐらいですか。

ア これは3年ぐらい前だね。

問 前にこれだけを1つ組をつくっていたのですか。

ア そうです。それだけの時もあり、またそれより多かったこともあるんじゃないんですか。そういう組があつて、そこに山下から自分の方の専属の組にならんかといったわけですね。

問 おいくつぐらいですか。だいたいでいいです。

ア Mn は36〜7ぐらいだ。Kt さんは38〜9ぐらいかな。Ki さんは36ですかねえ。Hs さんは34〜5でしよつ。Ta さんは今50ぐらいやろう。

問 フリーにいる ところにも新保に属していない人は何組ぐらいある

んですか。

ア 本江、正力（興徳寺）合同で1組、仁行に1組、新保に1組です。正力にもう1組ある。

問 これ以外にないのですか。ワイヤーを使っているというようなのは。

ア ないね。

問 代表者と普通のコロカツギの労働者の方と何か生活に困った時に、生活費を貸りたりする、米、みそ、醤油を貸したりなんかすることはないですか。

ア そんなひどいところまではないです。

問 興徳寺なんかでもないか。

ア ほとんどないですね。

問 その仲間同志でのみ代を借してくれという様なことは別として、生活費の貸し借りはないですか。

ア そういつ事はないですね。

問 飲み代の貸し借りなんかは？

ア そういう事もあんまりないです。皆、とにかく平等で、割かんでゆく。

問 以前は、なかったんですか。薪とか、そういう燃料を自分の山でとらしてやるということもないですか。

ア そういうことはないです。

問 穴水が横にかつぐとか。

リ 横にかつぐですか。自分は知りません。

問 いろいろ、昨日話しかでましたが、横に穴水の方は、かつぐ

とか、河原田の方は女の人もかつぐとか。

し ええ、女の人を使ってかつぎます。

問 あと、田鶴族の方もあるとか……。

し いや、自分は背中を利用してカツクより見たことはない。

問 この辺でアテたからかつくんじやなくて、要するに、物をかつぐという時は、こういう恰好のものですか。

し やっぱり背なでカツク場合は全部背を、それから、何を担ごうと荷を担ごうと、男の人は、こういう背なを使っているわけですが。それから女の方はマテマテとかいう名称の背なを使っています。

問 何ですか、マテマテというのは。

し 恰好はやゝこれと類似しているか、やはり、もっと背中にあたる具合が、やわらかくあたります。非常にやわらかくあたりますね。これは丁度板の様な大きいガツチリしたものに作ってあります。野務さん、マテマテという品は、この辺で使いませんか。わらしの様なわらをねってねって、非常にやわらかく打ったわらを、横でこうして丁度わらしをつくる様な恰好で作ってあるのですかねえ。

下 (三井森林組合野務) 三井には、見たことも聞いたこともないわ。

し 自分の方ではこの品を、この品はコロカツギとかね、男の人が荷かつぐ場合も、こんなのを使っています。町なんかへ荷物なんかに出る時は、やわらかい品を使っています。

問、しかし、これは、どこから入って来たものでしょうか。荷が

らあるのでしょうか。

し この辺で研究されて作ったものじゃありませんか。

下 おそらく必要にせまられて、発明したということではないですか。

問 かつぐ^{もた}背^なというものは、昔もああいう形ですか。全く同じ形ですか。

し ええ。

11 森林組合の最近の問題

問 話がかわりますけど、最近の森林組合で、たいたい三井での名くらい振うのですね。そのいみで、かなり大きな産業のより前になっているだろうし、これからの森林組合の問題点は、組織とか、指導の面とか、事業、労務とかの面で一番問題になっている実を将来どうするかということですか。

下 最近、どうも問題あるんですけど、これは、いかにも少ないといえは少ないようなことにもなるし、しかしそれが年間一定した種目の量があれば、そこへ労務が集まると、そこへ集まれば集まったなりに能率を上げて、仕事をいかにも少ない様な感じはしても、少ないながらに能率を上げて、大きいコストを上げるといふ様なそういうことははっきりいえますか、ただ個人個人に林業のいろいろな仕事をやってゆく場合に、今日はどこどこに3日なり、5日なり、次は又どこどこに3日なり、5日

なり。そういう様な事で、そうならは頼む人も頼みます。拝みますという様な調子になるし、行くものも、義理にでも行かんならんという、そういう様なことで、仕事の量をまとめて、それに専従できる労務体制をつくっておけば、その仕事をより以上に、いくらも同じ人数の労務をいくらもやっていけるのですが、そういう真仕事を計画的に、安定した仕事を与えてやる、そういう恰好でなければならんのです。

そのためには、やっぱり森林組合の場合は、公団の分収造林を200町歩ほど契約しておりますし、それから県行造林も100町歩あるし、たいたいくへ80町歩ほど、公団造林なり、県行造林なりだけでも、やっているわけなんです。60町、70町歩の仕事が森林組合が引きうけて、ちょっとやれるかどうかという様なことは、皆目むずかしいように最初考えていたのですが、実際やってみれば、僅かな労務者でそれが安定して年間その仕事に責任を負うという事になれば、簡単に出来て行くけどね。

そういう事からして労務管理を森林組合の組織にある程度掌握して、そして仕事の量をまとめて、そしてそういうものを請け負ってやらなければならないという場合、そういうことでこれから進めたいと思うのです。しかしそこに、個人個人にしてみれば、僅かづつの仕事になるわけです。僅かなるが故に、そう大がかりで森林組合のを頼んでやるということよりも、自分の身近な働らく、家内労務なり、それから自分の手近な人手を雇ってやらなければならないという、そういう観念を、すべ

からくいかにも企業的に、その仕事を片付けていくという様な事をなしに、そうした森林組合に任せるといふ様な気持ちで、仕事量がいかにも多ければ、任せなければならんし、そういう気持ちにもなりますけど、中々そこまでは、まだむしろ少ないために、踏み切れないというような恰好です。

そういう一つの森林組合としては、個人個人としてみれば、細かいわけなんです、かためれば相当量になるわけで、それによって達成していけば能率も上げられて、他の仕事を考えるということも出来るわけなんです。

で、今その林産事業の取り扱い数量が年々ふえるという現状です。森林組合の同時に出資金の増資もお願ひしたのです。

そして内容的にいかにも、まだ力のあるところは、いいんですけど、一つの偉容というものも大事で、そこにやっぱり組合に対する信頼感というのか、立場、そのものに対する、そういう一つの錯覚かも知らんけど、そういった信頼感の1つになるわけです。そこにやっぱり取員の仕事に対する熱意なり、そういうものが認められて、取員のそうした熱心さが信頼ということに結びつく。

問 これから量は伐採量、造林量、両方ともややずつふえてゆくという見通しですか。

答 それは、現在急が、これはゆくゆくは半分にはなるです。

問 造林は、県行造林と公団造林は組合でやっているわけですか。

答 ええ、それは公団造林の場合は、三者契約で、森林組合も一部分は分収されるわけです、三者契約ということ、もちろん

分収の時期には、ノ割増が約束されているということですから、将来にはそつした力が森林組合にそなわれるわけですね。

問 何か事業上の問題というか、計画といいますか、そういう様なこといかがでしょう。

F それは、やっぱり、あくまでも植林面積をふやして、今までの33%ないし35%のものを、50%から60%まで持っていきたいと、こういう風に思っているわけです。それから実際公団との契約を伸ばしていけば、その仕事をやれば、その実績が上がるということにははっきりしているわけです。

問 林産事業なんかはどうですか。

F 林産事業は、たとえば製伐工場もいろいろ考えて当然組合なんかで経営してもいいという様な理窟の上からは、そういうことははっきりいえるし、そうせにやならんわけなんですから、しかし実際経営ということは、組合が前にもノ軒製材を持って失敗に終った経験があるものですから。

問 いつころですか。

F それは終戦直後だったかねえ。終戦直後の、しかもその木材景気のいい最中なんてあった時でも、みな失敗に終ったのです。あの失敗の原因というのは、経営のやり方が異なっていたことですか。実際その仕事にたずさわってやっていると、人の問題、そういうところがやっぱり少し欠けていたということなんですかね。

単なる組合の団体の仕事で、採算と言うことをそう特別に考えておったが、いきあたりばったりにやっておったという様な

そういう事で、もう少し積極的に、その当事者が考えてやれば、そんなことにもならなんだと思うのだが。しかし、これからは、製材というものは、ちょっとそういう経営面に自信がないもので、今のところは5カ年計画の中では、それを考えていないのですけど。

問 買い取りと販売というのか、買取りと委託ですか、どういうやり方なんですか。

F 買取りというのは、結局立ち木のままそれを評価して組合が買い取って、植林するといったものです。委託の場合は、組合がその立ち木の寸検を、山主と立合ってもらって、別に寸検を立ち会いしなくてもよいが、とにかく、これだけのものを組合に任せるから、伐倒、搬出、販売、そういう様なものを全部まかされて、実際売り上げた価格の5分を組合が手数料としてもらう。そういうことが買い取りの場合が、山主が他にもこの立ち木で、これだけ石数がある、これだけに売れば、よしんば森林組合がどれだけもうけがあろうか、山主の胸は一生満足たという様なことでなければ、立ち木の買い取りの商いは出来んわけです。それには、あんまり森林組合はどれだけもうけると

そういうこと出来ん人は、委託をするような恰好になっているわけですね。

問 そして8割くらいが買い取りですか。

F 買い取りの才が多いですねえ。8割までがどうですかねえ。委託がやっぱり少ないですねえ。こういう山とところで、いわば材木

に対するいろんな常識というものが、言ってみれば、仮にス～
る人集まれば、木の話の出ん様なことかないというほどの、そ
れくらい材木に、お互い山主においても、そうした常識がつい
ていつてゐるわけですから、一応価格の相場なんかを見きわめる
上にも、これくらいが適当であるという様なことは、皆承知し
てゐるわけだから、商いも案外容易に出来るわけです。これが
いかにも値いのわからん相手と商いするということは、これは
難かしいことですね。そういうような場合は森林組合は立木の
商いをせずに、委託でやらしてもらおうということでもって
ゐる人です。

たまにはそういう人もおりますけども、しかし全般的になが
めて、そうした知識は一つの常識として、皆山主はこころえて
おるわけです。

山どころらしいことですね。他の地区なんぞへ行つて、山は
たくさんあつても木を一本売ったこともなし、相場の全然わか
らん人がとたんに安売りして、という様な話も聞くこともあ
るんですけど、そういうことに比べれば、三井なんかさすがに山
どころで、そうしたことはまずありえんですね。

問 買い取りというのは、一旦打ち切られるわけですね。そこを
果たして予想通りに売れるかどうかということ、極端な場合は
組合が潰れてしまうわけですね。

たいたいしかし成功しているでしょうね。

下 今も話しました様に、売る人も買う人も材木に対する相場と
いいますか、これだけ石数があつて、相場はこれだけだからこ

ういうところで商いしてもいい、せにやなんしやないかとい
う、そういうなことで、もちろんそれはある程度の利潤を含め
た計算をして、そういう単価をつけるわけですし、ほかはもう
全然もうけを無視して、というような無茶なことも、たまには
そういう相手もあつて、商いもむずかしいこともありますけれ
ども、しかし、商いが出来るということは、お互いにそうした
相場が出来たということですよ。

問 売り先は穴水へ全部ですか。

下 輪島、ほとんど少ないですね。

問 前は多かつたんですか。

下 前は輪島塗りの関係で、それから交通の不便なところから、
あまり遠方へ持つて行く汽車がなかったり、それから自動車が
なかった時分は、もちろん輪島塗りなんかの木として、必要な
ものが少しずつ商ひされていたが、もう全然金にならない。そ
ういつ時代ですから、そのような時の輪島の立地というものは
大きかつたわけです。今はどういふ細いものでも金になるわけ
で、穴水が主ですね。穴水は富山との関係で結びつきがあるも
のですから、富山との取り引きということにもなるわけです。
魚津とか伏木、新湊などです。

問 それでは輪島、穴水以外には金沢、羽咋……。

下 それは、金沢へも少しは出ますけれど、田鶴浜は建具の産地
で、建具屋へ直接でそこへ相当大きいものが、たいふ出るわけ
なんです。

問 そうすると穴水に9割、田鶴浜が8分位、輪島2分位ですね。

F 森林組合だけでなく、村全体の数量です。

問 森林組合の割合も、村と大体平行しているわけですね。

F そうですね。

問 今一番問題になっていることは、さっきの労務関係のことですか。組合の経営者といいますか、専務さんとか組合長さんとか、そういう立場として、あるいは建物の大きくしたことにいて、あるいは別に、そこに問題というものがなく平穩無事、あるいはアデが将来一体どうのびるのだとか、さっきスギからアデへ、スギのオがまあ少し売れて来ている。アデが少しとまっているという、はっきりと云えないかも知れないが、とにかく若干そういうことですね。

F 短伐期林業というようなことを言われるものですから、どうしてもスギの方がずっと最近伸びてきておりますが。

経営もなる程そういう面からすれば、むしろ全部スギでもよいというようなことにもなるわけですが、これは陰樹性を利用してスギの間に植えて、スギを伐った後にも、またアデの山に変わる。そういうことからすれば、ただそういう考えで進めていくことは、危険とは思いますが。

たまたまアデ苗の生産が一時とたえて、今十分でないようなら、これをもう少し伸ばしていかなければならないと思うんです。スギ苗も同様、県外からも入って来て、それでも地元で健苗を造って、それを使うということは原則ですから、地元にもう少し苗木の増産をせねばいかんので、苗木の設置も考えたり、それから個人個人に対しての割当て生産というようなことも、しい

てお願いしたいと思っています。

問 伐期が変わって来ているという、なにかデータがございますか。それが何かとこかの資料にでも来ているのではありませんか。従来とかわらないと思いますか。

問 そうですか。

F というのは今までは交通不便で、細いものは金にならなかった。今はどういうものでも金になる。そういうことで、建築様式も大きいものはいらなくなつて、細い柱材、角材の需要が急激にふえてきたし、これから、そういう傾向になつてゆくだろう。そのためには細いものでなくてはならない。細いものを伐るということは、言うまでもなく短伐期ということと結びつくわけです。

問 今は、いくら位ですか。

F よく伐られる一番多く切られるものは、アデの真価を、今の単価からすれば、アデのノの尺なり、それからノ8尺、ヌの尺の柱材、この単価が一番いいですね。

こういうものと、建具の材になる目廻り4尺以上から、そういうものアデのカマ子材、そういうものの単価は、はるかに割合がいいですね。建具材というのは、たいぶなくなったですね。

しかし、そういうものが大径木がどうにかまたある間は、どうしても細い木というのは太り盛りの木で、そういうのは伐りやすい。そういうことから、大きなものがある間は、どうしてもそのしめる率は、たとえ単価がいいにしても、若い太り盛りの木を伐るということは、よほど金かかって石山でも伐らなければ

ならんと、そういう事柄の人位で、その量も、量からいえるは多いんですけど、実際山主の手前には、そういうものはあんまり高くない。

問 大体何年位前からですか。

下 ええ、それは40年位ですね。

上 大径木の中で小径木のあるやっが柱材に一番よいのではないですか。

下 40年もの小径木が出来るもので大径木の中にあつて小径木の70～80年から90年にわたつて、若くて50年以上ですね。一番よく販売できることはね、やっぱり50年、60年ほどの材が一番出されているわけです。

柱材の中に、寸からいえるは細くて、それだけ50年、60年までかからなくても、柱材は出来るわけなんですけど、いかにも良質のものは大径木の中にあつて太りが細くて年数をかけて、それくらいの太さのものが、一番いいわけなんです。そういうものは数は少ないですね。しかし需要からいけば、たとえ若くても、40年でも、そういう寸法のものが1番必要とされている時代ですね。

問 それから建具、製材は。

下 それは80年位から100年位のものが、該当するわけですね。

問 スギはどれくらいですか、伐期は。

上 スギも40年か50年でしょつね、一般にいつて。

問 え、3年はどうですか。やはり1年1年小径木がたんたん高騰してきたもので、それには大径木伐採の柱材が利用されるわ

けです。

下 40年よりは若いものはないですね。

問 40よりもうすこし大きくなつたんですか。え、3年前も同じですか、42年ですか、45年か50年位ですか。

下 今までは大きかったですね。それは小径木の方が割高になつたのは、かれこれ7、8年たちますか。今から7、8年前につまり30年頃では、40年のものが50年以前であつたり、そんなことで。

問 60年から80年か100年というのは、ノス0年だったり、アテの場合は。

下 それも70～80年ですね。

問 スギは40～50年だったが、その当時は。

下 スギは60～70年ですかね。

問 それから昭和24、5年ないし20年、終戦まもなくあたりは。

上 その時分は、まだ大きいのは割高でしたね。